

病院のご案内 2018



University of
Tsukuba
Hospital



特定機能病院の “真”の機能強化を目指して —マグネットホスピタルの構築—

筑波大学附属病院長

原 晃



今年4月より筑波大学附属病院の第13代目病院長を拝命いたしました。県内唯一の特定機能病院である当院の管理・運営を任され、その重責に身の引き締まる思いです。地域医療機関の皆様と連携しながら安心・安全な医療を茨城県内の皆様に提供できるよう邁進してまいりますので、何卒ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

さて、本院はこれまでも特定機能病院のミッションである高度急性期医療の提供に力を注いで参りましたが、今年度より大学病院のもつ専門性とその役割をさらに強化し、数十年先を見据えた「“真”の機能強化」をコンセプトに様々な施策に取り組み始めたところです。

「高次救急センター」の設置はその一つです。県内の救急医療の中核病院となるべく「高度救命・救急センター」の承認を目指して、三次救急医療機関で対応困難な合併症保有救急患者さんや難治症例を受け入れ、茨城県内の救急医療体制のさらなる充実と救急医療施設の効率的な運用をバックアップしていきます。また、県内唯一の医育養成機関として、茨城県の救急医療を担う医療人の育成にも努めていきます。

また、難病が疑われながらも診断のついていない患者さんの早期診断・治療を目的に「難病医療センター」も新設いたしました。当該センターにより、早期に診断を実施し、身近な医療機関で適切な医療が受け入れられるようにサポート、学業・就労と治療を両立できる環境を医学的な面から支援して参ります。

加えて、当院ではかねてより県内の地域医療提供体制の整備と質の向上を目的に行政や医師会等と連携しながら「地域医療教育センター」の設置・運営に取り組んできていますが、今年度は筑西市に新たに開設される「合同茨城県西部メディカルセンター」内に筑波大学と自治医科大学が協働し県内初となる2大学合同の教育センターを稼働させ、県西エリアの医療充実に貢献していく予定です。

さらに、本院を受診される患者さんの利便性向上のため、既存病棟Bの全面改修、手術室の増室、SCU（ストローク・ケアユニット）の整備、医療機器の更新、外来化学療法室の拡充を推進、医療スタッフの充実等により、快適に治療を受けていただけるような環境整備にも力を注いでいくとともに、ISO機能強化による医療安全・感染対策にも取り組んで参ります。

地域の皆様に信頼される医療機関を目指して、職員一同精進してまいりますので、何卒ご支援の程よろしくお願い申し上げます。



1975年(昭和50年)	4月 1日	■ 附属病院創設準備室設置
1976年(昭和51年)	1月31日	■ 病棟(B棟)竣工
	3月27日	■ 外来診療棟(A棟)、中央診療棟(C棟)竣工
	5月10日	■ 以下の部等を設置 事務局に病院部(現 病院総務部) 附属病院に15診療科、検査部、手術部、放射線部、材料部(現 物流センター)、薬剤部、看護部
	10月 1日	■ 附属病院開院
1977年(昭和52年)	4月18日	■ 第3内科、神経内科、脳神経外科設置 救急部(現 救急・集中治療部)及び病歴部設置
	6月15日	■ 特殊診療棟(D棟)竣工
1981年(昭和56年)	3月20日	■ 病棟(E棟)竣工
	4月 1日	■ 分娩部(現 総合周産期母子医療センター)設置
1982年(昭和57年)	4月 1日	■ 理学療法部設置
1988年(昭和63年)	3月30日	■ MR棟(F棟)竣工
	5月25日	■ 卒後臨床研修部(現 総合臨床教育センター)設置
1990年(平成2年)	6月 8日	■ 集中治療部(現 救急・集中治療部)設置
1992年(平成4年)	4月10日	■ 輸血部設置
	12月15日	■ 外来診療棟(A棟)増築竣工
1994年(平成6年)	3月22日	■ MR棟(F棟)増築竣工
	5月20日	■ 光学医療診療部設置
1995年(平成7年)	4月 1日	■ 病歴部の改組により医療情報部(現 医療情報経営戦略部)設置
1997年(平成9年)	4月 1日	■ 病理部設置
1999年(平成11年)	2月15日	■ (公財)日本医療機能評価機構より認定
2000年(平成12年)	4月 1日	■ 理学療法部の改組によりリハビリテーション部設置
2001年(平成13年)	4月 1日	■ 血液浄化療法部設置
	9月 1日	■ 陽子線医学利用研究センター新施設完成
2002年(平成14年)	4月 1日	■ 臨床医療管理部設置
2003年(平成15年)	3月31日	■ MR棟(F棟)増築竣工
	4月 1日	■ 医療福祉支援センター(現 医療連携患者相談センター)設置
2004年(平成16年)	2月15日	■ (公財)日本医療機能評価機構の認定更新
	3月 9日	■ ISO9001:2000認証取得
	4月 1日	■ 国立大学法人化に伴い国立大学法人筑波大学附属病院に変更 中央診療施設、特殊診療施設が診療施設として統合 病態栄養部新設
	6月21日	■ 経営戦略室設置
2005年(平成17年)	6月29日	■ 茨城県より総合周産期母子医療センター指定
	7月 1日	■ 緩和ケアセンター設置
2006年(平成18年)	3月 2日	■ 本学に筑波大学附属病院再開発推進室設置
	9月25日	■ (公財)日本医療機能評価機構の認定更新
2007年(平成19年)	2月 1日	■ つくばヒト組織診断センター設置
	3月 9日	■ ISO9001認証更新
	7月 1日	■ 臨床腫瘍センター(現 総合がん診療センター)設置
2008年(平成20年)	2月 8日	■ 地域がん診療連携拠点病院指定
	4月 1日	■ 外来化学療法室設置
	7月 1日	■ 医療機器管理センター設置
	9月24日	■ NPO法人卒後臨床研修評価機構より認定

2009年(平成21年)	4月 1日	■	水戸地域医療教育センター設置
2010年(平成22年)	2月12日	■	ISO9001:2008認証更新
	4月 1日	■	ISO・医療業務支援部設置 かさま地域医療教育ステーション設置
	10月 1日	■	茨城県地域臨床教育センター設置
	12月27日	■	放射線治療品質管理室設置
2011年(平成23年)	4月 1日	■	ひたちなか社会連携教育研究センター、臨床研究推進・支援センター設置
2012年(平成24年)	4月 1日	■	感染管理部、日立社会連携教育研究センター、 土浦市地域臨床教育ステーション(現 土浦市地域臨床教育センター)、 北茨城地域医療教育ステーション設置、国際戦略総合特区推進室設置
	6月18日	■	国際連携推進室設置(現 国際医療センター)
	7月 1日	■	茨城県小児地域医療教育ステーション設置 附属病院の英語表記名を「University of Tsukuba Hospital」に変更
	9月10日	■	いばらき治験ネットワーク設置
	9月30日	■	新棟(けやき棟)竣工
	12月 1日	■	ボランティア室設置
	12月26日	■	新棟(けやき棟)供用開始
2013年(平成25年)	1月 1日	■	小児総合医療センター、小児集中治療センター設置 茨城県より小児救命救急センター指定
	2月 1日	■	病床管理センター設置
	2月 8日	■	ISO9001:2008の認証更新
	4月 1日	■	認知症疾患医療センター設置 茨城県より認知症疾患医療センター(基幹型)指定 陽子線医学利用研究センターに先端粒子線研究戦略室、中性子医学研究開発室設置
	9月 1日	■	つくば市バースセンター設置
	10月 1日	■	臨床心理部設置
	11月 1日	■	つくばヒト組織バイオバンクセンター設置 茨城県災害拠点病院指定 (公財)日本医療機関評価機構の認定更新
2014年(平成26年)	1月 1日	■	未来医工融合研究センター設置
	7月16日	■	取手地域臨床教育ステーション設置
	10月 1日	■	陽子線治療センター設置
2015年(平成27年)	1月 1日	■	リハビリテーション科設置
	4月 1日	■	腫瘍内科、総合災害・救急マネジメント室設置
	6月 1日	■	つくば臨床医学研究開発機構設置
	7月 1日	■	神栖地域医療教育センター設置
	8月 1日	■	遺伝診療部設置
	9月 1日	■	患者図書室「桐の葉文庫」開設
	10月 1日	■	つくばスポーツ医学・健康科学センター設置
2016年(平成28年)	4月 1日	■	茨城県災害・地域精神医学研究センター設置 国際連携推進室から国際医療センターに改称
	10月 1日	■	つくば予防医学研究センター設置
2017年(平成29年)	4月 1日	■	脳卒中診療グループ設置 品質・安全管理課設置
2018年(平成30年)	4月 1日	■	病院総合内科診療グループ設置 高次救急センター設置 難病医療センター設置 合同茨城県西部地域臨床教育センター設置

三次救急医療機関で対応困難な合併症保有救急患者・難治症例を受け入れ 茨城県内の救命救急センターを24時間体制でバックアップ 「高次救急センター」運用スタート

平成30年4月より合併症を有する患者さんや難治症例を24時間体制で受け入れる「高次救急センター」の運用を開始しました。本センターは、三次救急医療機関でも対応困難な重症救急患者を受け入れることを目的に設置される院内診療施設で、県民の皆様にご安心いただける救急医療の提供と、将来的には「高度救命救急センター」の認可を目指します。

現在、茨城県内には7施設の三次救急医療機関と67施設の二次救急医療機関がありますが、茨城県内では「高度救命救急センター」の認可施設はまだありません。そのため、これまでも精神科、周産期、小児科、感覚器（眼科・耳鼻科）外傷、慢性透析などの合併症を有する患者さんや、広範囲熱傷などの複数診療科・多職種スタッフのマンパワーを要するケースは当院が対応させていただいていました。今後当院が「高次救急センター」を新たに整備・運用し、各地域の救命救急センター・救急病院とのスムーズな患者連携やバックアップ機能を担うことにより、茨城県内の救急医療体制のさらなる充実と救急医療施設の効率的な運用が促進されることが期待されます。

また、全国的にも医師不足地域である本県では、救急専門医の不足は更に問題です。従って次世代の救急医療を担う人材の育成は急務であります。高次救急センターは、若手医師に対して救急・集中治療の最前線としての教育・研修の現場を提供し、将来の本県、そして全国の救急医療の核となる人材の育成にも努めていきます。



茨城県鹿行地域の心疾患医療の充実に貢献 筑波大学附属病院—神栖済生会病院 映像配信システムによる遠隔治療サポート運用スタート

筑波大学附属病院と神栖済生会病院は、平成29年9月19日から「映像配信システムによる遠隔治療サポート」を開始しています。同治療サポートは、直線距離で約68kmある両病院を映像配信システムで結び、映像配信システムを通じて、神栖済生会病院における狭心症や不整脈を抱える患者さんの実際の治療を指導するものです。

これまで神栖市内の公的病院では、狭心症や急性心筋梗塞の治療法であるPCI（心臓カテーテル治療）や不整脈の治療法であるカテーテルアブレーション（心筋焼灼術）を行っておらず、神栖市におけるこれらの患者さんは平均で50分以上かかる近隣の病院に搬送されていました。その結果、神栖市における急性心筋梗塞の死亡率は全国平均を大幅に上回る状況となっています。

同治療サポートはこうした状況に対応すべく、PCI、アブレーションなどの最先端治療を施す専門医を対象として、より豊富な経験を積んだ大学の専門医が指導・育成し、神栖済生会病院の治療体制を刷新することを目的として実施されるものです。また、同治療サポートは今後神栖市民に大きなベネフィットをもたらすことが期待されています。



茨城県初の大学共同による教育センター新設 県西エリアの医療充実に貢献

平成30年1月31日に、筑西市と筑波大学ならびに自治医科大学は、新たに筑西市に開院する「茨城県西部メディカルセンター」内に、両大学の教育・研究拠点として「合同茨城県西部地域臨床教育センター」を設置するための調印式を実施しました。当該医療機関は今年10月に開院予定で、教育センターもそれに合わせ稼働予定です。

本教育センターは、2つの大学が共同で運営を行う県内で初めての取組みで、茨城県内の地域医療の充実にために医学生や研修生の教育施設として機能していきます。また、病院内で勤務する医師が増えることによる病院の活性化も想定され、地域住民の皆様にも良質な医療を提供する場としても期待されています。

筑波大学附属病院は県内の地域医療充実に向け、これからも地域医療教育センターを通じた人材育成を積極的に行っていきます。



機能改善に向けた新たな取り組み ロボットスーツHAL治療外来

筑波大学発のロボットスーツHAL (Hybrid Assistive Limb) は、平成29年2月より「ロボットを用いた機能改善治療」として保険収載され、保険で認められた治療用ロボットとなりました。筑波大学附属病院においては保険で認められた以下8疾病を対象とし、治療を行っています。

現在、1回40分の治療プログラムを週2回、合計9回を1クールとして外来通院にて行っています。治療費用については、医療保険の対象内で行われ、特定疾患医療費助成制度（難病・特殊疾病）の対象となります。

- 対象疾患8疾患：
- 脊髄性筋萎縮症（SMA）
 - 球脊髄性筋萎縮症（SBMA）
 - 筋萎縮性側索硬化症（ALS）
 - シャルコー・マリー・トゥース病（CMT）

- 遠位型ミオパチー
- 封入体筋炎
- 先天性ミオパチー
- 筋ジストロフィ

これまでの臨床研究の結果より、ロボットスーツHALによる治療を安全に受けるには、なんらかの補助具、支持物を持つことにより、立位姿勢をとることが可能なことが必要と考えられます。実施可能かどうかについては、外来初診の際に診察させていただきますので、是非一度ご相談ください。



難病が疑われる患者さんにより早期に正しい診断を 難病医療センター設置

筑波大学附属病院は、今年4月より難病が疑われながらも診断がついていない患者さんの早期診断・治療を目的に難病医療センターを設置しました。当該センターでは、早期に診断を実施し、身近な医療機関で適切な医療が受けられるようサポートし、さらに学業・就労と治療を両立できる環境整備を医学的な面から支援します。また、一定の質が担保された遺伝子関連検査の実施体制を整備し、患者さんが検査の内容を理解できるようなカウンセリング体制の充実を図り、増加する遺伝子関連検査の適切な運用を目指します。

さらに、情報の少ない難病に係る医療従事者等の人材育成や啓発を目的に研修や講演会などを実施し、県内の難病医療体制の強化にも貢献していきます。



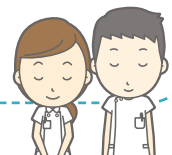
安心・安全な医療を患者さんにも医療従事者にも 病院職員の過重労働軽減に関する取り組みはじめました

昨今、医師の過重労働が問題とされており、労働環境を改善することを目的とした委員会が厚生労働省で立ち上げられました。当院でも時間外勤務が増加し、休日もなかなか取れない状況に陥っております。医師や病院職員にも休息は必要です。そのため、医師や病院職員の業務負担軽減についてさらなる対策を行いたいと考え、当院では3つのアクションに取り組んでいます。

本院の医療レベルを保ち、医療従事者の健全な労働環境を維持するために皆様のご理解とご支援をいただけますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

ACTION PLAN

- 1 病状の説明や手術・処置の説明は原則勤務時間内に行います。(平日 8:30-17:15)
- 2 土日、祝日、平日夜間は当直・当番医師が主治医に代わり責任をもって対応します。
- 3 必要時以外の臨時外来受診を控え、救急外来診療の適切な利用をお願いします。



「お笑い」を通じて コミュニケーションのノウハウを学ぶ Wマコトを講師に講演会を開催

平成29年9月4日（月）に、日本初の漫才式セミナー講師として知られるWマコトによる職員向けコミュニケーション講演会を実施しました。

本講演会は、職員が主体性をもち、笑顔でコミュニケーションをとりあいながら最高の医療を提供できるような環境づくりの一助とすることを目的に実施されたものです。

当日は、多くの職員に参加いただき、笑いながらクイズ形式で「お笑い」の世界の裏に潜むコミュニケーションの極意を楽しく学びました。当院では、本研修で学んだ内容を日常の業務に還元し、患者さんに安心して医療を受けていただくようなコミュニケーション環境を整備してまいります。



医学の楽しさを地域の子供たちに！ 地域貢献プロジェクト 「つくばキッズメディカルユニバーシティ」

夏休みの期間を利用し、医学の楽しさを体験するイベント「つくばキッズメディカルユニバーシティ」を近隣地域在住の小学5年生、6年生を対象に開催しました。

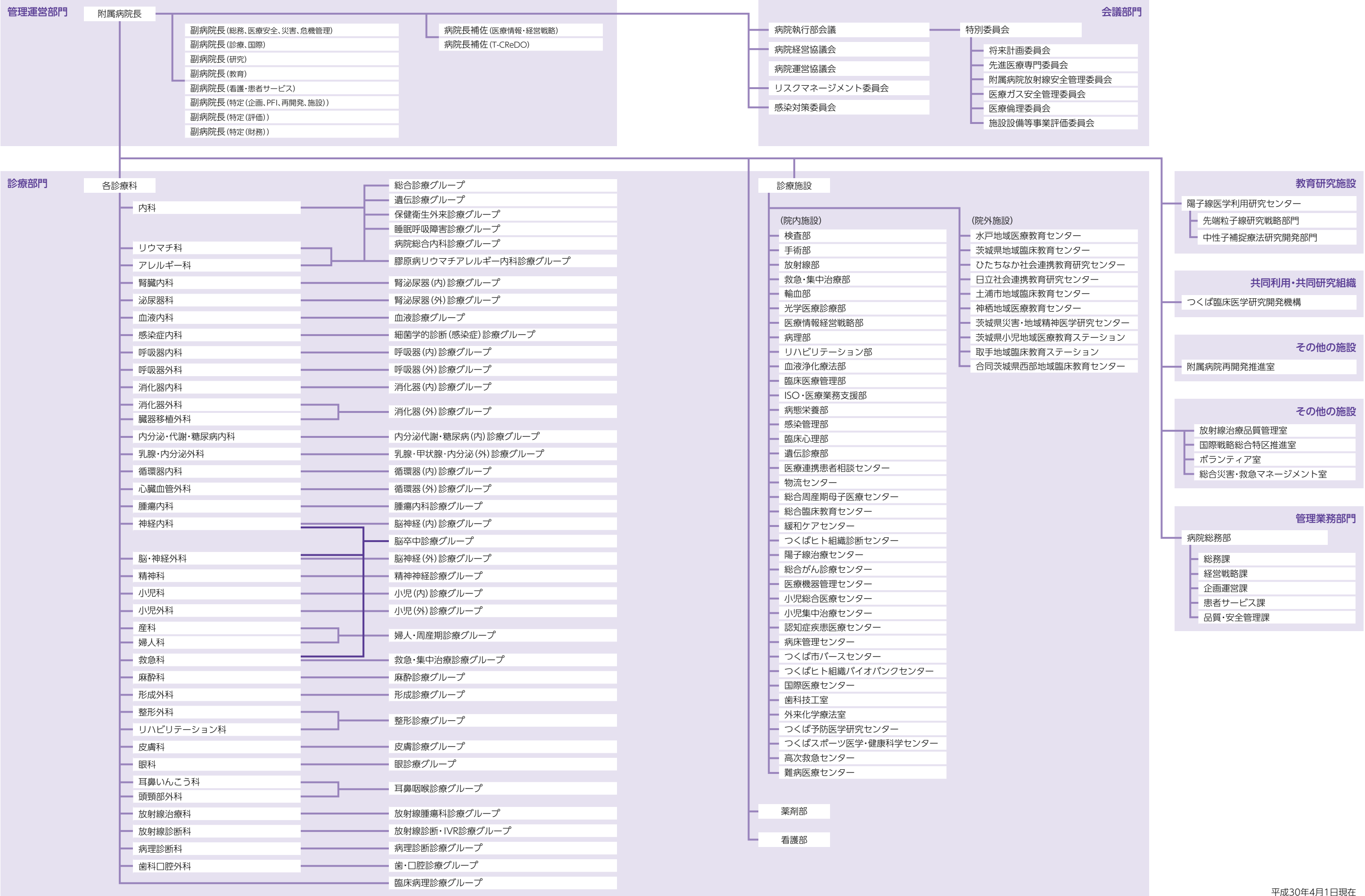
知的好奇心の旺盛な年少期の学童にとって、医学あるいは医療は非常に関心の高い魅力的な分野ですが、残念ながら医学・医療の実体験が可能な場は本邦では少ないのが現状です。そこで当院では、地域のお子さんに医学の楽しさを体験していただくことを目的に当該イベントを企画、実施しています。

イベントでは、薬剤セミナー、看護セミナー、移植セミナー、外科セミナー、救急医療セミナー、災害医療セミナーと盛りだくさんのプログラムを実施、医療の現場で活躍するスタッフから直接レクチャーや手技の指導を受けました。

今年度も地域の子供たちに平成30年度筑波大学 社会貢献（地域貢献）プロジェクトとしてイベントを実施予定です。



組織図



良質な医療を提供するとともに、
優れた人材を育成し、
医療の発展に貢献します。

基本方針

安全で
質の高い医療を
提供します。

すべての職種が
参画するチーム医療を
推進し、地域社会との
連携を図ります。

健康、医療に
かかる知識の
普及に努めます。

医療の使命と
責任を自覚し、
豊かな人間性を有する
優れた医療人を
育成します。

疾病の研究と
先進的な医療技術の
開発を通して、
国際社会に
貢献します。

特長

高度に専門化された医師、看護師、技師の適切かつ統合的チーム診療を能率よく受けられるような体制の確立・維持及び優秀な臨床医の養成を目指しています。

また、特定機能病院として高度医療の提供、高度医療に関する開発・評価及び研修を行うとともに、他の医療機関との間での患者の紹介等を通じて緊密に連携を図っています。



CONTENTS

本院はISO9001認証を取得・継続しています

ISO9001は顧客および組織の構成員・関係者の期待により良く応えるための組織運営手順の国際標準で、平成16年以後、本院はISO9001認証を継続しています。右記の認証マークは、本院の組織運営手順がISO 9001:2015規準に適合していることをBSIグループジャパン（認定審査登録機関）が認証したことを示します。ISO9001認証継続を通じ、本院は患者さま、院内職員および院外関係者の皆さんの期待により良く応えられるよう病院運営を改善し続けます。



本院は病院機能評価の認定・更新をしています

病院機能評価は、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組みです。評価調査者が中立・公平な立場にたって、所定の評価項目に沿って病院の活動状況进行评估します。本院は、審査の結果、一定の水準を満たしている「認定病院」です。以下の認定を公益財団法人日本医療機能評価機構より受けています。

病院機能評価3rdG：Ver.1.1（平成29年11月10日更新）

- 主たる機能 一般病院 2（500床以上）
- 副機能 精神科病院



沿革 2

トピックス 4

組織図 8

理念・基本方針・特長 10

目次 11

医療連携患者相談センター 12

セカンドオピニオン外来のご案内 16

予約方法等一覧 19

診療科紹介 23

診療科・診療グループ 100

職員数 100

役職員 101

医療機関の指定承認状況 104

診療実績 106

建物配置図 110

アクセスマップ 111



医療連携患者相談センター

本院は「特定機能病院」として高度な医療の提供、高度医療の研究や開発を通して地域の医療機関との連携を強化し、患者さんの紹介・逆紹介を通じ、緊密な医療連携を図っております。

医療機関の先生方との連携

本院では、医療機関の先生方との連携を重点に医療活動を展開しております。

ご紹介いただいた患者さんには、高度に専門化された医師、看護師、技師等の職員による総合的なチーム医療により安心して治療を受けられるような体制で診療にあたっています。

患者さんの紹介について

本院での予約方法は以下の二通りがあります。

1. 紹介元医療機関から医療連携患者相談センターで
予約を取る方法

医療連携患者相談センター
(医療機関専用)

FAX 029-853-3712

2. 患者さんご本人が予約センターで
予約を取る方法

予約センター
(患者さん専用)

TEL 029-853-3570

➡ 詳しい予約方法については、14～15ページ「患者さんの紹介について」をご覧ください。

➡ 夜間・休日・緊急を要する受診の場合は、19～21ページ「予約方法等一覧」をご確認の上、ご連絡ください。

患者相談窓口

本院は、患者さんやその家族の方からの疾病に関する医学的な質問、生活上及び入院上の不安など、様々な相談に対応する窓口（患者相談受付）を、下記のとおり設置しております。

相談内容としては、医療福祉、在宅移行・転院調整・退院支援、がん、難病、看護、栄養、こころ、苦情、診療費、薬剤、カルテ開示、リハビリ及び医療の質と安全などに関するものです。

相談に当たりましては、院内の各部門と密接に連携の上、実施します。

なお、病気や診療内容に関するご相談は、お受けできませんので受診の上、医師にご相談ください。

相談内容については秘密厳守はもとより、相談により不利益を受けることはありませんので、お気軽にご相談ください。

相談日 月曜日～金曜日（土日祝日、年末年始を除く）

受付時間 8:30～17:00

設置場所 けやき棟 1階11番窓口（入退院センターの隣）

TEL 029-896-7134（患者さん・ご家族専用）

医療福祉・退院支援に関する相談

医療連携患者相談センターでは、療養生活上の問題等に対し、専任のソーシャルワーカー（社会福祉士）と退院調整看護師が専門的な立場でご相談をお受けしています。

こんなとき、医療連携患者相談センターをご利用下さい。

- 治療費支払いや今後の生活費など、経済的な心配がある
- 往診や訪問看護、ホームヘルパーなど在宅サービスについて知りたい
- 介護保険や健康保険、障害年金などの社会福祉・社会保障の制度を知りたい
- 自宅で生活するために車椅子やベッドなど福祉用具が必要
- 身体に障害が残り、今後どのように生活をしたら良いかわからない
- その他、どこに相談してよいかわからないこと

ご相談についての秘密は厳守します。

ご相談は原則予約制となります。ご利用されたい方は、お電話または来室していただき、ご相談日時をご予約下さい。

病棟・外来の医師・看護師にご相談希望の旨を依頼されても結構です。

相 談 日 月曜日～金曜日（土日祝日、年末年始を除く）

受付時間 8:30～17:00

設置場所 防災センター脇の通路を入って右折

T E L 029-853-3906

F A X 029-853-3584



医療連携患者相談センターのスタッフ

患者さんの紹介について

1. 紹介元医療機関から医療連携患者相談センターで予約を取る方法

本院では、医療連携患者相談センターでFAX（または電話）による紹介患者さんの予約受付を行っております。

1 受診の予約

紹介元医療機関

筑波大学附属病院 医療連携患者相談センター

本院の外来診療は、原則として予約制です。

「受診予約申込書※」により、FAXにて下記までお申込みください。

受診の予約取得をいたします。

可能な限り、診療情報提供書を一緒にお送りください。

受診予約申込書

医療連携患者相談センター

FAX 029-853-3712（医療機関専用）

- 受付時間 月曜日～金曜日 8:30～17:00（土日祝日、年末年始を除く）
- FAX受信は24時間可能ですが、17時以降と休診日に送付されたFAXは、翌稼働日の対応になりますのでご注意ください。
- 予約日時については、すべての希望に添えない場合もありますのでご了承ください。
- FAXができない場合でも「受診予約申込書」の項目を予めご準備いただいてから電話でご連絡ください。
- 17時以降の電話対応は出来ませんのでご了承ください。

TEL 029-853-3727（医療機関専用）

※受診予約申込書は17ページにあります。切り取ってご使用ください。

2 予約取得の連絡

筑波大学附属病院 医療連携患者相談センター

紹介元医療機関

患者さんご本人

予約日時のお知らせは、ご希望により紹介元医療機関へ電話または「予約票」をFAXで送付するか、患者さんご本人に電話連絡いたします。

3 患者さんへ紹介受診手続き説明

紹介元医療機関

患者さん

- 電話でお知らせした場合
患者さんに予約日時、当日受付方法のご説明をお願いします。
- 予約票をFAXで受け取った場合
予約票【患者さん用】を患者さんにお渡しください。
患者さんに予約日時、当日受付方法のご説明をお願いします。

4

画像データ送付

紹介元医療機関

筑波大学附属病院 医療連携患者相談センター

貴院の画像データを電子データで提供していただく場合には、画像データは、標準規格で提供願います。また、本院の医療情報システム取り込みに時間がかかることから、診療予約日の2日前（月曜日が予約日の場合は、木曜日）までに医療連携患者相談センターにご送付ください。

5

受診

患者さん

筑波大学附属病院

予約当日、本院を初めて受診される方は、1番初診窓口で、過去に本院の受診歴がある方は、5番再診窓口で手続きをします。

- 個人情報につきましては、貴院から患者さんにその旨をご説明いただき、患者さんの同意を頂いたうえで記入くださいますようお願いいたします（住所、氏名、生年月日、当院の診察券の有無等）。

受診予約申込書について

- ➡ 17ページの受診予約申込書をコピーしてご使用ください。
- ➡ 本院のホームページからダウンロードすることが可能です。（<http://www.s.hosp.tsukuba.ac.jp/medical/>）

2. 患者さんご本人が予約センターで予約を取る方法

本院の外来診療は、原則として予約制です。以下に電話をして予約をお取りください。

予約センター

TEL 029-853-3570（患者さん専用）

- 受付時間 月曜日～金曜日 8:30～17:00（土日祝日、年末年始を除く）

医療連携患者相談センターでは、他の医療機関からの外来予約のほか以下の業務等を行っています。

- ・ 当日受診依頼
- ・ 転院相談
- ・ 診療情報提供の依頼
- ・ 訪問看護指示書等の管理

セカンドオピニオン外来のご案内

セカンドオピニオン外来の目的

当院以外の医療機関で診療を受けている方を対象に、「他の医師の意見も聞き納得して治療を受けたい」というご要望に応え、紹介元医師から与えられた診断・治療の資料から、今後の治療に関する意見を提供し、参考にさせていただくことを目的としています。

セカンドオピニオンの対象者

患者さん本人の相談を原則としますが、家族のみの相談の場合には、同意書が必要です。未成年者の場合には、続柄を確認できる書類（健康保険証等）が必要となります。

同意書の様式は、本院のホームページからダウンロードできますので、ご確認ください。

精神神経科は、行っておりません。

相談内容

診療ではないので、検査や治療行為（薬剤投与、処置）は行いません。

ご持参いただいた診断・治療の資料から、今後の治療に関する専門医としての意見を提供させていただきます。

相談時間

1人1時間以内となります。1時間には、ご相談とご相談後の紹介元医師への報告書作成時間が含まれます。

相談費用

紹介元医師への報告書の作成費を含めて、43,200円（税込）です。自由診療ですので全額自費になります。

相談に必要な書類

①診療情報提供書 ②検査資料（血液検査の結果、画像結果等） ③相談同意書（相談者が本人以外の場合）

お申し込み方法

完全予約制です。

「受診予約申込書」と「診療情報提供書」をFAXでお送りください。

※腎泌尿器外科の場合は、上記「相談に必要な書類」を確認してからのご予約となります。

セカンドオピニオン係宛にご送付いただくか、総合受付2番の窓口までご持参ください。

F A X 029-853-3712

T E L 029-853-3562

送付先 〒305-8576 茨城県つくば市天久保2-1-1
筑波大学附属病院 セカンドオピニオン係

フリガナ			紹介元 医療機関	
氏 名	様			
性別	男性 ・ 女性	旧 姓 ※お分かりでしたら記入ください	医師氏名	
生年月日	M・T・S・H	年 月 日	所在地	〒
住所	〒			
電話番号	9時～17時で連絡が取れる番号		所有者	電話番号
	①			FAX
	②			部署名
	③			
筑波大学附属病院受診歴		無 ・ 有 ⇒	筑波大学附属病院のID	

基本情報(診療科確認のために使用いたします)

主傷病名			
紹介目的	☐ 精査 ☐ 加療 ☐ 手術 ☐ その他() ☐ セカンドオピニオン		
画像データ(標準規格)	☐ 有 ☐ 無		ご都合の悪い日 または曜日
医学的に望ましい 受診までの期間	☐ 1週間 ☐ 1ヶ月 ☐ 3ヶ月		
予約取得の連絡	☐ FAXによる返信 ☐ 電話のみの連絡 ☐ 患者さんご本人に連絡		
受診当日の状況	☐ 通院中 ☐ 入院中 ⇒ 入院料等の算定情報を記載した連絡文書をご持参ください。		

受診希望診療科に○をつけてください。

内科系	循環器内科	外科系	心臓血管外科(循環器外科)	内・外科系以外	眼科
	消化器内科		消化器外科		耳鼻咽喉科
	呼吸器内科		呼吸器外科		皮膚科
	腎泌尿器内科		腎泌尿器外科		精神神経科
	内分泌代謝・糖尿病内科		乳腺・甲状腺・内分泌外科		婦人科
	小児科(小児内科)		小児外科		周産期科(産科)
	神経内科(脳神経内科)		脳神経外科		保健衛生外来
	膠原病リウマチアレルギー内科		脳卒中科		遺伝外来
	血液内科		整形外科		麻酔科
	総合診療科		形成外科		放射線腫瘍科(放射線)
感染症科	歯科口腔外科	放射線腫瘍科(陽子線)			
専門外来		外来	希望医師名	医師	

★注意事項

- 希望医師のご指定がない場合は、初診担当医師の予約をお取りいたします。
- 診療当日は、紹介状原本と画像データ等をお持ちください。

※ 画像データは、標準規格で提供願います。また、本院システム取り込みに時間が掛かることから事前にご送付ください。

医療連携患者相談センター

【電話】 029-853-3727
 【FAX】 029-853-3712
 【受付時間】 8:30～17:00
 (土日祝日 年末年始を除く)
 上記受付時間以降に届いたFAXは、
 翌診療稼働日の対応となります。

その他の事項

患者さんからの予約の変更またはキャンセルは、予約センターでお受けいたします。(予約センター 029-853-3570)
 セカンドオピニオン外来は、通常の予約枠とは別になっております。折り返し担当者よりご連絡いたします。
 (セカンドオピニオン外来担当 029-853-3562)

※このFAXには、個人情報を含む機密情報が含まれており、筑波大学附属病院あてに送られています。もし、誤って届いた場合は、お手数ですがその旨を上記紹介元医療機関にお知らせいただき、書類は破棄してください。

予約方法等一覧

診療科	対応方法				
	初診	夜間 (17:15～翌日8:30) の場合 休日の場合	医療的に緊急を要する場合	転院を希望される場合	
循環器内科	専門分野別に担当者が分かれています。 医療連携患者相談センター 029-853-3727	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	循環器内科 029-853-5600 オンコール医師が担当します。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。	
心臓血管外科			心臓血管外科ホットライン 029-853-7831・080-4197-8186 (オンコールスタッフによる 24時間対応) または ICU受付 029-896-7290 (平日9:00～17:00) へご連絡ください。	平日の日中は 医療連携患者相談センター 029-853-3727 または 心臓血管外科医局 TEL/FAX 029-853-3097 E-mail: cardio-v@md.tsukuba.ac.jp へご連絡ください。 これ以外の時間帯で急を要する場合は、 心臓血管外科ホットライン 029-853-7831・080-4197-8186 (オンコールスタッフによる 24時間対応) へご連絡ください。	
消化器内科	疾患別に担当者が分かれています。 医療連携患者相談センター 029-853-3727 事前に診療情報提供書を FAXしてください。 029-853-3712	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。消化器外科当直医が担当します。	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。	
消化器外科	毎週火曜日と金曜日の初診担当医師が対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727 事前に診療情報提供書を FAXしてください。 029-853-3712				
呼吸器内科	疾患別に担当者が分かれています。 医療連携患者相談センター 029-853-3727 事前に診療情報提供書を FAXしてください。 029-853-3712	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	呼吸器内科外来 029-853-3915 へご連絡ください。		
呼吸器外科	当該曜日の担当医師が対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727		医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡ください。平日は当該曜日の担当医師が対応します。		
腎臓内科			医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。		
腎泌尿器外科			疾患別に担当者が分かれています。 医療連携患者相談センター 029-853-3727 事前に診療情報提供書を FAXしてください。 029-853-3712		医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡ください。平日は当日オンコール医師が対応します。
内分泌代謝・ 糖尿病内科			当該曜日の担当医師が対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727 事前に診療情報提供書を FAXしてください。 029-853-3712		医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。
乳腺甲状腺 内分泌外科	専門分野別に分かれて担当します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727		医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。		
膠原病リウマチ アレルギー内科	当該曜日の担当医師が対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727				

診療科	対応方法			
	初診	夜間 (17:15～翌日8:30) の場合 休日の場合	医療的に緊急を要する場合	転院を希望される場合
血液内科	火曜日と金曜日に初診担当の医師が対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727 事前に診療情報提供書をFAXしてください。 029-853-3712	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡ください。当日オンコール医師が対応します。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。
精神神経科	当該曜日の担当医師が対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727		精神神経科外来 029-853-3931・3932 へご連絡ください。	
皮膚科	曜日毎に初診担当医が診察し、その後専門分野別に主治医を決めます。 医療連携患者相談センター 029-853-3727	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。緊急外来で診察し、必要に応じて皮膚科医が診察します。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通しご相談ください。当日のオンコール医師が対応します。
小児科	専門分野別に分かれて担当します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727 ●初診時の注意点 紹介状（診療情報提供書）：できる限り事前に診療情報提供書をFAXしてください。 医療連携患者相談センター FAX 029-853-3712 持参された画像（CD-R）：当院では紹介元病院からご持参いただいたCD-Rはウイルスチェックを行ってから、画像を拝見させていただいています。患者さんの受診日前に医療機関から担当医師宛にあらかじめ送っていただけると、診察時に患者さんを待たせずに画像の評価を行い、スムーズな診療につながります。可能な限り、ご協力をお願いします。			
小児外科	当該曜日の担当医師が対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	救急外来 029-853-3110 へご連絡いただき、当科の当直医に直接連絡してください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。
形成外科	当該曜日の担当医師が対応します。専門外来を設置しています。対象外、専門分野が不明な場合初診担当医が担当します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727		医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡ください。当日オンコール医師が対応します。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、外来担当医にご相談ください。 E-mail : tkeisei@md.tsukuba.ac.jp (医療相談などはいりません)
神経内科	当該曜日の担当医師が対応します。専門外来は設置していません。外来担当医が神経・筋疾患全般に対応可能です。 医療連携患者相談センター 029-853-3727	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。当直またはオンコール医が対応します。	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。当直またはオンコール医師が対応します。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、外来担当医にご相談ください。
脳神経外科	領域別に担当医師が対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 または 救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。当日オンコール医師が対応します。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。
脳卒中科	当該曜日の担当医師が対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727			
整形外科	専門分野別の担当医師が対応します。専門分野が不明な場合、初診担当医師が担当します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727		救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。当日オンコール医師が対応します。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。
つくばスポーツ医学健康科学センター (SMITセンター内アスリートサポート部門)	自由診療のセンターです。医師確認のもととプログラムを作成いたします。 初診担当医または整形外科外来が担当いたします。 SMITセンター窓口 029-853-3910 までご相談ください。 (平日9:00-17:00)			
つくばスポーツ医学健康科学センター (SMITセンター内健康増進部門)	センター内のスポーツ健康クリニック外来、または、肝臓生活習慣病外来を受診してください。 自由診療を希望される場合は、医師確認のもとにご相談に応じます。 予約センター 029-853-3570			
リハビリテーション部	領域別に担当医師が対応します。 リハビリテーション部 029-853-3795			
眼科	当該曜日の担当医師が対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡ください。当直またはオンコール医師が対応します。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。

診療科	対応方法			
	初診	夜間(17:15～翌日8:30)の場合 休日の場合	医療的に緊急を要する場合	転院を希望される場合
産婦人科	以下の曜日の午前中に対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727 婦人科：月・水・金 産科：月・火・木 婦人科については、事前に診療情報提供書をFAXしてください。	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	茨城県周産期救急搬送体制に基づく母体搬送については、下記へご連絡ください。 産科病棟 029-853-3850 (平日8:30～17:15) 防災センター 029-853-3525 (上記以外の時間帯)	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。
耳鼻咽喉科	当該曜日の担当医師が対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727		医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡ください。 オンコール医師または耳鼻科外来医師が対応します。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、耳鼻咽喉科オンコール医師にご相談ください。
麻酔科	当該曜日の担当医師が対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727		医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡ください。	
救急・集中治療科	平日（日中）： 医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡いただき、当科を含め、連携ご希望の診療科をご相談ください。 夜間・休日： 救急外来 029-853-3110 へご連絡いただき、当科を含め、連携ご希望の診療科をご相談ください。			
歯科口腔外科	火・木の初診担当医師が担当します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	歯科口腔外科外来 029-853-3870 または 救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。
保健衛生外来	生活習慣病外来 029-853-3496 産業保健外来 029-853-6025 精神保健外来 029-853-3099 へご連絡ください。 紹介または他診療グループからのコンサルテーションによる、診療領域に該当する外来患者さんが診療の対象です。 精神保健外来（斎藤・森田担当）への受診希望の場合、受診に先立って連絡と相談をお願いします。 精神保健学 FAX 029-853-3099		医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡ください。各外来が担当します。	
放射線腫瘍科	月・火・木の担当の医師が対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727 陽子線治療に関する医師からのご相談、お問い合わせを受け付けています。 FAX 029-853-7102 E-mail: proton_therapy@pmrc.tsukuba.ac.jp	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	放射線治療棟外来 029-853-3657 へご連絡ください。外来担当医が対応いたします。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。
放射線診断科	放射線診断科としての予約はありません（当院で画像検査をご希望の場合は関連する当該科を通して検査依頼を行ってもらってください）。他院で撮像された画像に関するコンサルトをご希望の方は、 セカンドオピニオン外来 029-853-3562 にご相談のうえ、お申込みください。			
総合診療科	当該曜日の担当医師が対応します。 漢方外来：金曜日の午後 禁煙外来：月～木曜日の午後＜自費＞ 医療連携患者相談センター 029-853-3727	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡ください。オンコール医師が対応します。	
病理診断科	基本的に、基礎疾患に関わる診療科を通して依頼を受け、「病理説明外来」を行っています。			
遺伝外来	遺伝診療部は完全予約制です。患者さんからの予約のみ受け付けています。予約センター 029-853-3570 月曜日 11:00～12:00：乳がん・卵巣がん 水曜日 13:30～16:30：遺伝相談一般 *お電話の際には「遺伝外来の受診希望（または受診の相談）」とお伝えください。 *認定遺伝カウンセラーが折り返しお電話をし、担当スタッフや日時を調整いたします（都合により後日お電話をさせていただきます）。			
感染症科	当該曜日の担当医師が対応します。 医療連携患者相談センター 029-853-3727	救急外来 029-853-3110 へご連絡ください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 へご連絡ください。オンコール医師が対応します。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、ご相談ください。
腫瘍内科	火曜日午前中のみ。 医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通じてご相談ください。		医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、臓器別診療科へご連絡ください。	医療連携患者相談センター 029-853-3727 を通し、臓器別診療科にご相談ください。

University of Tsukuba Hospital Guide 2018

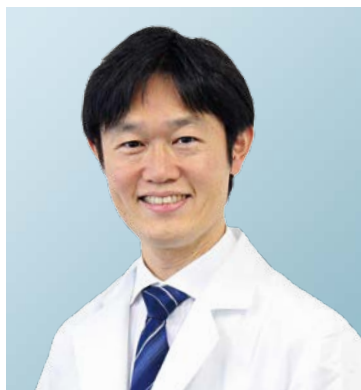


診療科紹介

循環器内科	24
心臓血管外科	26
消化器内科	28
消化器外科	30
呼吸器内科	32
呼吸器外科	34
腎臓内科	36
腎泌尿器外科	38
内分泌代謝・糖尿病内科	40
乳腺・甲状腺・内分泌外科	42
膠原病リウマチアレルギー内科	44
血液内科	46
精神神経科	48
皮膚科	50
小児科	52
小児外科	54
形成外科	56
神経内科	58
脳神経外科	60
脳卒中科	62
整形外科	64
リハビリテーション部	66
眼科	68
産婦人科	70
耳鼻咽喉科	72
麻酔科	74
救急・集中治療科	76
歯科口腔外科	78
保健衛生外来	80
放射線腫瘍科	82
放射線診断科	84
総合診療科	86
病理診断科	88
遺伝外来	90
感染症科	92
腫瘍内科	94
病院総合内科	96
看護ケア・教育外来	98

*各診療科のスタッフ一覧は、平成30年4月1日現在のものです。

*診療実績は特に記載がない場合、平成29年度分です。



診療グループ長 教授

家田 真樹

診療グループの特徴

筑波大学附属病院循環器内科グループは、質の高い医療を的確に患者さんに行う事を教室員全員の第一目標としています。この為、私を初めとして教室員全員が謙虚に患者さんに向き合う事ができる事を目指して、人間として必須の全人的教育を行っています。「良き医師である前に良き人間であれ」を目標に日々患者さんに向き合っています。また、お互いを大切にする事で、教室員の間で連帯感が生まれるように教室懇親会も教室員の移動時期だけでなく、多くの学会中に開催しており、各自が孤独感を味わわなくて済むよう、開かれた教室を目標に教室運営をしています。

病気の治療の選択に際しては、患者さん一人ひとりの身になって、最適な治療法を考えて行く事を診療の

柱とし、きめ細やかなテーラード治療を各患者さんに行う事を心がけています。入院・外来治療は、このような考えで統一されており、患者さんとのトラブルもなく全ての患者さんが安心感を持って治療に望む事ができます。不整脈、冠動脈疾患、心不全、末梢血管疾患、動脈硬化、成人型先天性心疾患、遺伝性心疾患等、全ての領域にわたって専門家を養成し、全ての患者さんが専門家による最新医療を含めた最も適切な治療を受ける事ができることも筑波大学循環器内科の特徴です。

また、多くの臨床研究も、若手医師が中心となって行う事で、早い時期から通常の臨床業務だけでなく、新しい医学・医療の創出を目指した取り組みを教室全体で応援しています。

特筆すべき特徴は、関連病院も含めた臨床レジスト

氏名	職名	専門分野
家田 真樹	教授	循環器内科全般、心不全
青沼 和隆	教授	不整脈・循環器全般
宮内 卓	教授	心不全、虚血性心疾患、弁膜症、肺高血圧症
渡邊 重行	教授（水戸地域医療教育センター）	虚血性心疾患
本間 覚	教授	肺高血圧、血管疾患
久賀 圭祐	教授	不整脈
野上 昭彦	教授	不整脈
小池 朗	教授	心不全、心臓リハビリテーション
河野 了	病院教授	心筋症、心不全、心肥大、救急医学
石津 智子	病院教授	先天性心疾患、女性循環器疾患、心不全
瀬尾 由広	准教授	心不全、弁膜症
佐藤 明	准教授	虚血性心疾患、末梢血管疾患
関口 幸夫	准教授	不整脈
村越 伸行	准教授	虚血性心疾患、心不全、不整脈
吉田健太郎	准教授（茨城県地域臨床教育センター）	不整脈
酒井 俊	講師	虚血性心疾患、心不全、肺高血圧症、心肥大
下條 信威	講師	心不全、心肥大、救急医学
山崎 浩	講師	不整脈
西 功	講師（土浦市地域臨床教育センター）	心不全、心筋症、心臓リハビリテーション
星 智也	講師	虚血性心疾患、構造的な心疾患
町野 毅	講師（T-CReDO）	不整脈
呉 龍梅	病院講師	心臓リハビリテーション
平谷 太吾	病院講師	救急医学、集中治療医学、循環器病学
田尻 和子	助教	心不全、心筋症、腫瘍循環器
佐藤 希美	助教	心不全、心エコー
本田 洵也	病院助教	肺高血圧症

リーを構築し、関連病院においても、臨床研究を継続できるよう配慮しているところです。これにより、大学と関連病院の人事交流が活性化し、さらに臨床レベルアップを目指しています。

診療領域・体制

昨今の医療、特に循環器疾患においてはその進歩は目覚ましいものがあります。たとえば虚血性心疾患に対する冠動脈インターベンション、不整脈に対するカテーテルアブレーション・植込み型除細動器、そして心不全に対する非薬物治療（心臓再同期療法）などです。さらに、先進医療として大動脈弁狭窄に対する経カテーテル大動脈弁置換術、心房中隔欠損症に対する欠損閉鎖カテーテル治療などを積極的に行っています。循環器内科グループでは、心臓血管外科グループとの緊密な連携により、これらの高度先進医療を日本のなかでもいち早く導入し研鑽を続けており、あらゆる循環器疾患に対応しより専門的な治療体制を確立しています。また、いつでも緊急心臓カテーテル検査が可能な体制をとっており、緊急例、重症例に対応しています。更に循環器疾患は緊急性の高い疾患であると同時に生活習慣病であるため、地域医療機関との密な連携の下、治療に当たっています。

対象疾患

不整脈、虚血性心疾患、心不全、心筋症、心筋炎、弁膜疾患、高血圧、動脈疾患、肺高血圧症、肺血栓塞栓症、先天性心疾患、先天性心疾患を有する成人、心疾患を有する妊婦等。

先進医療等への取り組み

当科では、従来の治療法では治療困難な症例に対して、さまざまな新規治療法・治療薬を用いて積極的に加療を行っています。

- ・重症大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）・心房中隔欠損閉鎖カテーテル治療・冠動脈石灰化病変、ステント内再狭窄などに対するエキシマレーザー冠動脈形成術、ロータブレーターを使用した治療・重症心不全症例に対する心臓再同期療法・冷凍アブレーションカテーテルを用いた心房細動治療・難治性心室頻拍、心室細動に対するカテーテルアブレーション・エキシマレーザーを用いた感染リード抜去・リードレスペースメーカーを用いた徐脈治療・完全皮下植込み型ICD（S-ICD）を用いた不整脈治療

また、多くの科学研究費助成を受け基礎・臨床・疫学と幅広い分野で研究を進めています。

診療実績

外来診療実績

患者数

項目	人数
患者数	21,194
初診患者数	1,243
紹介患者数	1,012
逆紹介患者数	3,170

入院診療実績

患者数

項目	人数
患者数	13,865
新入院患者数	1,837
平均在院日数	6.3日

手術件数

術名	件数
カテーテルアブレーション	791
心臓再同期療法	33
植込み型除細動器（ICD）	21
ペースメーカー	42
経皮的冠動脈インターベンション	238
経皮的末梢動脈インターベンション	9
下大静脈フィルター留置	4
経皮的僧帽弁裂開術	1
経皮的肺動脈バルーン拡張	1
経カテーテル大動脈弁置換術	40
経皮的心房中隔欠損閉鎖術	12
経皮的動脈管開存閉鎖術	2





診療グループ長 教授

平松 祐司

診療グループの特徴

茨城県南部医療圏の心臓血管外科基幹施設として、新生児から高齢者まで、あらゆる心臓血管疾患に対して最先端の外科医療を展開しつつ、高度先進医療の研究開発や外科医の育成にも取り組んでいます。2012年の新棟「けやき棟」開棟およびICU・小児ICU整備によって手術の効率と安全性は一層高まり、国内外で研鑽を積んだ専門医陣が年間250例以上の心臓大血管手術を含む総数約500例の手術を実施しています。最新技術として、2015年から経カテーテル的大動脈弁置換術、左室形成術、補助人工心臓装着術を導入し、2016年には小児用補助人工心臓の実施施設認定も取得しました。同年にはAmplatzer経カテーテル的心房中隔欠損閉鎖術も開始しています。大動脈緊急症例に対しては隣接する筑波メディカルセンターとアライアンスを形成し、迅速な外科治療が24時間可能なシステムを構築しています。

診療領域・体制

成人心臓血管疾患に対する外科治療と最新心臓リハビリテーション、重症新生児から成人まで全ての先天性心疾患に対する外科治療、胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療、末梢血管カテーテル治療およびステント治療、重症虚血肢に対する末梢動脈バイパス術、下肢静脈瘤レーザー治療、経皮的人工心肺補助、補助人工心臓、経カテーテル的大動脈弁置換術、経カテーテル的心房中隔欠損閉鎖術、ペースメーカー管理、人工心臓による重症心不全治療

対象疾患

先天性心疾患、成人先天性心疾患、冠動脈疾患、心臓弁膜症（必要に応じて不整脈手術を併用）、虚血性心筋症、心筋症、血管疾患（大動脈解離、大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤）、心臓腫瘍、肺塞栓症

先進医療等への取り組み

末梢血幹細胞を用いた血管再生治療

適応症：閉塞性動脈硬化症などによる重症虚血肢

内容：重症末梢動脈閉塞性疾患において、薬物療法や血行再建治療が無効な場合に本治療を考慮します。患者さん自身の血液から造血幹細胞を分離し、これを虚血肢に移植して血管再生を促す先進治療です。

診療実績

■ 外来診療実績

項目	人数
患者数	4,851
初診患者数	254
紹介患者数	180
逆紹介患者数	465

□ 治療に関するコメント等

疾病・検査・手術実績

先天性心疾患：新生児の複雑先天異常から成人期に到達した先天性心疾患まで、あらゆる年齢・病態に対応するチームを形成し、子供たちの未来を見据えた最善

氏名	職名	専門分野
平松 祐司	教授	先天性心疾患、補助人工心臓
坂本 裕昭	准教授	成人心臓病、大動脈疾患、補助人工心臓
大坂 基男	講師（病院教授）	成人心臓病、大動脈疾患
上西祐一郎	講師	成人心臓病、大動脈疾患
松原 宗明	講師	先天性心疾患、感染症コントロール
加藤 秀之	講師	先天性心疾患、補助人工心臓
野間 美緒	病院講師	先天性心疾患、集中治療
中嶋 智美	病院助教	心臓血管疾患全般、病床管理

の医療を展開しています。姑息術、根治術、Fontan型修復術いずれの成績も良好で、小児科・成人循環器内科・産婦人科と共同で成人先天性心臓病外来も運営し、生涯にわたって安心して医療が受けられる仕組みを整えています。

虚血性心疾患：ハイリスク症例が多数を占める中、80%以上の症例において体外循環を用いない心拍動下冠動脈バイパス術を実施。若年者には動脈グラフトを積極的に用い、早期社会復帰のための心臓リハビリテーションも充実しています。虚血性心筋症に対する左室形成手術にも取り組んでいます。

心臓弁膜症：僧帽弁閉鎖不全症に対しては人工腱索や僧帽弁リングを用いて高確率で弁形成を達成し、ワーファリン内服不要の高いQOLを提供しています。心房細動を合併する場合にはRadial手術（Maze手術）を積極的に併用しています。大動脈基部病変に対するDavid手術も導入し、良好な成績をおさめています。80歳以上の高齢者には2015年秋から経カテーテル的大動脈弁置換術を導入し、新たな治療の選択肢を提供しています。

大動脈疾患：緊急度の高い急性大動脈解離については、24時間体制での遅滞ない受け入れを目指しています。ハイブリッド手術室完成後、動脈瘤に対するステントグラフト内挿術は急速に増加しており、腹部はもとより胸部大動脈瘤や破裂例に対してもステント治療を積極的に応用し、より患者さんに優しい手術の実現をはかっています。

末梢動脈疾患：足関節付近への遠位動脈バイパス手術にも積極的に取り組み、多くの患者さんを切断の危機から救っています。カテーテルによる血管狭窄解除においては、放射線科とチームを構成してハイレベルなインターベンションを展開しています。

補助人工心臓：2015年から補助人工心臓装着術を開始し、重症心不全の最終救命手段と位置付けています。国内で認可されたばかりの小児用体外式補助人工心臓の実施施設認定も取得し、2017年には植込型補助人工心臓も導入しました。

下肢静脈瘤：低侵襲レーザー治療を導入以来、レーザー実施数は急速に増加し、今や90%以上の患者さんにレーザー治療を行って機能的にも美容的にも満足いただいています。日帰りまたは1泊2日の入院で、速やかに日常生活に復帰可能です。

□治療成績（特徴的なもの）

新生児開心術、弁形成術、自己弁温存大動脈弁手術、経カテーテル大動脈弁置換術、人工心臓手術などに力を入れて取り組んでいます。

■入院診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	7,541
新入院患者数	386
平均在院日数	14.6日

□手術件数

術名	件数
開心術	322
非開心術	211
手術総数	533

□手術に関するコメント等

国立大学病院としては数少ない開心術300例以上のhigh volume centerとして広域循環器医療に貢献しています。

□治療成績（特徴的なもの）

全国平均よりも良好な手術死亡率を維持しており、ハイリスク症例に対してもより安全確実な手段を工夫しています。



平松を中心に、2010年以来ベトナムにおいて心臓外科技術協力を実施している。



診療グループ長 病院教授

溝上 裕士

診療グループの特徴

当科では、あらゆる消化器疾患の患者さんの診療を行っています。消化管出血、炎症性腸疾患、肝炎、膵炎などの良性疾患では内科的薬物治療、胃癌、大腸癌、肝癌、胆道・膵癌などの悪性腫瘍では、内視鏡治療や化学療法を担当しています。また同時に臨床試験を通じて新たな治療法の開発を推進しています。月曜から金曜まで午前、午後にわたり、消化管疾患の専門医及び肝臓・胆道・膵疾患の専門医が外来診療を担当しています。病院と診療所あるいは病院同士の連携を深め、地域性を考慮した診療体制を構築しています。

診療領域・体制

消化管疾患：消化管は食道から胃、十二指腸、小腸、大腸までの管腔臓器を指し、大きく分けて良性疾患と悪性疾患に分けられます。良性疾患には、逆流性食道炎、食道ヘルニア、胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸

炎、クローン病、機能性胃腸症などがあります。これらの治療は主に薬物療法が中心となり、専門知識を生かした高度な治療を行っています。当院では胃・十二指腸潰瘍や癌との関連が指摘されているピロリ菌を専門に扱うピロリ菌外来、潰瘍性大腸炎やクローン病を専門に扱うIBD外来を設置しています。また、以前は検査が困難であった小腸にもカプセル内視鏡やバルーン内視鏡検査といった最新鋭の医療器具を取り入れ、診断・治療にあたっています。悪性疾患には食道癌、胃癌、大腸癌があり、これらの癌に対しては進行度に応じた治療法を選択しています。リンパ節転移のない初期の段階では内視鏡的切除を行います。最近開発された粘膜下層剥離術は大きな病変でも一括で切除することができ、当院でも積極的に行っています。進行癌では外科的治療の適応を考慮しますが、適応がないと判断される場合には、化学療法や放射線治療が選択されます。化学療法は最も有用性と安全性に優れた標準

氏名	職名	専門分野
溝上 裕士	病院教授（光学医療診療部）	消化管疾患、炎症性腸疾患、消化器内視鏡、ヘリコバクターピロリ
兵頭一之介	教授	消化器疾患、臨床腫瘍
正田 純一	教授（医療科学）	肝胆膵疾患、抗肥満療法、運動療法
谷中 昭典	教授（日立社会連携教育研究センター）	消化管疾患、ヘリコバクターピロリ
瀬尾恵美子	病院教授（茨城県地域臨床教育センター）	肝胆膵疾患
安部井誠人	准教授	肝胆膵疾患、肝炎治療
鹿志村純也	准教授（水戸地域医療教育センター）	消化管疾患
鈴木 英雄	准教授（腫瘍内科）	消化管疾患、炎症性腸疾患、消化器内視鏡
松井 裕史	講師（光学医療診療部）	消化管疾患、光線力学療法
福田 邦明	講師	肝胆膵疾患
奈良坂俊明	講師（光学医療診療部）	消化管疾患、消化器内視鏡
森脇 俊和	講師	消化器疾患、臨床腫瘍
石毛 和紀	講師	肝胆膵疾患
廣瀬 充明	講師（土浦市地域臨床教育センター）	消化管疾患
廣島 良規	講師（ひたちなか教育センター）	消化器疾患
長谷川直之	病院講師	肝胆膵疾患
山本 祥之	病院講師（総合がん診療センター）	臨床腫瘍、消化器癌
山田 武史	病院講師（T-CReDO）	消化器疾患、臨床腫瘍
岡田 浩介	病院講師	肝疾患
坪 大輔	病院講師（光学医療診療部）	消化管疾患、消化器内視鏡
遠藤 壮登	病院助教	肝胆膵疾患、肝胆膵内視鏡

治療を基本に、臨床試験にも積極的に取り組んでいます。その他、高齢者や合併症のある症例に対しては腫瘍縮小を目的に内視鏡を用いた光線力学療法も行っています。

肝・胆道・膵疾患：肝・胆道・膵疾患には肝炎、脂肪肝、胆石、膵炎などの良性疾患と、肝臓癌、胆嚢癌、膵臓癌などの悪性疾患があります。B型肝炎やC型肝炎は近年、治療法が飛躍的に進歩し、当院では専門医によるきめ細やかな治療を行っています。急性肝障害に対しては、劇症肝炎に移行する前から早期に積極的かつ強力な内科治療を行うことにより高い救命率を得ています。胆石症に対しては、症状、石の存在部位、合併症の有無などの病態に応じて、経口的胆石溶解療法、内視鏡的治療（乳頭バルーン拡張術、乳頭切開術）などの適切な治療選択を行っています。肝臓に対しては、早期発見に努め、ラジオ波焼灼療法、肝動脈化学塞栓療法、陽子線療法（先進医療）、分子標的薬治療などを駆使した集学的治療を行っています。特に、当院で開発された陽子線治療は、これまで1,000例以上を実施し、良好な局所コントロールとQOLの改善から世界的に高い評価を得ています。胆道癌、膵臓癌に対しては、黄疸例に対して胆道ドレナージやステント挿入などを行う他、超音波内視鏡下生検など病理組織学的診断にも力を入れています。また、消化器外科、放射線腫瘍科と協力し、進行度に応じて、最適な治療を選択しています。

対象疾患

消化管疾患（逆流性食道炎、胃・十二指腸潰瘍、炎症性腸疾患）、肝胆膵疾患（肝炎、脂肪肝、肝硬変、胆石、膵炎）、消化器癌（食道・胃・大腸・肝・胆・膵臓）、等



先進医療等への取り組み

自由診療

ヘリコバクターピロリ感染診断・除菌
第2、4水曜日午後担当 溝上 裕士

診療実績

外来診療実績

患者数

項目	人数
患者数	25,186
初診患者数	713
紹介患者数	633
逆紹介患者数	762

検査件数

検査名	件数
上部消化管内視鏡検査	4,104
下部消化管内視鏡検査	1,898
小腸内視鏡検査（バルーン/カプセル）	70/59
内視鏡的逆行性胆道膵管造影検査（ERCP）	239

治療件数

治療名	件数
食道静脈瘤治療（EVL・EIS）	64
内視鏡的止血術（上部/下部）	115/31
粘膜切除術（胃/小腸/大腸）	10/0/267
粘膜下層剥離術（食道/胃/大腸）	8/58/32
胃瘻増設術	22
光線力学療法	14
超音波内視鏡検査	95
超音波内視鏡下穿刺生検	41

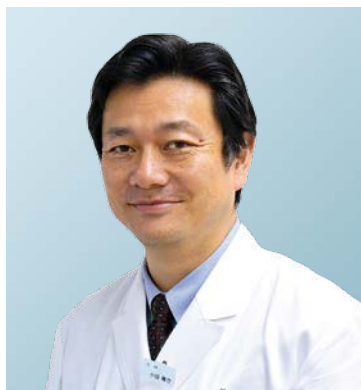
治療に関するコメント等

外来化学療法……………年間3,490件
肝臓癌治療
ラジオ波焼灼術……………47件
化学療法（肝動脈塞栓化学療法など）……………169件

入院診療実績

患者数

項目	人数
患者数	16,136
新入院患者数	1,074
平均在院日数	13.3日



診療グループ長 教授

小田 竜也

診療グループの特徴

私たち、消化器外科には2つの使命があります。

1つ目は、現代における最高の外科医療を提供する事です。外科というと“メス”に代表される手術手技ばかりに目が行きがちですが、術前の詳細な検討に基づいた手術方針の決定と、術後の臨機応変な管理の3つが合わさって、初めて最高の外科医療につながります。私たちの外科グループだけに閉じる事なく、消化器内科、腫瘍内科、放射線診断部、放射線治療部といった関連診療グループと密に連携して、個々の患者さんにとって、現代最高の医療を提供していきます。

2つ目の使命は、未来の医療を作る事です。近年急速に普及してきた鏡視下手術は、今後、様々なIT技術のアシストを受けながら行うロボット手術に発展していくでしょう。また、個々の患者さん、病気の遺伝子変化に合わせて治療方針を決定していくゲノム医療の導入も目の前です。私たちはこういった先駆的な治療の開発、導入に積極的に役割を担って行きたいと考えています。私たちのグループで治療を受ける患者さんには、未来の医療を開発する上でのサポーターとしてのご協力をお願いさせていただきます。

診療領域・体制

当科では、消化器領域における癌に対する治療を中心に、各臓器の専門医が担当してきめ細かい診療を行っています。治療の主体は手術療法ですが、病変を摘出切除する際に、病巣周囲の正常組織や臓器の犠牲的切除を最小限に止め、根治性と機能や形態の温存を最大限に保ちながら病気を治療することを心掛けています。手術治療だけでは完全治癒が期待できない進行癌の治療には、関連診療グループと協力して放射線や抗癌剤の併用を行う集学的治療を行っています。外科治療においては、肝胆膵外科高度技能指導医・内視鏡外科技術認定医・食道科認定医など各臓器にエキスパートがそろっており、専門的な治療を行っています。また消化器疾患で、「別の医者の意見を参考にしてから治療法を決めたい」という方のために、セカンドオピニオン外来も行っています。

対象疾患

■特に力を入れて治療をしている疾患
 膵癌、胆管癌、直腸癌、食道胃接合部癌

■力を入れて治療をしている疾患
 膵（膵癌、内分泌腫瘍、嚢胞性膵腫瘍）、胆道（ファーマ

氏名	職名	専門分野
小田 竜也	教授	消化器癌治療、膵臓・胆道手術
倉田 昌直	教授	腹腔鏡手術、肝臓・胆道・膵臓手術
榎本 剛史	講師	腹腔鏡手術、直腸・大腸手術
久倉 勝治	講師	食道手術、ヘルニア手術
明石 義正	講師	腹腔鏡手術、胃手術
大原 佑介	講師	腹腔鏡手術、直腸・大腸手術
高橋 一広	講師	移植治療、肝臓手術、肝嚢胞治療
小川 光一	講師	食道・胃・腹腔鏡手術
下村 治	講師	膵臓・胆道手術
大和田洋平	助教	大腸・直腸手術
鄭 允文	准教授	研究（発生学、悪性腫瘍）
近藤 匡	教授（水戸地域医療教育センター）	消化器一般
松村 英樹	講師（水戸地域医療教育センター）	消化器一般
湯沢 賢治	病院教授	移植治療
伊藤 雅昭	病院准教授	腹腔鏡手術、直腸・大腸手術

ター乳頭癌、中下部胆管癌、肝門部胆管癌、胆嚢癌)、肝(肝細胞癌、転移性肝癌)、食道癌、胃(胃癌、胃粘膜下腫瘍、GIST)、大腸(盲腸癌、結腸癌)、直腸/肛門癌 といった全ての消化器癌。炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病)。多発性肝嚢胞。腎移植。

診療実績

■外来診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	12,931
初診患者数	505
紹介患者数	454
逆紹介患者数	436

■入院診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	14,167
新入院患者数	881
平均在院日数	14.3日

□手術件数

術名	件数
悪性疾患	
食道切除	22
胃切除	73 (内、腹腔鏡42)
大腸切除	126 (内、腹腔鏡95)
肝切除	76 (内、腹腔鏡25)
胆道切除	16 (内、腹腔鏡2)
脾切除	63 (内、腹腔鏡10)
良性疾患	
腎移植	14
腹腔鏡下胆摘	46
ヘルニア	35

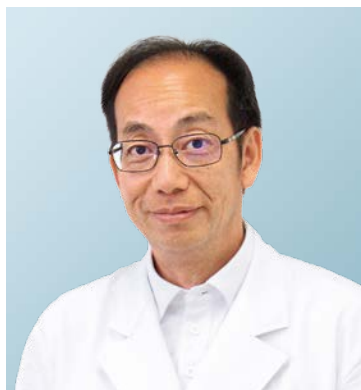
□手術に関するコメント等

低侵襲手術：術後の早期回復と入院日数の短縮に大きく貢献することから鏡視下手術が注目され、当科では積極的に鏡視下手術を行っています。消化管では胃、大腸、肝胆膵領域にそれぞれ日本内視鏡外科学会技術認定医を有しており、豊富な症例数と経験により、確実かつ安全な鏡視下手術が可能です。

脾癌に対する「温熱+化学放射線」→手術治療：脾癌は雑草に例えると根が奥深く張るという性質があり、手術で癌を99.9%除去しても、0.1%の残った根から再発してしまいます。この根をたたくために手術前に抗癌剤や放射線治療が行われていますが、脾癌細胞は抗癌剤が届きにくく、放射線が効きにくいいため、治療効果を限定的にしています。私たちは、手術が難しいとされる局所進行脾癌患者に対して、温熱療法を加えた化学放射線療法を行っています。病巣を温めることで、抗癌剤の癌への分布が2倍以上になり、放射線治療効果も高まることが確認できています。脾癌に対して現代医学が持ち合わせている武器を総動員し、よりよい治療成績を提供することを目指しています。

画像等手術支援ナビゲーション：術前のCTなどにより得られた患者さんの診療情報は、治療方針の決定だけでなく手術を安全に遂行するために使用されています。現在、肝切除の手術中に閲覧する画像はCTから構築した3次元画像(『SYNAPSE VINCENT』を使用)を用いています。しかし、実際の手術では、肝臓の切離を進めるに従い、肝臓の形態は徐々に変化します。私たちはこれらを考慮した次世代型肝切除シミュレーションシステム『Liversim』を開発しました。





診療グループ長 教授

檜澤 伸之

診療グループの特徴

筑波大学に併設された当科の使命は、診療・教育・研究の3本柱を充実、発展させることだと考えています。その中でも最も重要なのは診療であり、患者さんと十分にコミュニケーションを図りながら、科学的根拠に基づいた医療を行うように心掛けています。特定の医師の判断で治療方針を決定するのではなく、チーム全体で情報を共有し、真摯な議論の中で方向性を決め、良質な医療を提供する体制をとっています。また教育機関として、次世代を担う医師の卒前・卒後教育を行うとともに、医師会向けの学術講演会や一般市民向けの公開講座を通じて最新の医療情報を地域へ発信する努力を続けています。一方、既存の医療のみを漫然と行うのでは医療の進歩は望めないとも考えています。研究機関として、新規治療法の開発を目指した臨床研究に力を注ぎ、医薬品の治験や陽子線治療などの先進医療にも積極的に参加しています。これからも呼吸器内科一同、さらなる医療レベルの向上に向けて情熱を持って日々前進していきたいと考えておりますので、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

診療領域・体制

WHOが発表した2015年度の全世界死因トップ10によると、3位が下気道感染症、4位が慢性閉塞性肺疾患、5位が肺がんであり、上位を呼吸器疾患が占めるという結果でした。

高齢化社会を迎えるなかで、当院においても、肺炎や肺がん、慢性閉塞性肺疾患など加齢に関連する疾患が増え、さらに生活環境の変化などにより、喘息をはじめとするアレルギー疾患も増えています。その他、血管炎や膠原病など全身疾患を基盤とする呼吸器疾患、肺血栓塞栓症、急性呼吸窮迫症候群/急性肺損傷、アレルギー性気管支肺アスペルギルス症、肺胞蛋白症、リンパ脈管筋腫症、好酸球性肉芽腫症、Goodpasture症候群などの稀少疾患や合併症を有する複合疾患なども当科では積極的に受け入れておりますので、診断や治療に苦慮する患者さんがいらっしましたら、御紹介いただければ幸いです。

対象疾患

肺がん、喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、肺感染症、睡眠時無呼吸症候群 等

氏名	職名	専門分野
檜澤 伸之	教授	喘息、免疫アレルギー疾患
佐藤 浩昭	教授（水戸地域医療教育センター）	肺がん
石井 幸雄	教授（土浦市地域臨床教育ステーション）	間質性肺炎、肺感染症
福田 潔	教授（取手地域臨床教育ステーション）	慢性閉塞性肺疾患、結核、HIV感染症
家城 隆次	教授（神栖地域医療教育ステーション）	肺がん、間質性肺炎
坂本 透	病院教授	慢性閉塞性肺疾患、喘息
森島 祐子	准教授	喘息、免疫アレルギー疾患、睡眠呼吸障害
籠橋 克紀	准教授（水戸地域医療教育センター）	肺がん
松野 洋輔	講師	間質性肺炎、肺感染症
際本 拓未	講師	喘息、免疫アレルギー疾患
小川 良子	講師	間質性肺炎、肺感染症、睡眠呼吸障害
増子 裕典	講師	慢性閉塞性肺疾患、喘息
中澤 健介	講師	肺がん
塩澤 利博	病院講師	肺がん
松山 政史	病院講師	肺感染症、間質性肺炎
山田 英恵	講師（ひたちなか社会連携教育研究センター）	慢性閉塞性肺疾患、喘息

先進医療等への取り組み

陽子線治療

適応症：非小細胞肺癌

内 容：手術不能で根治的胸部放射線療法が可能なⅡ期～Ⅲ期の患者さんについて、放射線腫瘍科と連携し、陽子線を利用した放射線化学療法を行っています。なお、陽子線治療費（293万8千円）は保険適外のため、原則として全額が患者さんの自己負担となります。陽子線治療以外の医療費（診察・検査・処置・投薬など）については公的医療保険が適用されるので、一部自己負担（3割など）となります。関心をお持ちの患者さんがいらっしゃいましたら、医療連携患者相談センター（029-853-3727）を通じて初診予約をとっていただき、診療情報提供書、画像、検査データなどを添えて御紹介ください。非小細胞肺癌の患者さん全員が対象となるわけではありませんので、肺がん専門医が適応について御相談させていただきます。

診療実績

外来診療実績

患者数

項目	人数
患者数	11,281
初診患者数	370
紹介患者数	346
逆紹介患者数	405

検査件数

検査名	件数
気管支鏡検査	270/年

治療件数

治療名	件数
外来化学療法	549/年

治療に関するコメント等

疾病・検査・手術実績

多くの呼吸器疾患の中で、喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺がんの罹病率は年々増加しています。喘息や慢性閉塞性肺疾患については、自覚症状に加え、肺機能、呼吸抵抗、呼気中一酸化窒素濃度などの客観的指標を参考にしながら、治療を組み立てています。肺がんについては、化学療法に伴う消化器症状や骨髄抑制に対する支持療法が確立し、診療形態が入院治療から外来治療へとシフトしつつあります。また一部の肺がんに対して、分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬が開発され、患者さんの生活の質（QOL）を維持しながら、長期にわたって病勢をコントロールできるようになってきています。

入院診療実績

患者数

項目	人数
患者数	11,016
新入院患者数	671
平均在院日数	14.9日





診療グループ長 教授

佐藤 幸夫

診療グループの特徴

呼吸器外科は肺、気管支、縦隔、胸壁の手術治療を担う科です。対象疾患は、肺がんを中心とし、転移性肺腫瘍、胸腺腫等の縦隔腫瘍などの腫瘍性疾患に加え、自然気胸、重症筋無力症、膿胸、多汗症、胸部外傷など多岐にわたります。中心疾患の肺がんの重要度はますます高くなってきています。日本は、現在2人に1人が‘がん’に罹患し、3人に1人が‘がん’で死亡する時代となりました。がん死亡を部位別にみると男女共に肺がんが最多です。肺がんの罹患と肺がんによる死亡は増え続けており、肺がんは、現在そして将来的にも日本人にとって最も重要な疾患であると言って過言ではありません。肺がんに対する最も効果的な治療は手術であり、手術可能な時期に発見し、手術を中心とした治療を行うことが肺がん対策のカギです。手術法は近年大きな進歩を遂げ、大きく胸をあける開胸手術から胸腔鏡を用いた体にやさしい低侵襲手術へと変遷してきています。当科では胸腔鏡を積極的に用い、さまざまな工夫を重ね、開胸手術を凌ぐ精度の肺がん手術を安全に遂行しています。

診療領域・体制

肺・気管支・胸壁・縦隔の外科疾患を対象に専門的な診療を行っています。胸部・呼吸器領域の腫瘍性疾患、悪性疾患の診断・治療、気胸・肺嚢胞性疾患・肺気腫、重症筋無力症、胸郭変形などの疾患の診断と外科手術を中心とした診療を行っています。外来は火曜

日を除く平日の午前中に行っています。疾患の性格上、外来初診の患者さんのほとんどは紹介患者ですが、胸部異常陰影の検査のためといった御依頼も受け付けています。入院患者は年間500名程度、手術例数は250件を超えています。診断においては、内科、放射線診断部、光学医療診療部、病理部と、また治療においても内科、放射線治療部、光学医療診療部との協力、会議を通して、外科治療のみにとどまらないきめ細やかな診療を心掛けています。治療においては、胸腔鏡を用いた低侵襲手術を積極的に取り入れ、痛みの少ない入院期間の短い手術を行っています。

対象疾患

肺がん、縦隔腫瘍、気胸、膿胸、胸壁腫瘍、悪性胸膜中皮腫、手掌多汗症 等

先進医療等への取り組み

■胸腔鏡手術

適応症：原発性肺がん・転移性肺腫瘍・縦隔腫瘍 等
内容：従来の胸部の手術は、30cm前後の皮膚切開で筋肉と肋骨を切断し、肋間を開大して行われていました。時代の流れとともに低侵襲な手術が注目を集め、呼吸器外科の分野にも胸腔鏡手術という新しい方法が提唱されるようになりました。胸腔鏡手術とは、胸腔鏡という細いカメラを肋骨と肋骨の間から挿入して、テレビモニターに映し出される画面を見ながら手術を行う方法です。近年の胸腔鏡技術の進化により、

氏名	職名	専門分野
佐藤 幸夫	教授	呼吸器外科、肺がん治療、胸腔鏡手術、集学的治療
市村 秀夫	教授（日立社会連携教育研究センター）	呼吸器外科、肺がん治療、集学的治療
鬼塚 正孝	准教授	呼吸器外科、肺がん治療、腫瘍外科
後藤 行延	講師	呼吸器外科、肺がん治療、一般外科、胸腔鏡手術、気管支鏡診断治療、細胞診断
鈴木 久史	講師（茨城県地域臨床教育センター）	呼吸器外科、肺がん治療、胸腔鏡手術
菊池 慎二	講師	呼吸器外科、肺がん治療、一般外科、胸腔鏡手術、気管支鏡診断治療
井口けさ人	講師（水戸地域医療教育センター）	呼吸器外科、肺がん治療、一般外科、胸腔鏡手術、気管支鏡診断治療
小林 尚寛	講師	呼吸器外科、肺がん治療、胸腔鏡手術、気管支鏡診断治療

肺がんに対する標準手術（肺葉切除、縦隔リンパ節郭清）も4～5cmの皮膚切開で、筋肉や肋骨を切断することなく行うことが可能となりました。

当科では原発性肺がんの手術において9割以上を完全胸腔鏡下で行っています。胸腔鏡手術の導入により、術後の痛みは圧倒的に軽減され、術後合併症の減少や術後呼吸機能が維持されます。また、早期退院、早期社会復帰が可能となりました。当科では胸腔鏡手術において、安全で確実なリンパ節郭清法の確立や独自の手術器具の開発などに積極的に取り組み、学会等にて提案し、高い評価を得ています。また、個々の患者さんの気管支・肺動静脈をCTデータを基に3D画像に再構成し手術シミュレーションを行い、更に手術の精度を向上させ区域切除等の積極的縮小手術も胸腔鏡下に遂行しています。

診療実績

外来診療実績

患者数

項目	人数
患者数	3,405
初診患者数	229
紹介患者数	214
逆紹介患者数	197

治療に関するコメント等

疾病・検査・手術実績

当科の昨年度の入院患者は年間4,651人、手術例数は250件で、原発性肺悪性腫瘍の手術件数は131件、転移性肺腫瘍の手術は35件でした。これら肺悪性腫瘍の手術の約9割を胸腔鏡を用い低侵襲に遂行しており、肺がんの手術後平均で7日で患者さんは退院され、当科の平均在院日数（化学療法等含む）8.3日と短縮してきています。また術後補助化学療法が必要な患者さんには積極的に外来化学療法を導入し、昨年度は44例に施行しました。胸腔鏡手術による入院期間の短縮・外来化学療法により、治療の精度を高めながら患者さんの早期社会復帰を進めています。呼吸器内科・放

射線科・病理・放射線腫瘍科・臨床腫瘍科とCancer bordを週1回行い、治療方針を決定しています。この体制により、進行例にも周学的治療を積極的に遂行しています。また、肺尖部胸壁浸潤肺がん・気管分岐部腫瘍等、難易度の高い症例を県内全域から紹介を受け、手術および術後集中管理を遂行しています。

入院診療実績

患者数

項目	人数
患者数	4,651
新入院患者数	492
平均在院日数	8.3日

手術件数

術名	件数
原発性肺悪性腫瘍	131
転移性肺腫瘍	35

治療成績

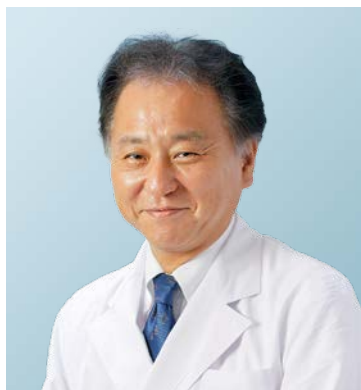
当科の肺がん手術成績は下記資料のように、IA期の5年生存率は90.4%と9割を超え非常に良好です。同様にIB期69.7%、IIA期70.2%、IIB期65.5%、IIIA期47.8%と全国調査と同等またはそれ以上に良好です。

特にIIA期、IIB期、IIIA期のリンパ節転移のある進行肺がんの成績は良好であり（肺癌登録合同委員会による全国調査ではIA期85.9%、IB期69.3%、IIA期60.9%、IIB期51.1%、IIIA期41.0%）、精度の高い縦隔リンパ節郭清と積極的な術後補助療法が功を奏していると考えます。

5年生存率 病理病期

p-stage	n	5 yr OS (%)	5 yr OS (%) Sq	5 yr OS (%) Ad
IA	374	90.4	76.2 (n = 57)	94.1 (n = 274)
IB	156	69.7	59.3 (n = 50)	74.3 (n = 86)
IIA	55	70.2	60.3 (n = 19)	76.2 (n = 30)
IIB	556	65.5	71.8 (n = 13)	71.7 (n = 30)
IIIA	106	47.8	36.9 (n = 25)	49.3 (n = 66)
IIIB	2	0	0 (n = 1)	- (n = 0)
IV	22	20.5	0 (n = 5)	32.1 (n = 16)





診療グループ長 教授

山縣 邦弘

診療グループの特徴

筑波大学附属病院開院以来、腎臓内科は糸球体腎炎の病態解明と治療をはじめとする腎臓疾患の診療と研究をしています。当科では腎臓内科疾患全般、腎臓病の早期発見としての検尿異常者の対処方法から、腎炎、ネフローゼ症候群の診断と治療、保存期慢性腎不全から透析導入、長期透析患者の合併症対策、腎臓移植後の治療管理まで、腎臓内科疾患の予防、診断、治療のすべての診療を行っています。さらに、腎疾患以外の肝疾患、自己免疫疾患や神経筋疾患などの疾患に対しても積極的に血液浄化療法などの治療を行っています。筑波大学腎臓内科学では、厚生労働省進行性腎障害調査研究班の急速進行性腎炎症候群分科会を代表して、本症の予後改善、診療指針の作成に中心的な役割を担っています。また平成19年度に開始した厚生労働省「腎疾患重症化予防のための戦略研究」の研究リーダー、平成22年度からは研究代表者として、かかりつけ医と腎臓専門医の協力体制による透析導入患者の減少を目指してきました。この戦略研究での知見をもとに慢性腎臓病の医療連携の構築と均てん化、及び医療施策への反映を検証してまいりました。更に平成27年度からは日本医療研究開発機構から「慢性腎臓病進行例の実態把握と透析導入回避のための指針の作成に関する研究」として、新規の透析導入患者減少に向け、理想の腎専門医の診療方法を検討しております。今後とも地域の医療機関の先生方との連絡を密に取り

ながら、腎疾患の診療と研究の発展に向け努力を継続します。

診療領域・体制

原発性糸球体腎炎、糖尿病・高血圧・膠原病等による二次性腎疾患、ネフローゼ症候群、多発性嚢胞腎を含めた遺伝性腎疾患、間質性腎炎など全ての内科的腎疾患、急性・慢性腎不全、維持透析や腎移植患者における合併症などを総合的に診断、治療、研究を行っています。また、腎疾患以外の肝疾患、自己免疫疾患や神経筋疾患などの疾患に対しても積極的に血液浄化療法などの治療を行っています。

外来では、全ての内科的腎疾患ならびに腎不全に対して、薬剤師、管理栄養士、看護師、臨床検査技師、臨床工学技士等のメディカルスタッフと協力し、患者さん・家族を対象とした腎臓病教室の開催や、個別指導により、薬物療法、食事療法、生活指導を含めた総合的な治療を実践しています。また、心血管病をはじめとする多様な合併症についても、他診療科と協同して診療にあたります。

対象疾患

原発性糸球体腎炎（慢性糸球体腎炎、急速進行性糸球体腎炎、急性糸球体腎炎）、糖尿病・高血圧・膠原病等による二次性腎疾患、ネフローゼ症候群、多発性嚢胞腎を含めた遺伝性腎疾患、間質性腎炎、急性腎不

氏名	職名	専門分野
山縣 邦弘	教授	内科、腎臓内科
斎藤 知栄	病院教授	内科、腎臓内科
植田 敦志	准教授（日立社会連携教育研究センター）	内科、腎臓内科
臼井 丈一	准教授	内科、腎臓内科
森戸 直記	講師	内科、腎臓内科
甲斐 平康	講師	内科、腎臓内科
金子 修三	講師	内科、腎臓内科
野口 和之	講師（神栖地域医療教育センター）	内科、腎臓内科
永井 恵	講師	内科、腎臓内科
藤田亜紀子	病院講師	内科、腎臓内科
田原 敬	助教	内科、腎臓内科

全、慢性腎不全血液浄化療法：血液透析療法、腹膜透析療法その他の血液浄化療法の対象疾患：重症筋無力症、ギランバレー症候群などの神経筋疾患、全身性エリテマトーデス、劇症肝炎、術後肝不全、血栓性血小板減少性紫斑病、潰瘍性大腸炎、家族性高コレステロール血症、敗血症性ショック、コレステロール塞栓症、など

先進医療等への取り組み

先進医療B「コレステロール塞栓症に対する血液浄化療法」を平成25年より実施しており、血管内操作、血管外科的手術後にコレステロール塞栓症を発症し急速に腎機能障害が進行した患者さんに対するLDLアフェレーシス療法を施行しています。

診療実績

■外来診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	10,000
初診患者数	216
紹介患者数	185
逆紹介患者数	356

□検査件数

検査名	件数
腎生検	92

□検査に関するコメント等

腎疾患の確定診断に必要な腎生検は、主に超音波ガイド下で経皮的に、年間約80例（内訳は、微小変化型ネフローゼ症候群5%、巣状糸球体硬化症15%、膜性腎症15%、IgA腎症40%、膠原病性腎障害15%、その他10%）施行しています。また、関連医療機関で施行された腎生検標本に対しても病理組織診断（光学顕微鏡、蛍光抗体法、電子顕微鏡より）を年間約200例行い、各医療機関に報告しています。

□治療件数

治療名	件数
多発性嚢胞腎へのトルバプタン療法	8

□治療に関するコメント等

難治性遺伝性腎疾患である多発性嚢胞腎に対する新規治療薬トルバプタン療法を年間5～10例実施しています。

■入院診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	7,069
新入院患者数	349
平均在院日数	17.5日

□手術件数

術名	件数
内シャント造設術	76
透析用カフ付きカテーテル挿入術	17
PDカテーテル出口形成術	3

□手術に関するコメント等

血液透析や腹膜透析に必要なアクセスのための手術を年間約60～80例施行しています。

□治療成績（特徴的なもの）

慢性腎不全患者の新規透析療法導入数は年間50～70人、重症合併症に対する治療目的にて紹介される維持透析患者は年間30～50人、その他、急性腎不全患者や他臓器疾患の合併症を有する保存期慢性腎不全患者の検査・治療の際の一時的な透析療法を含めると延べ透析患者数は年間約300人に及びます。

また、劇症肝炎・術後肝不全などの肝疾患、全身性エリテマトーデス、ギランバレー症候群、重症筋無力症などの自己免疫疾患や神経筋疾患に対する血漿交換及び免疫吸着療法を年間20～30人、延べ年間80～100件施行しています。さらに、多臓器不全・systemic inflammatory response syndromeに対する持続血液透析濾過やエンドトキシン吸着療法も年間10～20件施行しています。





診療グループ長 教授

西山 博之

診療グループの特徴

我々、腎泌尿器外科診療グループは、まず安全な医療を第一に、丁寧な説明と同意、患者さんの生活の質の重視、および先端医療の提供を基本姿勢として診療に当たっています。特に重点を置いているのが悪性疾患に対する治療です。膀胱癌においては経尿道的手術や膀胱全摘術、化学療法などを数多く行っていますが、生活の質を重視し陽子線治療を利用した膀胱温存療法やBCG免疫療法による膀胱温存療法も積極的に行っています。前立腺癌においてはDaVinci手術支援用ロボットを用いた前立腺全摘術や陽子線治療など幅広い治療選択肢を提供できます。希少疾患の難治性精巣腫瘍の化学療法やリンパ節廓清術の経験も豊富です。低侵襲手術である副腎、腎臓の体腔鏡手術、蛍光膀胱鏡を用いた新規膀胱癌診断法や、MRI画像を超音波画像に同期させた高精度前立腺生検法などの新たな技術も導入しています。泌尿器悪性腫瘍に関するセカンドオピニオンは県内のみならず全国から年間100件以上の相談を受け入れているほか、多くの臨床治験も実施しています。そのほか生殖、神経因性膀胱、女性泌尿器科の専門外来も開設し、結石や前立腺肥大症などの良性疾患も信頼のおける関連施設と協力して診療しています。

診療領域・体制

尿路性器癌（腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣腫瘍など）、前立腺疾患（前立腺肥大症、排尿障害、前立腺炎など）、排尿生理、男性不妊症、男性機能障害、副腎疾患、尿路感染症、後腹膜腔の疾患など泌尿器科の全分野において専門的な診療を行っています。

対象疾患

前立腺癌、膀胱癌、腎細胞癌、精巣腫瘍、副腎腫瘍、排尿障害、男性機能障害、女性泌尿器疾患、不妊症等

先進医療等への取り組み

適応症：尿路性器癌（腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣腫瘍など）

内 容：膀胱癌に対しては、放射線腫瘍科とともに動注化学療法併用放射線治療による膀胱温存療法を行っています。また、リンパ節転移のあるケースに対する膀胱温存にも取り組み始めています。前立腺癌に対しては、放射線腫瘍科と緊密な連携を行い、通常の放射線治療だけではなく、IMRTや陽子線治療も行っています。前立腺癌、腎癌、精巣腫瘍を含め尿路性器癌全般に対しては、積極的に新規薬物療法（抗癌剤や内分泌療法、分子標的薬、癌免疫療法、癌ワクチン等）の治験を行っています。また、基礎研究の分野では、「尿路上皮癌の遺伝子変異解析」等の研究を開始し、日々、

氏名	職名	専門分野
西山 博之	教授	泌尿器腹腔鏡手術、泌尿器腫瘍学、生殖医学、泌尿器外科学
河合 弘二	病院教授	精巣癌、尿路上皮癌、前立腺癌に対する化学療法、腎臓癌に対する細胞・免疫療法
小島 崇宏	講師	泌尿器外科学、泌尿器腫瘍学
星 昭夫	講師	泌尿器外科学、泌尿器腹腔鏡手術、再生医学
木村 友和	講師	泌尿器外科学、泌尿器腫瘍学
神鳥 周也	講師	泌尿器外科学、泌尿器腫瘍学
河原 貴史	助教	泌尿器外科学
和久 夏衣	病院講師	泌尿器外科学、女性泌尿器
池田 篤史	病院講師	泌尿器外科学
根来 宏光	病院講師	泌尿器外科学、排尿生理学、時間生物学、生殖医学
南雲 義之	病院助教	泌尿器外科学

新規治療法の開発にも取り組んでいます。外科的治療の分野においても、体腔鏡下腎部分切除を含めた先進的な体腔鏡手術の他、腎癌に対するソフト凝固を用いた無阻血腎部分切除のような腎機能温存を目指した手術を行っています。光線力学的診断（Photodynamic diagnosis; PDD）を応用した膀胱癌に対する内視鏡手術や3次元立体視下の体腔鏡手術、そしてDaVinciによるロボット手術を行っています。

診療実績

■ 外来診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	14,783
初診患者数	571
紹介患者数	526
逆紹介患者数	570

□ 検査件数

検査名	件数/年
透視下処置（腎瘻造設、交換、尿管ステント留置、膀胱造影）	250
前立腺生検	62
後腹膜・腎生検	9

□ 治療件数

治療名	件数/年
膀胱温存療法（動注）	6
膀胱温存療法（静注）	13

□ 治療成績（特徴的なもの）

浸潤性膀胱癌に関する動注化学療法併用放射線治療では延べ140件を超え、膀胱温存率80%と良好な成績を示しています。また、精巣腫瘍に関しては転移巣がある場合にも積極的な化学療法にて80%以上の5年生存率を認めています。

■ 入院診療実績

□ 患者数

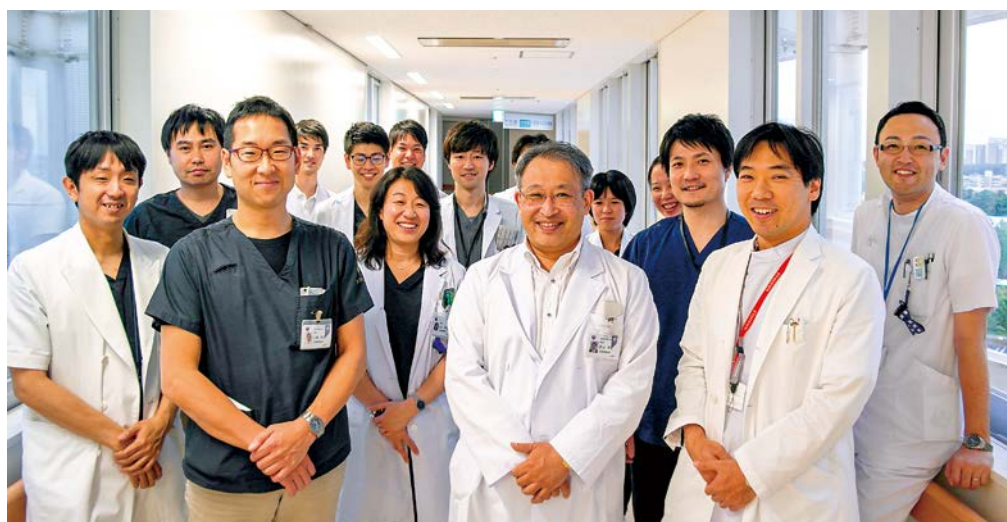
項目	人数
患者数	10,822
新入院患者数	911
平均在院日数	10.8日

□ 手術件数

手術総数：503件

□ 手術に関するコメント等

主な手術は、膀胱腫瘍関連（経尿道的膀胱腫瘍切除術141件、膀胱全摘術29件）、腎腫瘍関連（体腔鏡下腎摘術8件、開腹腎摘術10件、開腹腎部分切除術14件、ロボット支援腎部分切除術28件、体腔鏡下腎部分切除術1件）、腎盂尿管腫瘍関連（開腹腎尿管摘除術9件、体腔鏡下腎尿管摘除術8件）、前立腺腫瘍関連（ロボット支援手術83件）、精巣腫瘍関連（後腹膜リンパ節廓清18件）





診療グループ長 教授

島野 仁

診療グループの特徴

当診療グループは、動脈硬化を予防するための先端医療、人の繋がりを大切に世界をまたにける医療人材の育成、生活習慣病を科学する夢のある研究の発信をめざしています。

糖尿病の治療は、生活習慣をはじめ患者さんを取り巻く様々な環境の改善を必要とし、今だけでなく将来を見据えた生活習慣管理をチーム医療として展開しています。糖尿病教育入院は2週間を基本としていますが、専門的医療チームによる診療・指導体制を充実させています。また、糖尿病患者には、癌、血管合併症、認知症、膵臓・肝臓疾患、内分泌疾患が隠れていることが少なからずあり、これらを見逃さないことを当科では目標としています。

脂質異常症、肥満症、メタボリックシンドロームなどの代謝疾患について、動脈硬化性合併症予防の観点から、食事・運動療法指導などをふくむ幅広い対応を行っています。内分泌疾患（視床下部・下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺）に関しては、茨城県のセンターとして専門的診療の提供に努めており、県内一円から広くご紹介をいただいております。

診療領域・体制

糖尿病：糖尿病の治療は、看護師や管理栄養士、薬剤師、理学療法士などと連携し、食事療法および運動療法に加え、各患者さんの病態やライフスタイルに応じた最適な治療法を選択し、治療にあたっています。合併症の進行した患者さんや1型糖尿病、糖尿病合併

妊娠・妊娠糖尿病などを対象とするだけでなく、地域連携の一環として糖尿病教育入院も行っています。HbA1c $\geq$ 8.0%で入院を希望する患者さんがいらっしゃいましたら、積極的にご紹介ください。患者さんの持つすべての問題に対して細かく評価し、治療・対応方針を検討します。退院後、紹介元の医療機関にお戻りいただく時には、主治医の先生が安心して継続していただける治療方針を提示させていただきます。

高脂血症（脂質異常症）：原発性（家族性）高脂血症の診断・治療を行っています。

内分泌疾患：内分泌疾患の診断および内科的治療を行っています。また、外科的治療が必要な患者さんは、乳腺・甲状腺・内分泌外科や脳神経外科、腎泌尿器外科と連携し診療にあたっています。

対象疾患

糖尿病（1型糖尿病、2型糖尿病、糖尿病合併妊娠、妊娠糖尿病等）、甲状腺疾患（バセドウ病、橋本病、亜急性甲状腺炎等）、脂質異常症、メタボリックシンドローム、肥満症、動脈硬化症、骨粗鬆症、視床下部・下垂体疾患（クッシング病、先端巨大症、プロラクチノーマ、非機能性下垂体腺腫、下垂体機能低下症、リンパ球性下垂体炎、重症成人成長ホルモン分泌不全症、抗利尿ホルモン不適切分泌症候群、中枢性尿崩症）、副甲状腺疾患（原発性副甲状腺機能亢進症、特発性副甲状腺機能低下症、偽性副甲状腺機能低下症）、副腎疾患（原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫、アジソン病、先天性副腎皮質過形成

氏名	職名	専門分野
島野 仁	教授	糖尿病、内分泌、脂質異常症、動脈硬化症
川上 康	教授	糖尿病、内分泌
竹越 一博	教授	内分泌、糖尿病
野牛 宏晃	教授（水戸地域医療教育センター）	糖尿病、内分泌、脂質異常症、動脈硬化症
鈴木 浩明	病院教授	糖尿病、内分泌、脂質異常症、動脈硬化症
矢作 直也	准教授	糖尿病、脂質異常症、動脈硬化症
矢藤 繁	講師	糖尿病、内分泌、脂質異常症
岩崎 仁	講師	糖尿病、内分泌、脂質異常症
関谷 元博	講師	糖尿病、脂質異常症、動脈硬化症

等)、消化管疾患（インスリノーマ・ガストリノーマ・カルチノイド等の消化管膵内分泌腫瘍）、多発性内分泌腫瘍症 1 型・2 型。

先進医療等への取り組み

・インスリンポンプ（インスリン持続皮下注入療法）、皮下グルコース連続測定（CGM）

1 型糖尿病や糖尿病合併妊娠などで血糖を厳格かつ安定的にコントロールしたい患者さんにインスリンポンプを積極的に導入しています。また、CGMを行い 6 日間の血糖変動を評価し、治療方針を決定しています。特に、CGM 機能がインスリンポンプに組み込まれた SAP（sensor augmented pump）を用いることで、日々の血糖変動を連続的に評価したり、高血糖・低血糖アラームを用いたりすることで、重症低血糖のリスクを増やすことなく厳格な血糖コントロールが可能になってきています。

診療実績

■ 外来診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	15,376
初診患者数	465
紹介患者数	436
逆紹介患者数	399

■ 入院診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	4,905
新入院患者数	449
平均在院日数	9.8 日

■ 治療成績（特徴的なもの）

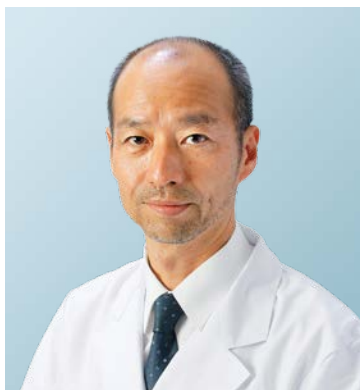
2017 年度（入院、延べ人数、疑い症例も含む、主病名での分類）

□ 診療実績

1 型糖尿病	28 名
2 型糖尿病	193 名
糖尿病ケトアシドーシス	9 名
糖尿病合併妊娠・妊娠糖尿病	12 名
その他の糖尿病	14 名
視床下部・下垂体疾患	40 名
甲状腺疾患	6 名
副甲状腺疾患	4 名
副腎疾患	100 名
低血糖症	10 名
性腺疾患	1 名
電解質異常	3 名
その他内分泌代謝疾患	7 名
その他	19 名



乳腺・甲状腺・内分泌外科



診療グループ長 教授

原 尚人

診療グループの特徴

乳腺・内分泌（甲状腺・副甲状腺・副腎）疾患の診断、治療を行っています。どの臓器も良性疾患、悪性疾患があり、経過観察、薬物療法、手術療法、放射線療法まで、様々な治療法があります。個々の患者さんの状態にあった治療が選択できるように、当グループが中心となって説明し、放射線科、腫瘍内科、内分泌内科と連携し診療を行っています。最近の知見やガイドラインを踏まえた上、患者さんの生活背景も考慮して、治療の御相談をしております。甲状腺・副腎疾患に関しては内視鏡や腹腔鏡、乳腺では乳房再建、といった整容性に配慮した手術も行っています。

診療領域・体制

■ 甲状腺疾患

甲状腺の良性疾患として、甲状腺機能異常や感染性疾患、良性結節、びまん性腫大があります。まず、薬物療法などの保存的治療を行います。バセドウ病では、長期の内服治療で寛解困難な症例では、①放射線内用療法（アイソトープ治療）、②外科的切除の選択をお勧めしています。内服薬で副作用が強い場合、眼症を認める場合、早期に妊娠を希望されている場合は、外科的切除をお勧めしています。巨大甲状腺腫に関しても、御相談により手術切除を行うこともあります。橋本病（慢性甲状腺炎）に関しては、甲状腺機能低下症が見られる場合は甲状腺ホルモンの補充をします。橋本病では、まれに悪性リンパ腫の合併を認め、特に急速に甲状腺が腫大する際には超音波検査が必要です。必要時には生検を行い、血液内科と連携して診断をしています。

甲状腺腫瘍については、超音波検査と細胞診で悪性を疑う病変か良性を疑う病変か診断しています。良性でも、硬く大きく、外見上あるいは生活に支障が出るもの、急速に大きくなる腫瘍に関しては、御相談し手術切除をしています。甲状腺癌に関しては、組織型、分化度、進行度に応じて、最も適切な治療法を選択できるよう御説明しています。1 cm以下の癌（微小癌）に関して経過観察の選択もお勧めしています。進行度に応じて、外来で行える範囲の甲状腺

摘出後の放射線内用療法や、近年保険適応となった薬物療法も行っています。

甲状腺の手術療法に関しては、良性疾患に対する内視鏡下の手術も保険適応で受けることができます。悪性疾患に関しては、根治性を保つことを重視していますが、高度先進医療として内視鏡補助下切除にも取り組んでいます。一般的な手術に関しても、根治性を重視し、なおかつ、合併症の少ない手術に取り組んでおり、副甲状腺機能の温存、反回神経の温存、喉頭周囲の発声に関わる筋肉の温存を心がけています。必要時には反回神経再建も行っています。

■ 副甲状腺疾患

原発性副甲状腺機能亢進症、二次性（腎性）副甲状腺機能亢進症に対する診断、手術を行っています。副甲状腺ホルモンの過剰分泌は、高カルシウム血症、骨粗鬆症、尿路結石の原因となります。高カルシウム血症は、倦怠感、頭重感、食欲低下など非特異的な症状から重症例では意識障害を来します。採血、尿検査で診断後、超音波検査やシンチグラフィーで、腫大した副甲状腺腫瘍の局所診断を行い、手術切除しています。多くは、腺腫、時に過形成といった良性腫瘍ですが、まれに悪性腫瘍も認めます。二次性副甲状腺機能亢進症では、薬物療法の内科的治療も可能ですが、薬物療法でコントロール不良な場合には、腎臓内科と協議の上、手術切除を行うことがあります。

手術療法として、内視鏡補助下に手術も状況によっては選択することができます。

■ 副腎疾患

過剰分泌されるホルモンの種類により様々な症状を来します。

原発性アルドステロン症は、高血圧と低カルシウム血症を来します。クッシング症候群は、高血糖や高脂血症、高血圧、満月様顔貌、中心性肥満などを来します。褐色細胞腫は、頭痛、動悸、多汗、高血圧発作などを来します。いずれのホルモンの過剰分泌もしない非機能性副腎腫瘍も存

氏名	職名	専門分野
原 尚人	教授	乳腺外科、内分泌外科
穂積 康夫	教授（茨城県地域臨床教育センター）	乳腺外科、内分泌外科
坂東 裕子	准教授	乳腺外科、内分泌外科
都島由希子	講師	乳腺外科、内分泌外科
井口 研子	講師	乳腺外科、内分泌外科
市岡恵美香	病院講師	乳腺外科、内分泌外科

在します。これらの診断で、入院が必要なものは内分泌内科で診断し、当グループで手術を行っています。術前後でホルモン状態が変化するため、周術期の管理が必要な場合もあります。(開胸)開腹手術は、傷も大きく、時間も要するため、明らかに大きい又は悪性を疑うものを除き、腹腔鏡下に手術を行っています。

■ 乳腺疾患

当院の特徴は早期乳癌の確実な診断にあります。2003年には世界に先駆けて組織弾性映像法(エラストグラフィ)を日立メディコとともに開発しました。これにより、良性疾患への侵襲的な診断を回避することが可能となっています。確定診断は、穿刺吸引細胞診、針生検、吸引式組織生検、ステレオガイド下マンモトーム生検により行います。さらにMRI、CTを駆使して乳癌の広がりを実際に評価し、必要最低限の組織の切除を行っています。この15年間での乳房温存療法の局所再発率は1.5%であり、極めて定率です。初期の乳癌の治療方法には乳房温存療法、乳房切除術、御希望により形成外科チームと共に乳房再建術を提供しています。また、センチネルリンパ節生検を行い、リンパ浮腫予防に努めています。腫瘍の大きさや再発リスクに応じて、術前化学療法もしくは内分泌療法を行い、癌を縮小させた後に外科的切除を行う場合もあります。術後の放射線治療は放射線腫瘍科が担当し、コンピューターを用いて位置を正確に測定し照射範囲を決定しています。術前後の全身療法、再発治療は世界的な標準治療に基づき実施しており、また臨床試験や治験も積極的に導入しています。化学療法は快適性、安全性に配慮し、専門薬剤師や看護師の常駐する外来化学療法室で実施しています。遺伝診療部との連携により、家族性/遺伝性乳癌への対応も行っています。近隣の医療機関と“つくば乳癌ネットワーク”を設立し、定期的なカンファランスを開催し、お互いの交流を図りながら最先端の治療の知識を共有し、その能力の向上および適切な医療の提供に努めています。

■ 対象疾患

内分泌疾患：甲状腺、副甲状腺、副腎など

乳腺疾患：良性腫瘍、悪性腫瘍、炎症性疾患など全般

■ 先進医療等への取り組み

■ 内視鏡補助下甲状腺癌手術

適応症：甲状腺乳頭癌

内 容：頸部に1.5～2.5cmの小切開をおき、内視鏡補助下に甲状腺切除および頸部リンパ節郭清を行います。

■ 診療実績

■ 外来診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	15,041
初診患者数	1,088
紹介患者数	974
逆紹介患者数	474

□ 検査件数

体表超音波検査(頸部、乳腺)

ステレオガイド下マンモトーム生検

□ 検査に関するコメント等

超音波検査は専門の超音波検査士、超音波専門医が担当しています。

□ 治療件数

治療名	件数
乳癌(新規症例)	417
甲状腺癌(新規症例)	98
バセドウ病(新規症例)	45

□ 治療に関するコメント等

化学療法は外来化学療法室における通院治療が主体です。

■ 入院診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	3,919
新入院患者数	541
平均在院日数	6.2日

□ 手術件数

術名	件数
乳房部分切除術	137
乳房切除術	166
乳房良性疾患手術	44
再建手術	56
甲状腺癌手術	71
副腎手術	15
甲状腺良性腫瘍術	39
バセドウ甲状腺全摘術	24
副甲状腺手術	23

□ 手術に関するコメント等

乳癌では形成外科と連携し、数多くの同時再建手術を行っています。乳輪乳頭温存乳房切除も実施しています。



膠原病リウマチアレルギー内科



診療グループ長 教授

住田 孝之

診療グループの特徴

当診療グループでは、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群をはじめとする膠原病・自己免疫疾患の診療を行っています。近年、この分野の診療は、生物学的製剤や新規免疫抑制薬の臨床応用により、めざましい進歩を遂げています。我々は、サイエンスに基づく内科学を実践し、早期診断とエビデンスレベルの高い治療を提供しています。茨城県内においては膠原病・自己免疫疾患の専門医の数は十分とはいえない状況ですが、地域の一般病院、診療所とも連携をとりながら、最新・最善の医療を提供していきますよう、スタッフ一丸となって取り組んでいく所存です。

診療領域・体制

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、血管炎症候群等の膠原病・自己免疫疾患の診断及び治療が中心であり、現在約2,600名の患者さんが外来通院中です。入院患者は常時20～25名程度です。診療は紹介患者が中心で予約制を取っています。特定の医師が特定の疾患を専門に治療するというのではなく、特に入院中はチームによる合議制で診療を進めています。

対象疾患

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、強皮症、多発性筋炎/皮膚筋炎、混合性結合組織病、抗リン脂質抗体症候群、血管炎症候群、成人発症スチル病、脊椎関節炎、ベーチェット病、IgG4関連疾患等

先進医療等への取り組み

適応症：関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、IgG4関連疾患等

内 容：当診療グループでは、自己免疫疾患の病因・病態の解明、疾患特異的治療の構築に向けて、多くの臨床研究を実施しています。また関節リウマチに対する新規生物学的製剤、分子標的治療薬の治験も実施しています。

関節リウマチ：生物学的製剤投与患者の画像評価（手専用コンパクトMRI、関節エコー）・有効性評価・安全性評価、新規生物学的製剤・分子標的治療薬の治験

シェーグレン症候群合併関節リウマチ：生物学的製剤の有効性評価

全身性エリテマトーデス等：疾患感受性遺伝子検索

IgG4関連疾患：治療ガイドラインの構築に向けた前向き治療研究

氏名	職名	専門分野
住田 孝之	教授	リウマチ、膠原病
松本 功	准教授	リウマチ、膠原病
後藤 大輔	准教授（茨城県地域臨床教育センター）	リウマチ、膠原病
林 太智	准教授（ひたちなか社会連携教育研究センター）	リウマチ、膠原病
千野 裕介	講師（水戸地域医療教育センター）	リウマチ、膠原病
坪井 洋人	講師	リウマチ、膠原病
近藤 裕也	講師	リウマチ、膠原病
横澤 将宏	病院講師	リウマチ、膠原病
安部 沙織	助教	リウマチ、膠原病
柳下 瑞希	助教	リウマチ、膠原病
藏田 泉	助教	リウマチ、膠原病

診療実績

■ 外来診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	20,090
初診患者数	415
紹介患者数	387
逆紹介患者数	422

□ 検査件数

検査名	件数
手専用コンパクトMRI	177
関節エコー検査	260

□ 治療件数

治療名	症例数
関節リウマチに対する生物学的製剤による治療（点滴静注製剤）※症例数	100

□ 治療に関するコメント等

生物学的製剤による治療は、投与形態が点滴静注のものについては外来化学療法室を使用しています。

投与形態が皮下注射（自己注射の投与指導を含む）のものは、一般外来ブースで投与を行います。

□ 治療成績（特徴的なもの）

疾病・検査・手術実績

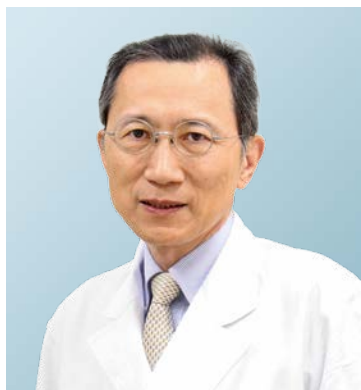
関節リウマチ：患者数約1,000名、生物学的製剤投与患者数約200名、手専用コンパクトMRI実施件数約200件/年、関節エコー実施件数約200～250件/年

■ 入院診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	8,503
新入院患者数	354
平均在院日数	21.1日





診療グループ長 教授

千葉 滋

診療グループの特徴

血液診療グループは、1日約60名の外来および約45名の入院患者の診療にあたっています。外来は12名で担当しています。入院診療は、スタッフ（主治医）、副主治医、受持医のチームで行います。診療対象となる疾患は、血液の腫瘍、造血障害性の疾患、種々の溶血性貧血、特発性血小板減少性紫斑病、血友病など、あらゆる血液疾患です。治療の進歩が著しい分野ですが、次々に登場する新薬を導入しています。また従来から行ってきた造血幹細胞移植については、数の上でも質の上でも一段と充実してきました。初診の患者さんは原則として月曜日と金曜日に血液内科スタッフが担当いたします。かかりつけの患者さんで、急を要する場合には「予約方法等」の連絡先に御連絡いただき、指定時間帯以外でも受診可能です。入院患者の診療については、チーム外のスタッフも含め密に治療方針を協議し、一方患者さんにはできるだけ病状を詳細に説明して治療方針を御理解いただき、患者さんと共通の理解のもとで治療が行われるよう努力を重ねています。

診療領域・体制

血液疾患の診断と治療、造血幹細胞移植（骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植）、血縁者ドナーからの骨髄および末梢血幹細胞採取、非血縁者ドナーからの骨髄採取 等

対象疾患

急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、慢性骨髄性白血病、慢性リンパ性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群、再生不良性貧血、溶血性貧血（自己免疫性、発作性夜間ヘモグロビン尿症など）、特発性血小板減少性紫斑病、真性赤血球増加症、原発性骨髄線維症、本態性血小板血症、血友病 等

診療実績

外来診療実績

患者数

項目	人数
患者数	13,306
初診患者数	332
紹介患者数	279
逆紹介患者数	320

検査件数（入院・外来共通）

検査名	
骨髄穿刺	922件

氏名	職名	専門分野
千葉 滋	教授	造血器腫瘍、造血幹細胞移植、再生不良性貧血
二宮 治彦	教授	再生不良性貧血、発作性夜間血色素尿症、溶血性貧血等の貧血性疾患
長谷川雄一	病院教授	造血幹細胞移植、造血器腫瘍、血友病、輸血医学
小原 直	准教授	再生不良性貧血、造血器腫瘍
坂田麻実子	准教授	造血器腫瘍
錦井 秀和	准教授	造血器腫瘍、造血幹細胞移植、血小板疾患
横山 泰久	講師	造血幹細胞移植、造血器腫瘍、成人慢性好中球減少症
栗田 尚樹	講師	造血幹細胞移植
加藤 貴康	講師	造血器腫瘍
日下部 学	病院講師	造血器腫瘍
坂本 竜弘	病院講師	再生不良性貧血、骨髄異形成症候群
丸山ゆみ子	クリニカルフェロー	血液内科全般

□治療件数

造血器腫瘍に対する化学療法

実患者数	215人
化学療法加算延べ件数	963件
化学療法延べ件数	1,662件

■入院診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	15,859
新入院患者数	680
平均在院日数	20.9日

□治療件数

治療名	人数
同種造血幹細胞移植	42件
自家造血幹細胞移植	12件
急性骨髄性白血病初回寛解導入	14件
急性リンパ性白血病初回寛解導入	10件

■治療成績（特徴的なもの）

化学療法のみでは治癒を期待しにくいタイプの白血病、リンパ腫、多発性骨髄腫などに対する、造血幹細胞移植に積極的に取り組んでいます。移植件数は全国の大学病院のなかでも有数の規模に達しており、2017年度より、造血幹細胞移植学会認定施設に指定されています。複数の移植学会認定医や、移植コーディネータなど移植専門のスタッフを擁しています。また24の個室を有する血液内科病棟はフロア全体が無菌エリアであり、感染症をより起こしにくい環境で治療を受けることができるだけでなく、治療中も行動が制限されにくい環境が整っています。最近は移植の方法を工夫することで、高齢の方への移植（ミニ移植）や、ドナーの見つかりにくい方への移植（臍帯血移植や親子間移植）も可能となってきました。当施設ではこれらの移植の臨床試験にも取り組んでおり、その成果を国際学会や国際誌に発表しています。



■開院からの初診患者数（コンサルテーション含む 2007年末までは入院患者数のみ算定）

項目	人数
開院から2007/12/31までの初診総数	3,368
開院から2017/3/31までの初診総数	7,286
2008/1/1から2017/3/31までの初診総数	3,918
2008	366
2009	326
2010	417
2011	434
2012	395
2013	448
2014	484
2015	493
2016	445
2017	527
計	4,335

□主な疾患別患者数（開院から2018/3/31まで。ただし2007年末までは入院患者のみ）

項目	人数
急性骨髄性白血病	556
急性リンパ性白血病	205
慢性骨髄性白血病	226
慢性リンパ性白血病	54
成熟B細胞腫瘍	1,598
成熟T細胞およびNK細胞腫瘍	219
ホジキンリンパ腫	146
多発性骨髄腫	472
意義不明の単クローン性ガンマグロブリン血症	82
骨髄異形成症候群	392
再生不良性貧血	210
真性赤血球増加症	134
原発性骨髄線維症	28
本態性血小板血症	126
特発性血小板減少性紫斑病	372
発作性夜間ヘモグロビン尿症	21
自己免疫性溶血性貧血	34
血友病	43
アミロイドーシス	25
赤芽球癆	26
キャスルマン病	28
造血幹細胞移植ドナー	354



診療グループ長 教授

新井 哲明

診療グループの特徴

茨城の地域精神医療の発展に貢献することを最大の使命とし、従来からの精神医療はもとより、認知症あるいは小児のこころの医療の充実に努力して新しい時代が求める心の医療体制を作っています。精神疾患に悩まれる患者さんが増え続けている現状のなかで、地域の医療機関と協力しつつ良い関係を築いていきたいと思っています。

診療領域・体制

大学病院の中の精神神経科として、うつ病、神経症、摂食障害をはじめ、統合失調症、認知症性疾患、児童や思春期の精神障害などの外来及び入院診療を行っています。身体合併症を持つ患者さんについては他の診療科と連携して治療に当たっています。また内科や外科の入院患者に対するコンサルテーション・リエゾン精神医学にも積極的に取り組んでいます。

初診の患者さんの診察ではおよそ1時間を、再診でも可能な限りの時間をかけて患者さんの悩みを十分に傾聴しています。

患者さんの一日も早い社会復帰を念頭に入れた治療を目指し、入院中は、薬物療法や精神療法を中心とした治療を行っています。2013年4月からは、外来患者を対象としてデイケアをオープンしました。

対象疾患

うつ病、神経症、摂食障害、統合失調症、認知症性疾患、児童・思春期の精神障害 等

先進医療等への取り組み

■もの忘れ外来

適応症：認知症、神経変性疾患など

内 容：認知症の早期発見は大きな意義をもちますが、アルツハイマー病の初期状態などごく軽度の認知症の診断には、年齢相応の「もの忘れ」との鑑別が問題となるなど独特の難しさもあります。こうした初期認知症について正確に診断し効果的な治療を行うため、「もの忘れ外来」を行っています。

頭部画像検査（MRI、SPECTなど）、脳波検査、遺伝子診断などの検査により正確な診断に取り組んでいます。

治療については、進行を遅らせる抗認知症薬だけでなく根治につながる疾患修飾薬の治験も行っています。治療については外来治療が中心ですが、診断のために短期間の入院精査を行うこともあります。「もの忘れ外来」は月・火・水・金曜日に初診の患者さんを診療しています。

■周産期メンタルヘルス外来

出産は嬉しいものでありますが、同時に、母親となった女性にとっては人生が大きく変わることも意味しており、その中でうつ状態になってしまうことも決してまれではありません。このため、当科では産婦人科と連携して、妊娠中から心のケアを行っております。これまでにこころの病気を患っていた方が妊娠した場合、または、妊娠してからこころのバランスを崩してしまった場合、当科でも診察させていただき、よ

氏名	職名	専門分野
新井 哲明	教授	認知症、老年期精神障害、うつ病
太刀川弘和	准教授	うつ病、統合失調症
根本 清貴	准教授	うつ病、統合失調症、周産期メンタルヘルス
太田 深秀	講師	認知症、うつ病、統合失調症
井出 政行	診療講師	うつ病、統合失調症
白鳥 裕貴	診療講師	うつ病、統合失調症
松崎 朝樹	診療講師	うつ病、躁うつ病、統合失調症
塚田恵鯉子	病院講師	うつ病、統合失調症、認知症
石井 映美	助教	統合失調症、老年期精神障害

い出産を迎えることができるように協力していきます。また、産後のケアも行っております。

■精神科デイケア

うつ病患者のためのリワークデイケアおよび認知症進行予防のための認知力アップデイケアを実施しています。

診療実績

■外来診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	22,905
初診患者数	552
紹介患者数	509
逆紹介患者数	557

□検査に関するコメント等

必要に応じて各種心理検査を実施しています。

□治療に関するコメント等

もの忘れ外来、児童思春期外来、周産期メンタルヘルス外来と専門外来を開設しています。

■入院診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	9,340
新入院患者数	256
平均在院日数	33.1日

□手術件数

術名	件数
修正型電気けいれん療法	678

□治療成績（特徴的なもの）

うつ病、統合失調症、認知症の他に、摂食障害の低体重治療プログラムに取り組んでいます。





診療グループ長 教授

藤本 学

診療グループの特徴

茨城県唯一の特定機能病院として、各種皮膚疾患に対して高度な診療を提供できるように努めています。経験豊富な専門医による視診をはじめとして、ダーモスコピー検査や病理組織学的診断も駆使し、やや深い病変の場合には超音波、CT、MRIなどの画像検査も組み合わせて診断しています。治療にあたっては、内服や外用はもとより皮膚外科治療や各種レーザー治療、紫外線照射療法、生物学的製剤治療なども積極的に行っています。この診断と治療にあたっては各段階で患者さんとよく相談し、負担が少ない治療を納得して受けていただけるよう心がけています。

初診外来は月～金曜日の午前に行っており、特に十分な時間をかけて診療にあたっています。さらに十分な検討が必要な患者さんは火、木曜日の昼に皮膚科構成員一同で診察して診断や治療方針を決定しています。

紹介への迅速な対応と症状安定後の逆紹介を通じて、地域の医療機関と密接に連携を図っています。

診療領域・体制

皮膚科全般にわたって高度な診療を十分な説明のもとに行っています。また、重篤な皮膚科急性疾患（蜂窩織炎、带状疱疹、薬疹など）の入院対応も積極的に行っています。

対象疾患

皮膚科全般を取り扱っています。特に以下の疾患については専門外来を設けて力を入れています。

膠原病外来：強皮症、皮膚筋炎、エリテマトーデスなど。

アトピー・アレルギー外来：アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、薬疹、金属アレルギー、食物アレルギーなど。

水疱症外来：天疱瘡や類天疱瘡など自己免疫性水疱症、先天性表皮水疱症。

乾癬外来：尋常性乾癬、膿疱性乾癬、関節症性乾癬、乾癬性紅皮症など。

腫瘍・皮膚外科外来：基底細胞癌、有棘細胞癌、悪性黒色腫、乳房外パジェット病、皮膚リンパ腫など皮膚悪性腫瘍。先天性色素性母斑、脂腺母斑など皮膚良性腫瘍のほかに慢性膿皮症、熱傷など。

レーザー外来：単純性血管腫、太田母斑、異所性蒙古斑、いちご状血管腫など。

先進医療等への取り組み

■ 膠原病外来

膠原病の初期症状が皮膚に現れることも多く、皮膚症状に血液検査や他の検査所見と組合せて膠原病を早期かつ的確に診断することを心がけています。内科などの他科ともよく連携を図り、入院あるいは外来で治療を行います。

■ アトピー・アレルギー外来

治療に難渋するアトピー性皮膚炎には十分な診察時間をかけ、治療の見通しとそのための手段を患者さんと共有するよう心がけています。ナローバンドUVB療法やシクロスポリン内服療法も積極的に行っていますが、生活やスキンケア、外用の指導をきめ細かく行

氏名	職名	専門分野
藤本 学	教授	膠原病、皮膚免疫疾患
藤澤 康弘	講師、病院教授	皮膚腫瘍
石井 良征	講師	レーザー治療
沖山奈緒子	講師	膠原病、皮膚免疫疾患、皮膚アレルギー疾患
渡辺 玲	講師	水疱症、乾癬、膠原病
石塚 洋典	講師	皮膚腫瘍、角化症
中村 貴之	病院講師	皮膚腫瘍
齊藤 明允	病院助教	膠原病、皮膚アレルギー疾患
井上 紗恵	病院助教	乾癬、皮膚腫瘍

うことを基本にしています。アレルギー性疾患においては、詳細な問診や検査をもとに原因を追及しています。さまざまな不調の原因すべてをアレルギーに求める患者さんもしばしばいますが、そのような方こそ適切な検査によってアレルギーへの恐怖を取り除くように努めています。

■水疱症外来

初期治療の多くは入院で行っています。ステロイド抵抗性の場合には免疫抑制剤の併用や二重膜濾過血漿交換療法、大量免疫グロブリン療法を組み合わせ、最少の副作用で寛解に導入できるよう努めています。

■乾癬外来

外用療法だけでは効果が不十分な症例に対し、内服や光線、生物学的製剤を組み合わせ治療しています。患者さん個々の事情、要望に最も適した治療を提供するよう努めています。

■腫瘍・皮膚外科外来

治療は、入院での手術や化学療法を中心とし、積極的に放射線腫瘍科と連携し、放射線治療も行っています。病変が比較的小さな場合は、外来での日帰り手術も行っています。

■レーザー外来

色素レーザー (Vbeam[®]、Candela社製)、Qスイッチアレキサンドライトレーザー (ALEXLAZR[®]、Candela社製) を保有しており、それぞれ赤、黒の色素を持つあざに有効です。レーザーの効果は疾患によって、また患者さん個人でまちまちであるため、よく相談し、治療を開始しています。



診療実績

■外来診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	18,293
初診患者数	1,207
紹介患者数	1,168
逆紹介患者数	453

□検査件数

検査名	件数
皮膚生検	449
超音波検査	390
パッチテスト	86

□治療件数

治療名	件数
Qスイッチ付レーザー照射	112
色素レーザー照射	242
光線療法 (紫外線療法)	1,816

□治療に関するコメント等

皮膚レーザー照射及び紫外線療法はのべ件数

■入院診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	5,536
新入院患者数	348
平均在院日数	14.1日

□手術件数

術名	件数
皮膚皮下腫瘍摘出術	233
皮膚悪性腫瘍切除術	144
リンパ節生検	10
リンパ節郭清術	4
植皮、皮弁形成	71



診療グループ長 教授

高田 英俊

診療グループの特徴

総合周産期母子医療センター、小児総合医療センター、小児集中治療センター（小児救命救急センター）の基盤の上で、院内各診療科・各部門および学内外の医療機関／研究室等との協力によって総合集学的治療・トータルヒューマンケア体制を整えています。

新生児、循環器、肝・消化器、神経・筋、代謝・内分泌、小児がん、血液・免疫疾患など、高度な専門医療を提供できるスタッフが揃い、一方では救急・集中治療体制を整備して、互いに協力しながら患者さん中心の診療を展開しています。さらに、小児外科と病棟を共有して密接な連携をとっています。

こころの診療の分野でもチーム医療を実践しています。小児医療は、地域を含めた総合的な能力が必要な分野であり、同時に子どもを取り巻く環境をどう整備するかが問題になります。そのためには地域の社会資源（医療機関、行政機関他）との連携と情報共有がスムーズにできるように尽力しています。また、筑波大学の小児科診療グループのホームページでは、抄読会や症例検討会、様々な研修集会などの情報を掲載しています。

診療領域・体制

小児科疾患の全領域をカバーできる専門家が揃っている点、産科、遺伝医学、社会精神保健学研究室、ヘルスサービスリサーチ研究室、障害科学域の専門家と密接な連携がとられている点を特徴としています。従って未熟児・新生児から学童・思春期

に至る年齢層を受入れ、一日平均50名の患者さんが外来受診しています。外来は、初診・再診にかぎらず、原則として予約制をとっています。しかし、小児では救急疾患も多いため、予約なしで来院された患者さんにも対応します。夜間及び土曜日、日曜日、祝日を含めて、必ず小児科専門医が複数で対応します。小児集中治療センターにおいては、小児科、小児外科、心臓血管外科、脳神経外科、救急・集中治療科ほかすべての診療科、輸血部、血液浄化療法部、手術部等と協力して万全の準備を整えています。

技術革新が盛んな領域である遺伝診療、医療用ロボット／先進的な医療機器、および先制医療を積極的に取り入れています。

対象疾患

新生児疾患：産婦人科との密接な連携のもと、胎児から新生児に至る一貫した周産期医療の提供を行っています。新生児集中治療室では早産児や低出生体重児などいわゆる未熟児の治療に加えて、様々な合併症を有する妊婦より出生した新生児の管理を行っています。そして、小児外科、心臓血管外科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、整形外科などの関連各科を網羅している大学病院の特性を生かして、ほぼ全領域の新生児疾患に対して一元的かつ一貫した治療を行っています。新生児の外来では以上のような治療を受けたのちに退院した子どもの発達を見守るとともに、積極的なサポートを行っています。

循環器疾患：平成20年度から日本小児循環器学会専門医育成施設

氏名	職名	専門分野
高田 英俊	診療グループ長、教授	免疫不全・自己炎症性疾患、小児膠原病、総合
須磨崎 亮	客員教授（茨城県立こども病院）	小児肝・消化器疾患、感染性免疫疾患、総合
福島 敬	准教授	総合診療、国際小児医療、遺伝子治療
宮園 弥生	病院教授	新生児、遺伝
竹田 一則	教授（筑波大学人間系障害科学）	小児アレルギー、障害科学
鴨田 知博	教授（茨城県地域臨床教育センター）	小児内分泌・代謝、腎、総合
堀米 仁志	教授（茨城県小児地域医療教育ステーション）	小児循環器
齋藤 誠	准教授（茨城県地域臨床教育センター）	新生児
小林 千恵	准教授（茨城県小児地域医療教育ステーション）	小児血液・腫瘍
大戸 達之	講師	小児神経・筋疾患、遺伝
高橋 実穂	講師	小児循環器
岩淵 敦	講師	小児内分泌・代謝
福島 紘子	講師（腫瘍内科兼任）	小児血液・腫瘍、遺伝
田中 竜太	講師（茨城県小児地域医療教育ステーション）	小児神経・筋疾患
田川 学	講師	小児肝・消化器疾患
鈴木 涼子	講師	小児血液・腫瘍
梶川 大悟	病院講師	新生児
日高 大介	病院講師	新生児
八牧 愉二	病院講師	小児血液・腫瘍、遺伝子治療
村上 卓	病院講師	小児循環器
中尾 朋平	病院講師（放射線腫瘍科）	小児がん、遺伝
榎本 有希	病院講師（救急・集中治療科）	救急、小児救急
竹内 秀輔	病院助教	新生児
永藤 元道	病院助教	新生児
森田 篤志	病院助教	小児肝・消化器疾患
稲葉 正子	病院助教	小児血液・腫瘍

設に認定されました。

先天性心疾患、川崎病、心筋疾患、不整脈をはじめとして小児の心臓疾患全般に診療を行っています。1年間に平均200名の新たな紹介患者があり、心エコー検査、心電図、運動負荷心電図、心肺機能検査、心筋シンチグラフィー等とはもとより、小児心臓カテーテル検査・治療は、不整脈に対する電気生理検査、カテーテル焼灼術を含め年間約100例施行しています。また、出生前診断にも積極的に取り組み、特に全国に先駆けて最新の胎児心磁図診断法を臨床に取り入れました。この方法を用いると母体にも胎児にも全く負担をかけずに心臓病の出生前診断ができ、全国的に注目を集めています。また成人に達した先天性心疾患患者の増加に対応するため平成22年5月から、循環器内科、循環器外科、産科と協力し、成人先天性心臓病外来を開設しました。

肝・消化器疾患：食道静脈瘤や胃食道逆流、慢性腹痛や消化性潰瘍、ピロリ菌感染症、胆道閉鎖症などの胆汁うっ滞性疾患、ウイルス性肝炎や遺伝性・代謝性肝疾患、肥満・やせ、脂肪肝、便秘などの生活習慣病、膵炎などの膵臓疾患や胆石・胆管炎、炎症性腸疾患やポリープ、在宅栄養管理など、栄養・消化器・肝胆膵疾患を幅広く対象としています。消化管出血などの緊急時には休日昼夜を問わず迅速に内視鏡検査・治療を行います。

内分泌代謝疾患：小児のホルモンに関する疾患全般の診療を行っています。特に小児糖尿病（1型）については常に最新機器による治療を導入し、患者さんが自ら治療を行えるための支援・教育に注力しています。また、新生児マススクリーニング検査でエネルギー代謝に関する疾患等が疑われたお子さんに対する診断・治療を行います。

腎疾患：長期治療が必要となる腎臓の慢性疾患に対しては、薬物の副作用を最小限に、生活の質を最大限にできるように、短期入院と外来を組み合わせ治療します。学校検尿陽性者の精査・治療を行っています。

神経・筋疾患、発達障害：てんかん、筋疾患、神経変性疾患、炎症性中枢神経疾患などを対象としています。ビデオ脳波同時記録装置、脳血流シンチグラフィー、筋生検、遺伝診断、脳画像の定量的解析など先進的な手法を積極的に取り入れ、幅広い診療を行っています。また、発達や行動の問題、心の問題（15歳まで）の診療を行っています。必要に応じ、医学的検査、心理検査を併用しながら、心理面接、親面接、薬物療法を用い診療を行っています。

原発性免疫不全症・小児リウマチ／膠原病・自己炎症性疾患：精密検査、遺伝子診断、生物学的製剤を用いた治療など最新の診断・治療を行っています。

腫瘍・血液疾患：悪性腫瘍、血液疾患の総合的診療を行っています。血友病など生涯を通じての医療が必要な場合には、血液内科や産婦人科との連携を図り、化学療法、造血幹細胞移植や放射線治療などを含む悪性腫瘍の集学的治療は、小児外科、脳神経外科、放射線腫瘍科等の院内各科、更に全国的及び国際的な共同診療・医学研究を積極的に推進し、治療成績の一層の向上を目標にしています。

遺伝診療：小児期に発生する先天奇形や遺伝病の患者さんに対し、遺伝診療部と連携して診療に当たっています。また、探索的な遺伝診断の研究等にも積極的に取り組んでいます。

先進医療等への取り組み

■ 先進医療B：経胎盤的抗不整脈薬投与療法（小児科、産婦人科）
適応症：胎児頻脈性不整脈（胎児心拍数が毎分180以上で持続する心房粗動または上室性頻拍に限る）

内容：胎児頻脈性不整脈は、胎児心不全をきたし、子宮内死亡へ至る可能性があります。筑波大学附属病院では、胎児心磁図を施行することにより、より詳細な不整脈診断ができるようになりました。本治療は、入院、24時間の安全管理のもとで行われています。小児循環器医による胎児心臓超音波検査および胎児心磁図にて不整脈の診断を行い、抗不整脈の使用薬剤および

投与量を選択します。胎児心拍モニタリング下で、母体を介し経胎盤的に胎児へ投与し、胎児頻脈性不整脈の消失、早期娩出の減少および胎児死亡率の低下などの効果が期待できます。

■ 先進医療A：EBウイルス感染症迅速診断（リアルタイムPCR法）（小児科・血液内科）を実施中です。EBウイルス関連腫瘍、EBウイルス関連血球貪食症候群、免疫不全状況下のEBウイルス感染症、臓器移植後のEBウイルス関連リンパ球増殖性疾患等を対象として、迅速診断を実施中です。

診療実績

■ 外来診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	17,944
初診患者数	1,221
紹介患者数	483
逆紹介患者数	749

■ 診療手技等の実績（年間）

項目	件数
頭部超音波	1,000
心臓超音波診断	1,200
（胎児心臓超音波）	235
体幹部等超音波	1,000
心臓カテーテル	112
カテーテル治療	35
胎児心磁図	95
消化管内視鏡診断・治療	51
腎生検	5
肝生検	4
骨髓穿刺・生検	40
脳波	150
長時間ビデオ脳波同時記録	20
筋生検	4
筋電図／末梢神経伝導速度	10
腹膜透析（症例数）	2
交換輸血	3
血漿交換	3
ECMO	2
CHDF・サイトカイン吸着療法	3
一酸化窒素（NO）吸入療法	8
低体温療法	3
経皮的中心静脈カテーテル	91
光線療法	312

■ 入院診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	20,823
新入院患者数	1,459
平均在院日数	12.3日





診療グループ長 教授

増本 幸二

診療グループの特徴

小児外科診療グループでは、新生児外科疾患、小児がん、肝移植を含む胆道閉鎖症への治療を3つの柱として、臨床や研究を行っています。患者さんのニーズに応えた最適と考えられる最新医療を提供することに努めてきましたが、これからはさらに長期の美容的なことも含めた術後生活の質をどれだけよいものにできるかを考え実践しています。特に小児では、疾患の治療後も成長発達を考慮しなければならず、そのため可能な限り侵襲の少ない最適で安全な治療、しかも術後の長期にわたった生活の質の改善をする工夫を行うことが必要です。現在は細径のポートを用いた鏡視下手術や手術創の位置を工夫した傷の目立ちにくい手術の適応拡大、合併症を少なくする周術期管理の工夫、長期のフォローアップについては小児内科を含む関係各グループと連携して行うなどの工夫を進めています。

診療領域・体制

新生児・未熟児外科を中心とした小児外科一般及び、小児がん、肝移植、小児泌尿器科などの専門分野の患者さんが、茨城県内外から紹介され、治療を受けています。小児外科の対象疾患の多くは緊急性の高い疾患であるため、外来日は月～金曜日まで毎日開き新規の患者さんに対応しています。また、時間外・夜間・休日の診療にも、小児外科専門医をもつ医師が連日当直体制をとって対応しています。入院ベッド数は約30床で、入院患者数約650人、年間手術件数は約550件です。

対象疾患

■新生児疾患

食道閉鎖、十二指腸閉鎖、腸閉鎖、腸回転異常、新生児壊死性腸炎、鎖肛、ヒルシュスプルング病、先天性横隔膜ヘルニア、気管肺疾患などの緊急の治療を要する疾患に対して、いつでも迅速に入院手術を行い、高い治癒率・救命率を得ています。また、疾患によっては当院が茨城県唯一の治療施設になっています。国立大学のなかであって、筑波大学は新生児外科の患者数が多く、その治療成績もトップレベルにあります。当院では新生児未熟児の集中治療施設（NICU）があり、産科医・新生児専門医と連携して体重1,000gに満たない小さな患者さんの救命にも多く成功しています。また、2005年から茨城県周産母子総合医療センターの指定を受け、より困難な低出生体重児の外科的な治療にチャレンジしています。

■乳児・小児疾患

ヒルシュスプルング病、胆道閉鎖症や拡張症、腸重積症、水腎症、気管軟化症など、あらゆる疾患に対応しています。特にソケイヘルニアや停留精巣は頻度も高く、紹介患者が多数来院されています。麻酔科と連携して乳児期早期でも安全に手術を行っています。さらに乳児や小児に対しても積極的に腹腔鏡下、胸腔鏡下手術を導入し、患者さんの負担がより少ない手術を心掛けています。治療困難な気管肺疾患にも最先端の治療を行っています。毎月第1水曜日の午前には気管肺疾患の専門外来を行っています。

氏名	職名	専門分野
増本 幸二	教授	小児外科、新生児外科、外科代謝栄養、小児泌尿器外科
高安 肇	病院教授	小児外科、新生児外科、小児腫瘍
新開 統子	講師	小児外科、小児腫瘍
瓜田 泰久	診療講師	小児外科、新生児外科、小児泌尿器外科
五藤 周	診療講師	小児外科、内視鏡外科、新生児外科
小野健太郎	診療講師	小児外科、新生児外科
川上 肇	病院講師	小児外科、小児泌尿器外科、外科代謝栄養
千葉 史子	病院講師	小児外科、小児腫瘍

■移植外科

肝移植を茨城県下で唯一行っており、すでに胆道閉鎖症、劇症肝炎などの小児に対し肝移植を32例施行し、非常に手術が困難な患者さんを含めて優れた成績を上げています。消化器外科、形成外科、麻酔科などと連携し、看護体制を含め、充実した移植チームが治療に当たっています。また、移植専門外来は第1・3週の木曜日に行っています。

■悪性腫瘍

小児の固形がんの治療に積極的に取り組み、治療成績は国の内外でトップレベルにあります。神経芽腫治療のグループスタディの事務局が筑波大学小児内科に置かれ、治療成績向上への先進的な役割を果たしています。陽子線照射の施設があり、他施設には少ない放射線治療を受けることができるのも大きな特徴です。さらに、小児内科血液腫瘍グループと協力し、造血幹細胞移植を併用した大量化学療法も行い、治癒率の向上に努めています。毎月関係各科や県立こども病院とともに小児腫瘍カンファランス、小児病理カンファランスを開き、診断・治療の評価と各科の連携を行っています。

■小児泌尿器疾患

我が国では専門医の少ない小児泌尿器外科領域ですが、当科は充実した体制で治療に当たっています。水腎症や膀胱尿管逆流症などの治療はもちろん、尿道下裂、いくつかの奇形を伴う総排泄腔外反症や膀胱外反症などの治療では、さらに整形外科・形成外科と連携し、長期計画に基づいた治療を行っており、専門家の揃った大学病院の利点をフルに生かしています。また、国立成育医療センター泌尿器科とも密接な連携を図っています。

■鏡視下手術

今後小児でも多くの手術が、患者さんの体への負担が少なく傷も目立たない鏡視下手術になることが予想されます。当院小児外科では積極的に腹腔鏡や胸腔鏡での手術を取り入れて、手術を受けるこども達にとってやさしい治療に努めています。当科ではソケイヘルニアを始めとして、虫垂炎、胃食道逆流症、食道裂孔ヘルニア、卵巣疾患、ヒルシュスプルング病などの手術に鏡視下手術を応用しています。漏斗胸の手術も胸腔鏡を用いて安全性が高まっています。

■腹傷腔鏡の使用で傷の残らない手術について

最近の手術の進歩により、新生児、乳児では臍を使った手術により、傷のほとんどわからない手術を心

掛けています。また以前は女児だけでしたが、現在は男女を問わず鼠径ヘルニアに対しては家族の御希望により単孔式の腹腔鏡手術によって、傷の残らない手術を行っています。

■腸管不全に対する統合的治療

短腸症候群や腸管機能障害をもつ患者さんに対し、最新の外科治療（腸管延長術など）を行い、その後のQOLを改善するため、栄養管理を含めた総合的な治療を行っています。また、退院後や外来通院が可能な場合は、在宅静脈栄養や在宅経腸栄養を丁寧に指導し、専門の外来にて管理するようにしています。成人の患者さんも含め、全年齢の方を対象とした、全国に類のない他職種のチームによる（医師・看護師・管理栄養士）外来で、毎週水曜日の午後に行っています。

診療実績

■外来診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	6,488
初診患者数	566
紹介患者数	452
逆紹介患者数	139

■入院診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	5,978
新入院患者数	562
平均在院日数	9.2日

□手術件数

手術総数：574件（うち新生児手術数：22件）





診療グループ長 教授

関堂 充

診療グループの特徴

近年、疾患を治すのみならず、その後の形状、傷跡などをきれいにし、QOL（Quality of Life）を上げることが要求されています。形成外科は傷をきれいに、また治りにくい傷をなおす、手術後の機能を良くすることを目的としています。対象とする部位は、頭、の先から足の指先まで、男性及び女性、年齢も新生児から老人まで様々な方が受診します。対象疾患は下記の如く、外表奇形や外傷、難治性潰瘍、皮膚良性腫瘍から悪性腫瘍まで切除および術後変形・欠損の再建、良性色素性疾患等の治療を行っています。傷の修正や眼瞼下垂、腋臭症、自家組織を用いた乳房再建など保険がきかないと思われる手術でも、保険のできる手術も多くあります。

診療領域・体制

外観など治療効果がわかりやすい部位が殆どです。

先天異常：唇裂・口蓋裂、多指症、合指症、裂手、裂足など手足の変形、小耳症、埋没耳、立ち耳などの耳介の変形の手術

外傷：顔面、手足の外傷、熱傷、労働災害による外傷、交通事故などによる顔面軟部組織損傷、顔面骨折に対する手術

外傷後瘢痕：瘢痕（傷跡）の切除、形成

皮膚腫瘍：血管腫、母斑などの色素斑、母斑など皮膚の良性腫瘍から悪性腫瘍までレーザー治療から切除、硬化療法、再建まで

悪性腫瘍切除後の再建：頭頸部癌・口腔癌、皮膚癌、乳癌などの切除後の再建

難治性潰瘍：褥瘡、四肢の壊死、糖尿病性潰瘍、褥瘡、リンパ浮腫の治療

美容外科：乳房再建、乳房インプラント（乳がんの再建）、老人性などによる眼瞼下垂、腋臭症、刺青治療など（刺青治療は自費診療）

対象疾患

先天異常、外傷、熱傷、再建、整容 等

先進医療等への取り組み

口蓋裂に対するHotz床、NAM法

Nuss法を用いた漏斗胸手術

PDE（近赤外線カメラ）を用いたリンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合

血管腫・リンパ管腫に対する硬化療法

ケロイドに対する保存的、手術的治療

乳房再建（遊離組織移植、インプラント）・リンパ浮腫乳輪乳頭再建

褥瘡に対するVAC療法

診療実績

■ 外来診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	6,147
初診患者数	438
紹介患者数	402
逆紹介患者数	109

氏名	職名	専門分野
関堂 充	教授	再建外科（乳房、頭頸部、腹壁）、リンパ浮腫、移植外科、美容
佐々木 薫	講師	再建外科（頭頸部、四肢）、先天異常（四肢、耳、眼瞼、漏斗胸）、外傷（四肢、顔面）、眼瞼眼窩
相原有希子	講師	難治性潰瘍（虚血肢、褥瘡）、先天異常（唇顎口蓋裂）、再建外科（乳房、四肢）、レーザー
渋谷陽一郎	講師	血管腫血管奇形、リンパ浮腫、先天異常（唇顎口蓋裂）、再建外科（腹壁）、皮膚軟部腫瘍、レーザー
佐々木正浩	病院講師	先天異常（唇顎口蓋裂）、再建外科（乳房、頭頸部）、外傷（四肢、顔面）、眼瞼眼窩
大島 純弥	病院助教	再建外科（乳房、頭頸部）、外傷（四肢、顔面）、熱傷、先天異常（四肢）

□検査に関するコメント等

リンパ浮腫、再建手術、外傷などの疾患に対して、赤外線観察カメラシステム（PDE）を用いたインドシアニン蛍光造影法により、リンパ管、皮膚穿通枝血管造影、皮弁循環判定などを行い、より正確で確実な治療を行うことができます。

■入院診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	4,005
新入院患者数	367
平均在院日数	9.2日

□治療成績（特徴的なもの）※2017年実績

年間手術件数

入院手術 684件（全麻598件、局所麻酔など86件）

外来手術 275件（救急の小手術除く）

計959件

主な内訳

外傷	103
先天異常	125
・唇顎口蓋裂	27
・四肢	17
腫瘍	439
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	66
難治性潰瘍	86
レーザー	77
再建	
・乳房	107
・頭頸部	48
・その他	21

□手術に関するコメント等

先天異常、悪性腫瘍切除後再建をはじめとして、幅広い形成外科疾患に対して積極的に治療を行っています。





診療グループ長 教授

玉岡 晃

診療グループの特徴

筑波大学神経内科は、対応可能な神経疾患症例の多彩さ・豊富さには定評があります。脳血管障害はもちろんだ脳性硬化症や重症筋無力症などの免疫性神経筋疾患、アルツハイマー病・パーキンソン病・筋萎縮性側索硬化症などの変性疾患、家族性脊髄小脳変性症などの遺伝性疾患、各種末梢神経・筋疾患を含めて、主要な神経筋疾患の診断と治療をすべて施行することができます。特に、認知症を呈する疾患の鑑別診断と治療、パーキンソン症候群の鑑別診断と治療、免疫性神経筋疾患の診断と治療を得意としています。学会や研究会に多くの興味深い症例の呈示を行ってきており、医学的に高い水準を保ちながら、急性期から慢性期に至るまで、患者さん中心の全人的医療を心掛けています。高齢化社会が進行し神経内科への要請は益々高まっています。当科ではスタッフのほぼ全員が神経内科専門医だけでなく総合内科専門医も有しており、地域医療における普遍的な神経疾患や稀有な神経難病の医療から医学的研究に至るまで幅広く対応できるグループを目指しています。

診療領域・体制

脳・脊髄疾患や末梢神経・筋疾患を対象として、診断及び内科的な治療を中心に行っています。特に神経変性疾患は高齢者により有病率が高く、我が国の急速な高齢社会化に伴い、神経内科に対するニーズは全国

的にもさらに増えています。当科に於いては、病気の原因解明や治療につながる研究や高度な医療を進めています。また、ほかの専門領域の診療科の医師と協力して、スムーズな医療連携を心掛けています。患者さんの十分な理解と同意の下に、的確な診断と適切な治療やケアを行う医療を目指して診療に当たっています。

対象疾患

脳血管障害（脳梗塞、脳出血）、神経変性疾患（パーキンソン病、アルツハイマー病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症）、脱髄疾患（多発性硬化症、視神経脊髄炎）、炎症性疾患（脳炎、髄膜炎、脊髄炎）、脊椎疾患（変形性脊椎症・脊髄症、神経根症）、末梢神経障害（ギランバレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー）、筋疾患（筋炎、重症筋無力症、ミトコンドリア脳筋症、筋ジストロフィー症）、発作性疾患（頭痛、てんかん、神経痛、めまい、失神）、不随意運動（振戦、ジストニア、ジスキネジア、ミオクローヌス）、全身疾患に伴う神経症状（糖尿病性末梢神経障害、ベーチェット病、膠原病、傍腫瘍性症候群）等

先進医療等への取り組み

■ミトコンドリア病の治療

適応症：ミトコンドリア脳筋症

内 容：ミトコンドリア病の中のMELASでは血漿中

氏名	職名	専門分野
玉岡 晃	教授	神経内科全般
石井 一弘	准教授（病院教授）	神経内科全般
渡邊 雅彦	准教授	神経内科全般
石井亜紀子	講師	神経内科全般
中馬越清隆	講師	神経内科全般
富所 康志	講師	神経内科全般
辻 浩史	講師	神経内科全般
織田 彰子	講師（水戸地域医療教育センター）	神経内科全般
塩谷 彩子	講師（水戸地域医療教育センター）	神経内科全般
保坂 愛	講師（ひたちなか社会連携教育研究センター）	神経内科全般
儘田 直美	講師（ひたちなか社会連携教育研究センター）	神経内科全般

アルギニン濃度が低下しており、L-アルギニン投与により、血管内皮機能の改善が報告されていますが、保険適応にはなっていません。当科では2008年から2011年まで多施設医師主導治験に参加して以来、MELASにL-アルギニン製剤による治療を継続しています。

■抗体神経抗体の検索

適応症：傍腫瘍性神経症候群・stiff-person症候群・Isaacs症候群

内 容：当科では傍腫瘍性神経症候群やstiff-man症候群及びIsaacs症候群に対する自己抗体検索を行っています。特に抗gephyrin抗体については全国で検査している唯一の機関で年間40例以上の依頼があり、診断及び腫瘍の早期発見において貢献しています。

■認知症やパーキンソン症候群の鑑別診断と治療

適応症：認知症やパーキンソン症候群を呈する神経疾患

内 容：問診、神経学的診察、脳脊髄液検査、画像検査などを駆使して、認知症やパーキンソン症候群の鑑別診断を行い、各症候に対する適切な治療を行っています。

診療実績

■外来診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	12,159
初診患者数	586
紹介患者数	500
逆紹介患者数	426

□治療成績（特徴的なもの）

外来：神経・筋疾患を中心とした患者さんを対象に筋電図検査（神経伝導速度、針筋電図）を行っています。機能検査部門で検査する脳波や各種誘発電位の判読・実施を担当しています。また、CT、MRIなどの画像検査を放射線科に依頼して、専門的な見地から正確な診断に当たっています。

■入院診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	10,381
新入院患者数	511
平均在院日数	18.7日

入院：外来での検査に加えて、さらに詳細な検査を必要に応じて行っています。臨床神経生理学的検査に加え、神経・筋疾患に対して神経生検や筋生検を行っています。他科のみならず、県内からも多くの検体処理および診断を依頼され、年間約60件（2012年3月現在総数1,500例）の生検を行い、地域医療に貢献しています。また、必要に応じて、遺伝性神経疾患に対する遺伝子検査や生化学的検査などを行っています。



筑波大学神経内科同門会



診療グループ長 病院教授

石川 栄一

診療グループの特徴

筑波大学脳神経外科では、年間567件（2017年）の手術を含む脳・脊椎脊髄の専門診療を行っており、約20名（グループ全体では130名以上）の脳神経外科医が従事しています。また脳腫瘍手術件数は全国トップレベルを維持しています。手術室には各種モニタリング機器、ニューロナビゲーション・蛍光ガイド下手術用顕微鏡、国内でも数少ない術中MRI撮像システム、手術と血管撮影・CT撮影とを同時に行えるハイブリッド室をはじめとした最新の手術支援機器を整備しています。私たちは、患者の視点に立った医療、十分な説明と選択を大切に、「確かな手技」と「最新のテクノロジー」による高度な脳神経外科診療を展開することで、特定機能病院としての役割を担っていきたいと考えています。

最近の取り組みとしては、脳腫瘍領域では免疫療法、陽子線治療などの最先端の集学的治療や、新たに設置されたPET装置を有する分子イメージング診断センターを利用した最新の診断技術を取り入れています。通常の顕微鏡下手術に加え、最先端の経鼻内視鏡下手術との使い分けあるいは併用により、頭蓋底腫瘍、小児脳腫瘍を含めた幅広い疾患に対応しています。

す。中性子捕捉療法についても、加速器を用いた臨床応用を目指した幅広い研究を展開しています。

脳血管障害に対しては、2016年秋より、脳神経外科内に高い技術レベルを有する脳血管内治療指導医ならびに血管外科医をより充実させた「脳卒中診療グループ」を立ち上げており最新の治療を提供しています。2018年5月にはSCUも開設予定となっています。救急医療についても、救急部と密に連携しており、脳卒中や外傷など、地域の急性期医療への取り組みもさらに充実したものとなっています。また、脊髄脊椎疾患、小児脳脊髄疾患、機能的脳神経外科疾患についても、それぞれの専門領域に精通したスタッフが、低侵襲かつ高度な治療を行う環境を整えています。

診療領域・体制

脳・脊髄脊椎・末梢神経の外科的治療を要する疾患に対し、多くの選択肢の中から最も有効かつ侵襲の少ない治療を成人・小児含めて広い対象に行っています。神経膠腫に対しては、外科治療に加えて、放射線治療、化学療法、免疫療法などを組み合わせて集学的治療を行っています。頭蓋底腫瘍・下垂体腺腫については、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科、放射線腫瘍科と

氏名	職名	専門分野
松村 明	教授	脳腫瘍、脊髄脊椎疾患、放射線治療、頭痛
坪井 康次	教授（陽子線医学利用研究センター）	脳腫瘍、放射線治療、免疫療法
小松 洋治	教授（日立社会連携教育研究センター）	脳血管疾患、神経外傷
柴田 靖	教授（水戸地域医療教育センター）	脳腫瘍、脳血管疾患、頭痛
松丸 祐司	教授（脳卒中予防治療学）	脳卒中予防治療学
石川 栄一	病院教授・准教授	脳腫瘍、神経膠腫、免疫療法、手術を含む集学的治療
鶴嶋 英夫	病院教授・准教授	脳外科一般、臨床研究
高野 晋吾	病院教授	間脳下垂体腫瘍、脳腫瘍
阿久津博義	講師	間脳下垂体/頭蓋底腫瘍、脊髄脊椎外科
松田 真秀	講師	脳腫瘍、頭蓋底腫瘍、顔面けいれん、三叉神経痛
鶴淵 隆夫	講師	小児脳神経外科、脊髄脊椎外科、悪性脳腫瘍
室井 愛	講師	小児脳神経外科、神経内視鏡、スポーツ頭部外傷
増田 洋亮	病院講師	脳外科一般、機能的疾患（てんかん、パーキンソン病）
丸島 愛樹	講師（救急・集中治療部兼任）	脳卒中全般、救急医学、集中治療医学
早川 幹人	講師（脳卒中予防治療学）	脳血管障害の内科治療、脳血管内治療
坂本 規彰	講師（病理診断科兼任）	脳腫瘍病理
伊藤 嘉朗	病院講師	脳血管疾患、脳血管外科、脳血管内治療
佐藤 允之	病院講師	脳卒中全般、脳・脊髄血管内治療
益子 良太	講師（水戸地域医療教育センター）	脳血管疾患、脳腫瘍、神経外傷

連携したチームによる学際的な治療を行っています。脳血管障害はとくに脳動脈瘤、脳動静脈奇形などの脳血管内手術、脳卒中に対する救急対応（急性期主幹動脈血行再建術など）を含めた急性期治療を行っています。機能的脳神経外科では、精神科や脳神経内科と連携を深めながらパーキンソン病や不随意運動、難治性疼痛、痙縮、てんかん、三叉神経痛、顔面けいれんを扱っています。小児脳神経外科では、小児科と連携し水頭症、脳瘤、頭蓋骨鳳凰早期癒合症、脊髄髄膜瘤、脊髄脂肪腫、頭蓋内嚢胞、キアリ奇形のほか小児の脳腫瘍やもやもや病なども対象としています。脊髄脊椎疾患では、脊髄腫瘍、変性疾患を含め多彩な疾患を扱っています。

対象疾患

脳腫瘍とくに悪性脳腫瘍の集学的治療、間脳下垂体疾患に対する経鼻内視鏡手術、頭蓋底腫瘍、小児脳腫瘍、脳血管障害、てんかん（パーキンソン病）、動脈瘤、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻、急性期主幹動脈血栓、頭蓋内外主幹動脈狭窄・閉塞、脊髄腫瘍、脊髄脊椎疾患、不随意運動・痙縮、難治性疼痛に対する外科的治療、三叉神経痛、顔面けいれん、小児脳神経外科、先天性脊髄疾患、水頭症、キアリ奇形、神経内視鏡手術、スポーツ頭部外傷など

先進医療等への取り組み

■ 先進医療

- ・脳腫瘍に対する粒子線治療

■ 臨床研究

- ・悪性神経膠腫に対する自家がんワクチン療法
- ・悪性神経膠腫等に対する中性子捕捉療法（新規治療装置を準備中）
- ・日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）脳腫瘍グループ登録施設における臨床研究
- ・悪性神経膠腫に対する治療研究、登録
- ・日本小児がん研究グループ（JCCG）小児腫瘍登録施設における臨床研究
- ・難治性脳動静脈奇形に対する陽子線治療
- ・小児脳腫瘍に対する陽子線治療
- ・再発脳腫瘍に対する抗血管新生治療

- ・脳腫瘍と視機能に関する研究
- ・頭蓋咽頭腫の組織型による遺伝子変異と予後に関する研究
- ・光線力学療法に関する研究
- ・脳梗塞後の脳保護に関する研究
- ・脳卒中に対するロボット（HAL）リハビリテーション
- ・水頭症に関する研究
- ・術後のてんかん予防に関する研究

診療実績

■ 外来診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	6,865
初診患者数	570
紹介患者数	472
逆紹介患者数	543

■ 入院診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	10,982
新入院患者数	737
平均在院日数	13.2日

□ 手術件数

術名	件数
脳腫瘍摘出術・生検術	212
（経鼻内視鏡手術）	69
血管障害	54
外傷	36
奇形	13
水頭症	52
脊髄・脊椎	24
機能的手術	34
脳血管内手術	144
その他	15
計	567





診療グループ長 脳神経外科 脳卒中予防・治療学講座 教授
松丸 祐司

診療グループの特徴

筑波大学附属病院脳卒中診療グループは、脳血管疾患を専門とする神経内科医と脳神経外科医の合同チームです。脳神経外科診療グループと一体となって診療しています。

脳卒中に対する治療の基本は内科治療（薬物療法や生活習慣の改善等）ですが、効果が不十分な場合は、外科手術やカテーテルを用いた血管内治療を行います。私たちのグループでは、内科治療は主に神経内科医が、外科手術は脳神経外科医が、血管内治療は全員が担当します。

当診療グループの特徴は内科と外科が同時に診療することにより、最適で包括的な治療を提供できることです。日本における脳卒中診療の多くは脳神経外科医が担当し、手術適応の判断も脳神経外科医単独で行うことが多いのですが、筑波大学では合同チームによる適切な内科治療と厳密な手術適応の判断が行われています。

私たちが現在もっとも注力していることは脳卒中救急診療です。内科医・外科医のみではなく、救急医・放射線科医との密な連携や、看護師・検査技師・放射線技師などの多職種連携により、1年365日24時間最適な治療を迅速に提供できる体制を構築しました。特に脳主幹動脈閉塞による重症脳梗塞に対しては私たちが得意とする血管内治療の技術を生かした血栓回収療法を積極的に行っています。

また原因が明らかでない脳梗塞の原因究明と的確な再発予防治療の確立、頸部頸動脈狭窄症に対する内膜剥離手術とステント治療、脳血管狭窄または閉塞に対するバイパス手術とステント治療を行います。脳動脈

瘤に対しては、未破裂脳動脈瘤の治療適応の決定や経過観察、治療困難な大型・巨大脳動脈瘤に対する外科治療と血管内治療（血流改変ステントによる治療を含む）を行います。脳および脊髄動静脈奇形や硬膜動静脈瘻に対しては血管内治療を中心に、外科治療や陽子線治療を含む放射線治療を組み合わせる集学的治療を行います。

診療領域・体制

急性期脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）および待機的な脳および脊髄血管疾患に対する内科治療、外科治療、血管内治療

対象疾患

脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血、くも膜下出血、脳動脈瘤、頸部頸動脈および脳血管の狭窄または閉塞、脳および脊髄動静脈奇形および硬膜動静脈瘻、顔面および頭頸部動静脈奇形および血管腫、もやもや病、オスラー病、胎児・新生児・乳児・小児の脳および脊髄血管疾患

先進医療等への取り組み

- ・血流改変ステント（Pipeline）による内頸動脈大型・巨大脳動脈瘤の血管内治療
- ・急性期脳梗塞に対する血管内治療単独療法の有効性に関する多施設ランダム化比較研究
- ・新規血栓回収機器治験
- ・新規抗血栓薬治験
- ・新規頸動脈ステント治験

氏名	職名	専門分野
松丸 祐司	教授	脳血管疾患、脊髄血管疾患、血管内治療
丸島 愛樹	講師	脳血管疾患、血管外科手術、血管内治療
早川 幹人	講師	脳血管疾患、内科治療、血管内治療
伊藤 嘉朗	病院講師	脳血管疾患、血管外科手術、血管内治療
佐藤 允之	病院講師	脳血管疾患、血管外科手術、血管内治療
日野 天祐	病院助教	脳血管疾患、内科治療、血管内治療

診療実績

■ 外来診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	651
初診患者数	205
紹介患者数	75
逆紹介患者数	78

■ 入院診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	5,570
新入院患者数	351
平均在院日数	13.6日





診療グループ長 教授

山崎 正志

診療グループの特徴

筑波大学整形外科では、各外来担当医が、その専門領域（脊椎・股関節・膝関節・肩関節外科・手外科・足関節・小児整形外科等）に分かれて、診療を行っています。運動器疾患・外傷による変形の解剖学的整復、痛みの軽減、運動機能の回復による、日常生活動作（ADL）向上・スポーツ復帰等、個人のゴールに沿った生活の質（QOL）の維持・向上を目的として治療にあたっています。外科系診療科ですが、保存療法も行っています。運動器リハビリテーションの充実、超高齢化社会に不可欠なものであり、リハビリテーション部、関連病院との連携を密にしています。

筑波大学附属病院は、茨城県医療の中核医療機関であり、また筑波大学は筑波研究学園都市に集積する研究・教育機関の拠点となっています。整形外科では医工連携を基盤として、軟骨・神経・骨等の再生医療を行っています。脊椎・脊髄外科分野では難治疾患に対する治療法の開発および低侵襲脊椎手術の開発を行っています。さらには医学と体育の博士課程を有する総合大学としてスポーツ整形外科の分野でも多くの基礎的、臨床研究を行っています。

診療領域・体制

外来一日平均100人超、入院ベッド数39床。ベッド数の制限から、関連病院と連携し合って治療を行い、入院手術待ち日数の短縮を図っています。外傷は関連施設で行われることが多いですが、合併症を伴った難治例を受け入れています。人工関節置

換術は、クリーンルームと抗菌薬投与の改良から感染に対し高い安全性を確保しています。自己血輸血は国内でも早期から取り入れており、人工関節置換術などの待機可能な症例に施行されています。臨床医学系（整形外科）と体育系（スポーツ医学）の運動器系研究に携わる教官が協力してスポーツ医学健康科学センターを開設しました。スタッフの数は多く、高い専門性の発揮が可能となっています。高度先進医療を必要とする難治例や他院からの紹介患者が多く、各領域ごとの専門診体制により最先端かつ最良の医療を提供するよう努めています。

対象疾患

■ 脊椎・脊髄外科

上位頸椎から腰仙椎まで、年間約100～140件の手術（2009～2015年）を行っています。脊椎・脊髄腫瘍、後縦靱帯骨化症（OPLL）、リュウマチや透析脊椎症、特発性・変性側弯症手術、悪性腫瘍の脊椎転移、再手術や多数回手術症例などが増えています。全身合併症のため関連病院での手術が困難な症例、高齢手術例が増加しています。OPLLは厚生労働省の研究班の一員として活動しています。現在、大学附属病院では、検査・手術待ち期間が長くなっているため、筑波大学整形外科脊椎診療グループで、日本整形外科脊椎脊髄病医、脊椎脊髄病学会脊椎外科指導医のいる関連病院と連携をとりながら診療しています。

■ 股関節外科

変形性股関節症・関節リュウマチに対する人工股関節全置換術

氏名	職名	専門分野
山崎 正志	教授	整形外科、脊椎外科、再生医療
宮川 俊平	教授（体育系）	スポーツ医学、股関節外科
西浦 康正	教授（土浦地域臨床教育センター）	手外科、肘関節外科、末梢神経外科
三島 初	准教授	股関節外科
向井 直樹	准教授（体育系）	スポーツ医学、小児股関節
羽田 康司	准教授（リハビリテーション部）	リハビリテーション
國府田正雄	准教授（サイバニクス研究センター）	脊椎外科
菅谷 久	准教授（運動器再生医療学）	再生医療、股関節外科
万本 健生	准教授（水戸地域医療教育センター）	膝関節外科
金森 章浩	講師	スポーツ医学、膝関節外科
鎌田 浩史	講師	小児股関節、スポーツ医学
野澤 大輔	講師	足関節外科、骨代謝疾患、四肢機能再建（難治性骨折、骨延長）
安部 哲哉	講師	脊椎外科
西野 衆文	講師	股関節外科、スポーツ医学
原 友紀	講師	上肢機能外科、末梢神経外科
船山 徹	講師	脊椎外科
中島 佳子	講師（取手地域臨床教育ステーション）	整形外科、上肢機能外科
小川 健	講師（水戸地域医療教育センター）	上肢機能外科、末梢神経外科
辰村 正紀	講師（水戸地域医療教育センター）	脊椎外科、スポーツ医学
上野 友之	診療講師（リハビリテーション部）	リハビリテーション
野口 裕史	病院講師	脊椎外科
牧原 武史	病院講師	肩関節外科
清水 如代	病院講師（リハビリテーション部）	リハビリテーション
松本 佑啓	病院講師（救急集中治療部）	整形外科、外傷
柳澤 洋平	病院講師（救急集中治療部）	整形外科、外傷、足関節外科
三浦 紘世	助教（運動器再生医療学）	再生医療、脊椎外科
谷口 悠	助教（運動器再生医療学）	再生医療、膝関節外科

は、最少侵襲による6～8cmの手術創にて行い、早期離床、早期退院を目指し、1～3週の入院期間で済む成果を上げています。ベッド数の制限から、近医への出張手術も取り入れることにより、年間200例以上の人工股関節全置換術/再置換術を大学スタッフがを行っています。臼蓋形成不全に対する臼蓋回転骨切り術や必要に応じて大腿骨の骨切り手術も採用しています。先天性股関節脱臼や大腿骨頭壊死ではMRIによる予後予測と保存ならびに手術的治療を行っています。また、大腿骨頭壊死に対して、骨髄細胞移植を用いた新しい治療法にも取り組んでいます。

■ 膝関節外科

幼児の先天性膝蓋骨脱臼や若者の前十字靭帯損傷・半月板損傷などのスポーツ障害から御高齢の方の変形性膝関節症まで、幅広く膝関節疾患を対象に治療を行っています。大学病院では手術までの待機期間が長いので、必要に応じて近隣の関連施設に御紹介して手術することもあります。したがって、合併症の多い御高齢者や関節リウマチ患者の人工膝関節全置換術の手術件数が多くなりますが、その他にも変形性膝関節症に対しては人工骨を用いた高位脛骨骨切り術や単顆型人工膝関節置換術など適応に応じて手術を行っています。スポーツ障害には関節鏡手術を主に行っており、トップレベルの選手からスポーツ愛好家のみなさまにも満足していただける治療を目指しています。前十字靭帯損傷では最新の治療法を採用しており、半月板も可能な限り縫合し、骨軟骨移植術なども応用して正常な関節機能を残す努力をしています。また複合靭帯損傷の治療も多く行っています。競技レベルの高い選手については術後リハビリテーションをスポーツ医学健康科学センターを通じて、体育科学系と連携し、早期競技復帰を目標にサポートしていきます。

■ 手外科・肘関節外科・末梢神経障害

手外科領域では、手の疼痛性疾患、腱損傷・骨関節外傷、拘縮、感染、先天異常、関節リウマチ、CRPSなど幅広く診療を行い、良好な成績を上げています。診断困難な例、難治例や他院で治療がうまく行かなかった例に対しても、対応しています。腱損傷では、術後早期運動療法を行い良好な結果を上げています。関節リウマチでは、手・肘の機能障害や腱断裂に対して再建術や人工関節手術を行い、患者さんが使いやすい手・肘を再建しています。月状骨軟化症（キーンベック病）には、低侵襲な新しい治療法を導入し、好結果を得ています。手・肘のスポーツ外傷・障害は、成長期から成人まで年代や競技レベルに応じた治療を行っています。変形性肘関節症に対しては関節形成術を行い、良好な結果を得ています。末梢神経損傷では、欠損を伴う症例に対し、神経伸長による神経移植を行わない新しい治療法を開発し、治療しています。腕神経損傷では、高分解能MRIや術前術中の電気診断を駆使し、適切な診断に基づいた神経剥離・神経移植・神経移行術を行っています。手根管症候群や肘部管症候群に対しては、電気診断により適切な評価を行い、良好な結果を得ています。

■ 足部・足関節外科

足部外科領域では、先天性内反足・外反母趾などの足部変形、変形性足関節症、関節リウマチなどの関節疾患、スポーツ障害などの診療を担当しています。先天性内反足ではPonseti法に基づいた矯正法を、関節リウマチでは従来の関節固定や関節切除術に加え、関節温存手術、人工足関節置換術を行っています。足関節靭帯損傷では、機能的装具療法や局所材料を用いた再建術、鏡視下靭帯修復・再建術を行っています。関節鏡では、診断のほか、骨棘切除などの関節形成術や骨軟骨損傷に対する鏡視下手術も行っています。大腿骨頭壊死同様に距骨壊死に対しても、骨髄細胞移植を用いた治療に取り組んでいます。軽度の外反母趾に対しては、日帰り手術も行っています。

■ 肩関節外科

若年者に多い反復性脱臼から、中高年齢者に多い肩関節周囲炎（凍結肩）、腱板断裂、変形性肩関節症、関節リウマチによる肩関節破壊、また投球障害肩などのスポーツ障害を中心に診療にあたっています。反復性脱臼や腱板断裂などは、肩関節鏡

視下に低侵襲な手術を行っています。外来診療における保存療法においても超音波下で確実な注射を行い、リハビリテーションを同時に行うことで、肩の疾患に特有な夜間痛の改善、可動域の改善が得られています。人工骨頭置換術、人工肩関節全置換術に加えて、高齢者の腱板修復不能な症例に対して2015年に導入された、リバース型人工肩関節全置換術も当院にて手術しています。スポーツ障害に対しては目標とする大会や、手術希望時期を相談し、できる限り早期の復帰がかなうように治療を行っています。

■ 再生医療

大腿骨頭壊死症をはじめとする骨壊死疾患および難治性骨折を対象に、第3種再生医療として骨新生を目的に自家骨髄血を用いた臨床介入研究を行っています。患者さんご自身の骨盤から骨髄血を採取し、遠心分離後、組織幹細胞（骨や血管の材料となる細胞）を含む有核細胞層と血小板（組織修復の栄養因子、シグナル伝達物質として働く成長因子を含有）を多く含む層を濃縮し、壊死部や偽関節部に移植します。骨壊死、難治性骨折が生じる背景は多様であり、骨壊死の原因は十分に明らかとなっておりません。患者さんご自身の組織を用いる治療のため、その方の基礎疾患や生活習慣を含む背景および臨床経過、診察所見と画像所見をもとに適応を決定しています。

■ ロボットスーツHAL (hybrid assistive limb)

筑波大学（山海嘉之教授）で開発されたロボットスーツHALを用いて、脊椎脊髄疾患および膝関節疾患を対象とした神経および関節機能回復治療を行っています。脊椎脊髄疾患では、脊椎の後縦靭帯骨化症の入院患者に対して、術後約2週から両脚型HALを用いた歩行練習を実施しています。歩行速度、歩幅が大幅な改善を示しており、術後急性期の脊椎脊髄疾患に対して有効的なリハビリテーションツールとなる可能性が期待されています。変形性膝関節症に対する人工膝関節置換術後の急性期（入院中の患者さん）においては、単関節型HALを用いた膝関節伸展訓練が安全に実施可能であることが明らかとなりました。今後も様々な運動器疾患を対象として、急性期、慢性期を問わずHALを利用した新しい運動器リハビリテーションを展開していく予定です。

■ その他

イリザロフなど創外固定を応用した骨延長・骨移動術を、骨感染症の難治例や骨腫瘍例に対し病巣部切除後の欠損部修復に用いています。この方法は、小児の先天性骨疾患や外傷後の変形治癒に対しても積極的に用いられています。骨粗鬆症は、最新の骨塩量装置を用いた骨量測定、骨代謝マーカー測定を行い、骨粗鬆症の診断ならびに治療効果の判定を行い、地域の病院・医院と連携しながら治療を行っています。

関節リウマチは膠原病リウマチアレルギー内科と、小児の骨軟部腫瘍は小児外科・放射線腫瘍科と共同して治療しています。その他の診療科との連携も密で、骨感染症や合併症を有する症例では、内科・外科・小児科等の医師を含め総合的診療を行っています。火曜日午前の総回診以外、一般整形外科と健康スポーツクリニックを開設しています。

■ 診療実績

■ 外来診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	34,799
初診患者数	1,568
紹介患者数	1,403
逆紹介患者数	821

■ 入院診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	14,985
新入院患者数	886
平均在院日数	15.5日

リハビリテーション部



部長 准教授

羽田 康司

部の特徴

急性期リハビリテーションの必要性に応えるため、現在のところ、各診療グループの入院患者を中心に対応しています。またロボットスーツHALを用いた臨床研究を行っています。外来通院により行うリハビリテーションは、当院入院中に開始し、退院後も当院での継続が必要な方、およびリハビリテーションを必要としながら他の医療機関での実施が難しい方を主な対象としています。独立した診療科ではないため、外来で開始する場合は、通常は機能障害の原因である傷病について関連する診療科（グループ）を受診していただいた上で、その診療科からの依頼を受けています。

診療領域・体制

脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）、運動器リハビリテーション料（Ⅰ）、呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）ならびにがん患者リハビリテーション料を算定する施設基準を満たし、下記を行っています。

■理学療法（physical therapy；PT）

主に下肢・体幹の運動機能、呼吸・循環器系、代謝系の機能改善を目的とした療法。日常生活における基

本的動作能力の改善を目的とした動作練習。下肢切断前後のリハビリテーション。小児の発達訓練。必要により装具や補助具を併用します。運動療法機器としては、トレッドミル（免荷装置付き）、自転車エルゴメーター、等速度運動用機器などを備えています。

■作業療法（occupational therapy；OT）

主に上肢・手指の運動機能改善を目的とした療法（運動を直接行う理学的療法と作業課題を用いた機能的作業療法）。日常生活における応用的動作能力の改善を目的とした動作練習。作業課題を用いた心理的適応、高次脳機能、社会適応能力の改善を目的とした療法。上肢切断前後のリハビリテーション。小児の発達訓練。必要により装具や補助具、筋電バイオフィードバック療法なども併用します。

■言語聴覚療法

（speech language hearing therapy；ST）

言語を中心とした高次脳機能、構音機能、嚥下機能、コミュニケーション能力と摂食能力の改善を目的とした療法。小児の言語発達訓練。人工内耳埋め込み術後のリハビリテーション。

氏名	職名	専門分野
羽田 康司	准教授・部長	リハビリテーション全般
上野 友之	講師・副部長	神経筋疾患のリハビリテーション、痙縮の治療
清水 如代	病院講師	運動器疾患のリハビリテーション
呉 龍梅	病院講師	循環器疾患のリハビリテーション
三浦 紘世	病院助教	運動器疾患のリハビリテーション

職名	氏名
理学療法士	石川 公久（副部長）、中川のりこ、丸山 剛、岸本 圭司、湯原 民、岩淵 慎也、鈴木 康裕、松原 真由、田邊 裕基、塩見 耕平、加藤 秀典、高橋 雅文、萩野谷 歩、晝田 佳世、久松 智子、青木 麻美、中田 綾子、清水 朋枝、李 宰植、石塚由美子、瀧田 翔、山口 礼乃、近野 宏知、山内 駿介、小嶋 恭平、椿 拓海、相馬裕一郎、遠江 朋子、井出亮太郎、岡本 善敬、八塩ゆり子、荒木 文江、古蘭 弘隆、中谷 謙佑、西村 信幸、北島 丈、窪田 清香
作業療法士	久保 匡史、渡邊 麗子、山中ひとみ、久保田菜央、加々井佑太、小野 恵美、伊藤美有紀、日浅 健太、山倉 綾子、太田和加子、渡邊久仁子、若山真由美
言語聴覚士	寺元 洋平、篠田 克己、鈴木 菜摘、千本 恵子、加藤 直志、山崎南都美、福田あつみ

適応のある方に処方された大部分の装具と義手・義足および車いすの作製は専門の業者に依頼しています。

対象疾患

運動器（筋骨格系）の疾患・外傷、末梢および中枢神経の疾患・外傷、呼吸器疾患、循環器疾患、開胸・開腹術が行われる疾患（周術期）、廃用症候群、精神・運動発達遅滞、がん等

診療実績

種別新規依頼患者数

項目	人数
脳血管疾患等リハビリテーション	3,371
運動器リハビリテーション	2,401
呼吸器リハビリテーション	547
心臓大血管リハビリテーション	1,278
がん	248
廃用症候群	196





診療グループ長 教授

大鹿 哲郎

診療グループの特徴

眼科一般及び難治性眼疾患や角膜移植を含め、一日平均約200名の患者さんが来院しています。月～金曜日の午前中外来診療を、午後は一部再来診療を行っています。グループ長をはじめ各スタッフが、それぞれの専門領域を中心にきめの細かい診療を心掛けています。眼疾患の治療には、視機能改善とその保存に最大限の努力と工夫を凝らしています。年間手術件数は約1,800件であり、院内最多です。眼科の特殊検査やレーザー治療などの特殊治療は、平日午後に行っています。

診療領域・体制

白内障、眼光学分野、角結膜疾患、緑内障、ぶどう膜、網膜硝子体疾患、神経眼科、小児眼科、先天異常、眼腫瘍など、あらゆる眼科領域の診断、治療を行っています。

- ・白内障・眼光学分野では一般的な白内障の他に、各地から紹介された難治性白内障の手術を数多く手がけています。また、先進医療である多焦点眼内レンズやトーリック眼内レンズにも力を入れており、良好な結果をおさめています。
- ・角結膜分野では、すべての前眼部疾患に対応できることを特徴とする、角膜内皮移植術や深層前部層状角膜移植などの最新角膜移植手術を行っており、最小の侵襲で最大の治療効果が得られるようになりました。また羊膜移植も積極的に行っています。
- ・網膜硝子体分野では、年間約500件の手術を行っています。県南で唯一24時間体制の眼科当直を行っています。

いる施設であるため外傷が多くなっています。黄斑円孔、黄斑前膜、黄斑浮腫、糖尿病性網膜症、網膜剥離などあらゆる網膜硝子体疾患の手術を手がけています。黄斑変性に関してはレーザー治療や抗VEFG抗体による硝子体注射を行っています。未熟児網膜症の診療も行っています。緑内障分野では、線維柱帯切除術、線維柱帯切開術、隅角癒着解離術、インプラントを中心とした手術を施行しています。

- ・斜視分野では、眼科医とともに4人の視能訓練士が診療にあたり、多くの手術を施行しています。
- ・眼部腫瘍・眼窩疾患分野では、茨城県内では眼腫瘍を専門とする施設が他にないため、県内全域から多数の症例が紹介されています。眼瞼腫瘍、結膜腫瘍、眼窩腫瘍、眼窩吹き抜け骨折を中心として年間約100件の手術を施行しています。さらに当院では陽子線センターも併設しているため、幅広い選択肢の中から最適な放射線治療を選ぶことが可能となっています。
- ・涙道分野では、涙道内視鏡を導入し、難治症例に対しては涙嚢鼻腔吻合術を行っています。

対象疾患

白内障、乱視、近視、角膜感染症、角膜変性症、円錐角膜、翼状片、デルモイド、緑内障、ぶどう膜炎、黄斑前膜、黄斑円孔、糖尿病網膜症、黄斑浮腫、網膜剥離、眼外傷、視神経炎、視神経症、斜視、弱視、未熟児網膜症、先天性眼疾患、眼内腫瘍、眼窩腫瘍など

氏名	職名	専門分野
大鹿 哲郎	教授	白内障、屈折異常、角膜移植
加治 優一	准教授	角膜疾患、感染症
岡本 史樹	講師	網膜硝子体疾患、外傷
平岡 孝浩	講師	眼腫瘍、網膜硝子体疾患
岡本 芳史	講師（水戸地域医療教育センター）	網膜硝子体疾患、黄斑変性、未熟児
杉浦 好美	講師	網膜硝子体疾患
長谷川優実	病院講師	白内障手術
星 崇仁	診療講師	涙道
上野 勇太	診療講師	緑内障

先進医療等への取り組み

■前眼部三次元画像解析

適応症：緑内障、角膜疾患、角膜移植術後

内 容：角膜、隅角、虹彩などの断層面の観察や立体構造の数値的解析が行える唯一の検査です。

■多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術

適応症：白内障

内 容：多焦点眼内レンズによって遠方及び近方の視力回復が可能となり、眼鏡依存度が軽減されます。

診療実績

■外来診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	30,723
初診患者数	1,967
紹介患者数	1,761
逆紹介患者数	1,417

□検査件数

検査名	件数
光干渉断層計（前眼部、網膜）	6,818

□検査に関するコメント等

最新の前眼部断層撮影装置や、角膜形状測定装置、視機能検査の装置があり、自覚検査、他覚検査の両面より患者さんの見え方の質を、集学的に評価しています。

□治療件数

治療名	件数
抗VEGF剤の硝子体注射	1,741
網膜光凝固	130
角膜炎治療	59
涙道内視鏡	107

□治療に関するコメント等

重症角膜炎（アカントアメーバ、真菌）などを特殊な点眼を用いて外来で治療可能。涙道疾患、白内障、その他が外眼手術についても外来手術が可能です。

■入院診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	8,916
新入院患者数	1,252
平均在院日数	6.1日

□手術件数

術名	件数
網膜硝子体手術	498
緑内障	126
白内障	1,172

□手術に関するコメント等

難治性白内障をはじめ、網膜硝子体手術、眼窩、涙道手術など、幅広い眼科分野での手術を行っています。





診療グループ長 教授

佐藤 豊実

診療グループの特徴

筑波大学産婦人科は、周産期専門医5名、婦人科腫瘍専門医6名、内視鏡技術認定医1名、生殖医療専門医1名を擁して周産期、婦人科腫瘍、生殖医療、女性のヘルスケアの4領域すべての診療を行っています。周産期分野では、茨城県周産期救急搬送体制の一翼を担い、総合周産期母子医療センターに求められる高い水準の医療を患者さんにご提供し、婦人科腫瘍分野では悪性腫瘍であっても妊孕性温存の可否や、再発癌であっても治療の可能性を徹底的に検討するなど、患者さん一人ひとりに合わせたベストな治療法を提供しています。生殖医療分野はながらく診療を休止していましたが2013年より再開、現在は体外受精まで含めた治療を提供できるようになっています。女性のヘルスケア分野は原発性無月経から月経困難症、更年期障害を中心に、まさしく女性の一生に関わった診療を提供しています。

診療領域・体制

婦人・周産期診療グループ（産婦人科）は、各々の専門性を活かし、より高度の医療を提供できるように、婦人科と産科（周産期）に分かれて診療を行っています。入院病床数は婦人科32床、産科35床あります。すべての患者さんについて、診断から治療、その後の管理まで当グループの専門医が責任を持って行っているのはもちろんのこと、状況に応じて院内の様々な診療グループと密に連携をとりながら、患者さんにとって最もよい医療を提供できるように努力しています。

対象疾患

婦人科：婦人科悪性腫瘍（卵巣癌、子宮頸癌、子宮体癌等）、子宮筋腫、卵巣腫瘍、不妊症 等

産科：妊婦健診、ハイリスク妊娠の周産期管理、出生前診断、胎児治療 等

先進医療等への取り組み

■ 先進医療

1) 経胎盤的抗不整脈薬投与療法

適応症：胎児頻脈性不整脈

■ 現在進行中の臨床研究

- 1) 腫瘍径2 cm以下の子宮頸癌 IB1期に対する準広汎子宮全摘術の非ランダム化検証的試験
- 2) 上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験
- 3) 子宮ポリリープ状異型腺筋腫 (atypical polypoid adenomyoma, APAM) の治療法確立に向けた臨床病理学的研究～追加予後調査～
- 4) 婦人科領域におけるJCOG-バイオバンク・ジャパン連携バイオバンク
- 5) 頸管粘液中の胃型ムチンを検出する「シカHIK胃型ムチン」キットによる胃型腺癌の術前診断に関する研究
- 6) IVB期および再発・増悪・残存子宮頸癌に対するPaclitaxel/Carboplatin併用療法 vs. Dose-dense Paclitaxel/Carboplatin併用療法のランダム化第Ⅱ/Ⅲ相比較試験
- 7) リンパ節転移リスクを有する子宮体癌に対する傍大動脈リンパ節郭清の治療的意義に関するランダム化第Ⅲ相比較試験
- 8) ステージング手術が行われた上皮性卵巣癌Ⅰ期における補助化学療法の必要性に関するランダム化第Ⅲ相比較試験
- 9) 婦人科癌死亡症例に関する詳細調査-終末期における化

氏名	職名	専門分野
佐藤 豊実	教授	婦人科、腫瘍外科
濱田 洋実	教授	産科、出生前診断、胎児治療、臨床遺伝、生殖発生毒性
沖 明典	教授（茨城県地域臨床教育センター）	婦人科、腫瘍外科
小畠 真奈	准教授	産科、周産期感染症、合併症妊娠
水口 剛雄	准教授	婦人科、腫瘍外科
越智 寛幸	准教授	婦人科、腫瘍外科、鏡視下手術
川崎 彰子	講師	不妊症、生殖内分泌
八木 洋也	講師	産科、胎児治療
大原 玲奈	講師	産科
志鎌あゆみ	講師	婦人科、腫瘍外科
櫻井 学	診療講師	婦人科、腫瘍外科
秋山 梓	診療講師	婦人科、腫瘍外科
田坂 暢崇	病院講師	婦人科、腫瘍外科
阿部 春奈	病院講師	産科
細川 義彦	病院助教	産科、婦人科

学療法継続性の可否を判断する根拠の確立を目指して-

- 10) 本邦における65歳以上の高齢者に対する婦人科癌治療における現状と問題点の調査研究
- 11) ONO-4583第Ⅲ相試験ヒト型抗PD-1抗体卵巣癌に対する多施設共同非盲検無作為化試験
- 12) 局所進行子宮頸癌根治放射線治療施行例に対するUFTによる補助化学療法のランダム化第Ⅲ相比較試験
- 13) 未治療の卵巣癌患者を対象としたAvelumabの化学療法との併用療法または化学療法後の単剤療法の有効性、安全性を検討する無作為化、非盲検、多施設共同第Ⅲ相試験
- 14) 子宮内膜癌患者を対象とした癌関連遺伝子異常解析研究
- 15) 婦人科悪性腫瘍患者の静脈血栓塞栓症に関する多施設共同前向き単群検証的臨床試験
- 16) 進行・再発子宮頸癌に対するPaclitaxel/Carboplatin/Bevacizumab併用療法の有効性に関する第Ⅱ相試験
- 17) 卵巣癌における相同組換え修復異常の頻度とその臨床的意義を明らかにする前向き観察研究
- 18) 標準的な一次療法であるプラチナ/タキサン併用化学療法とベバシズマブ（化学療法との併用及び維持療法）による治療を受けた進行（FIGOⅢB-Ⅳ期）高悪性度漿液性又は類内膜卵巣癌、卵管癌、又は腹膜癌患者を対象にオラパリブをプラセボと比較するランダム化、二重盲検、第Ⅲ相試験（PAOLA-1）
- 19) 子宮頸管熟化が必要な妊娠末期（妊娠37週以上41週未満）の妊婦を対象としたFE999901放出制御型膣投与システムの子宮頸管熟化促進における有効性及び安全性を評価する多施設非盲検第Ⅲ相試験
- 20) 子宮頸管熟化が必要な妊娠末期（妊娠41週）の妊婦を対象としたFE999901放出制御型膣投与システムの子宮頸管熟化促進における有効性及び安全性を評価する多施設無作為化二重盲検プラセボ対照第Ⅲ相試験

診療実績

■ 外来診療実績

□ 患者数（周産期）

項目	人数
患者数	13,870
初診患者数	1,309
紹介患者数	1,058
逆紹介患者数	197

□ 患者数（婦人科）

項目	人数
患者数	21,454
初診患者数	940
紹介患者数	829
逆紹介患者数	359

■ 入院診療実績

□ 患者数（周産期）

項目	人数
患者数	12,073
新入院患者数	1,353
平均在院日数	7.9日

□ 患者数（婦人科）

項目	人数
患者数	11,541
新入院患者数	1,060
平均在院日数	9.6日

□ 手術件数

術名	件数
子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍	112
子宮頸癌	48
子宮体癌	89
卵巣癌	53
子宮鏡下子宮内膜ポリープ切除術	16
子宮筋腫摘出術	5
腹腔鏡下卵巣嚢胞摘出術	36
ロボット支援下手術	7
帝王切開	276
子宮内容除去術	45
異所性妊娠手術	7
妊娠中の卵巣嚢胞摘出術	6
総分娩数（妊娠22週以降）	1,089

□ 検査件数

検査名	件数
内分泌検査	107
精液検査	123
子宮卵管造影検査	102
抗リン脂質抗体症候群検査	18
染色体検査	17
超音波断層検査	12,500
羊水検査	93

□ 治療件数

治療名	件数
経口排卵誘発剤（一般不妊治療）	46
ゴナドトロピン療法（一般不妊治療）	37
人工授精	211
体外受精・顕微授精	66
凍結融解胚移植	30
クラミジア頸管炎	40
妊娠糖尿病	132
妊娠性貧血	350
腔カンジダ症	120
トリコモナス膣炎	15
細菌性膣症	20
切迫流・早産	150





診療グループ長 准教授

和田 哲郎

診療グループの特徴

茨城県は最近の厚生労働省の統計でも人口当たりの耳鼻咽喉科医師数が最も少ない県の1つです。そのため、患者さんが耳鼻咽喉科にかかりにくいというようなことも起こっているのではないかと推測されます。当科では、難聴・中耳炎に代表される耳科疾患、慢性副鼻腔炎に代表される鼻科疾患、嚔声や嚔下困難をきたす咽喉頭疾患、頭頸部がんなど、耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の各疾患に幅広く対応できるように体制を整えています。地域医療に貢献するため、紹介、逆紹介を増やし、病診連携を積極的に進めていきたいと考えておりますので、どうぞ御紹介くださいますようお願いいたします。またその際、貴重な情報を共有し、意思疎通を図るため、紹介状を付けていただければ幸いです。

診療領域・体制

初診外来は月～金の午前中です。予約制をとっておりますので受診前に予約センターまたは医療連携患者相談センターで予約が必要になります。予約日に紹介状とお薬手帳をもって受診してください。外来担当医師は曜日により異なります。水曜・金曜は手術日ですので外来で対応できる医師数が少なくなります。原則として医師指定はできません。当日の初診外来担当医が診察し、2回目以降の外来については必要に応じて適切な医師に引き継ぎます。

緊急性の高いケースでは、紹介状を書いてくださった先生から直接その日の当科オンコール医師にご連

絡・ご相談ください。紹介状のない患者さんは原則として診察しておりませんのでご理解ください。

対象疾患

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の疾患全般に対応しています。代表的なものは以下の通りです。

耳科疾患：外耳炎（悪性外耳道炎）、中耳炎（急性中耳炎、滲出性中耳炎、反復性中耳炎、慢性中耳炎、癒着性中耳炎、真珠腫性中耳炎、好酸球性中耳炎、血管炎性中耳炎など）、コレステリン肉芽腫、耳硬化症、耳小骨奇形、外耳道閉鎖症、外リンパ瘻、先天性耳瘻孔、聴神経腫瘍、聴器がん、難聴（突発性難聴、急性低音障害型感音難聴、老人性難聴、騒音性難聴、音響外傷、特発性難聴、先天性難聴、遺伝性難聴、ムンプス難聴など）、耳鳴症、めまい（メニエール病、前庭神経炎、良性発作性頭位めまい症など）、顔面神経麻痺など

鼻科疾患：急性副鼻腔炎、慢性副鼻腔炎、好酸球性副鼻腔炎、副鼻腔嚢胞、前頭洞嚢胞、アレルギー性鼻炎、花粉症、鼻中隔湾曲症、外鼻変形、肥厚性鼻炎、薬剤性鼻炎、鼻出血、副鼻腔真菌症、鼻腔乳頭腫、副鼻腔がん、嗅神経芽細胞腫、術後性頬部嚢腫、歯性副鼻腔炎、鼻涙管狭窄症、眼窩吹き抜け骨折、鼻性眼窩内合併症、鼻性頭蓋内合併症、嗅覚障害、髄液鼻漏など

頭頸部疾患：頭頸部がん（喉頭がん、上咽頭がん、中咽頭がん、下咽頭がん、口腔がん、鼻・副鼻腔がん、聴器がん、唾液腺がん、甲状腺がんなど）、唾液腺良性腫瘍（耳下腺腫瘍、顎下腺腫瘍など）、頸部嚢胞（側

氏名	職名	専門分野
和田 哲郎	准教授	耳鼻咽喉科、頭頸部外科
大久保英樹	准教授	耳鼻咽喉科、頭頸部外科
田淵 経司	講師	耳鼻咽喉科、頭頸部外科、特に耳疾患
西村 文吾	講師	耳鼻咽喉科、頭頸部外科、特に頭頸部がん
田中 秀峰	講師	耳鼻咽喉科、頭頸部外科、特に鼻疾患
廣瀬 由紀	講師	耳鼻咽喉科、頭頸部外科、特に耳疾患
中山 雅博	講師	耳鼻咽喉科、頭頸部外科、特に頭頸部がん
宮本 秀高	病院講師	耳鼻咽喉科、頭頸部外科、特に鼻疾患

頸嚢胞、正中頸嚢胞、がま腫、嚢胞状リンパ管腫など)、喉頭腫瘍(声帯ポリープを含む)、咽頭腫瘍、副咽頭間隙腫瘍、頸部腫瘍(神経鞘腫、傍神経節腫、転移性頸部リンパ節、悪性リンパ腫など)、深頸部膿瘍など

先進医療等への取り組み

その他、特に以下の項目は対応できる医療機関に限られますので、ご相談ください。

乳幼児難聴外来：当院は日本耳鼻咽喉科学会認定の新生児聴覚スクリーニング後の精密聴力検査機関です。木曜日に専門外来を開設し、難聴の有無と程度の早期診断ならびに療育に対応しております。

難聴の遺伝子診断：難聴の原因として遺伝が関与していることが少なくありません。信州大学耳鼻咽喉科、国立病院機構東京医療センターならびに当院遺伝外来と連携して難聴の遺伝子検査に対応しています。お気軽にご相談ください。

舌下免疫療法外来：アレルギー性鼻炎の新しい治療法として注目されています。近隣の耳鼻咽喉科医院と連携し、当院で治療を開始し、かかりつけの耳鼻咽喉科医院に逆紹介して治療を継続してもらいます。

診療実績

外来診療実績

患者数

項目	人数
患者数	12,665
初診患者数	912
紹介患者数	851
逆紹介患者数	736

検査件数

検査名	件数
聴覚検査	
純音聴力検査	1,830
聴性脳幹反応検査	148
聴性定常反応検査	29

検査に関するコメント等

様々な原因疾患による聴覚障害に対し、正確な聴力評価に努めています。

治療件数

治療名	件数
頭頸部がんの臓器温存治療	
放射線治療(陽子線治療を含む)	83
化学療法(分子標的治療を含む)	37

治療に関するコメント等

頭頸部悪性腫瘍に対して、様々な領域の専門医が参加するオンコロジーカンファレンスで治療方針を検討し、望ましい治療の選択肢を提示しています。放射線腫瘍科・腫瘍内科と協力して集学的治療も行っています。

入院診療実績

患者数

項目	人数
患者数	7,027
新入院患者数	570
平均在院日数	11.2日

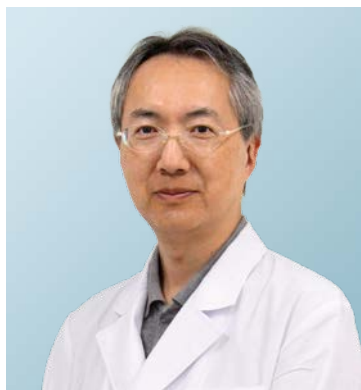
手術件数(2017年)

術名	件数
耳科手術(人工内耳)	135(19)
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	192
頭頸部腫瘍手術	145
頭蓋底手術(脳神経外科合同含)	72

手術に関するコメント等

良性疾患では最大限の機能温存・改善を目指します。悪性疾患では症例に応じて、脳神経外科・消化器外科・形成外科等と合同で根治性を高める拡大手術あるいは機能温存手術にも取り組んでいます。





診療グループ長 教授

田中 誠

診療グループの特徴

筑波大学附属病院麻酔診療グループの任務は、麻酔を受ける全ての患者さんに対し、安全で苦痛の少ない周術期ケアを提供すること、円滑な手術の進行に協力すること、そして研修医教育や麻酔科専門医の育成を通じて地域の急性期医療を支えることです。そのためには、現代の医療水準に照らし合わせ成人および小児の手術患者に対し、急性・慢性痛のコントロールを含めた適切な術前・術中・術後管理を施すとともに、診療・教育活動を通じ関連病院群と連携しながら地域における保健・福祉に貢献します。

診療領域・体制

手術麻酔を中心に診療を行い、その他に痛みの治療（ペインクリニック）や集中治療を行っています。麻酔に関しては患者さんの安全を第一に考え、術中・術後を通じ痛みや恐れを感じさせない麻酔管理を目指しております。その上で外科医が手術を施行しやすいよう最善を尽くし、看護師や他の医療従事者と連携・協力しながら患者さんが最も良い医療を受けられるよう努力しております。

対象疾患

ペインクリニック：各種慢性疾患（帯状疱疹後神経痛、慢性腰痛など）

診療実績

外来診療実績

患者数

項目	人数
患者数	6,047
初診患者数	67
紹介患者数	31
逆紹介患者数	11

治療件数

治療名	件数
三叉神経・ガッセル神経節の高周波熱凝固ブロック	2
高周波パルス治療	2
腹腔神経節ブロック	1
クモ膜下フェノールブロック	2

治療に関するコメント等

ペインクリニック：線維筋痛症、帯状疱疹後神経痛、

氏名	職名	専門分野
田中 誠	教授	麻酔全般、集中治療、ペイン、蘇生
猪股 伸一	准教授	麻酔全般、小児麻酔、ペイン、蘇生
高橋 伸二	病院教授	麻酔全般、集中治療、ペイン、蘇生
山下創一郎	病院教授	麻酔全般
福田 妙子	教授（土浦市地域臨床教育センター）	麻酔全般、ペイン、蘇生
星 拓男	准教授（茨城県地域臨床教育センター）	麻酔全般、心臓麻酔
田口 典子	准教授（水戸地域医療教育センター）	麻酔全般
山本 純偉	講師	麻酔全般
左津前 剛	講師	麻酔全般
大坂 佳子	講師	麻酔全般
中山 慎	講師	麻酔全般
清水 雄	講師（水戸地域医療教育センター）	麻酔全般
叶多 知子	病院講師	麻酔全般、心臓麻酔
植田 裕史	病院講師	麻酔全般、ペイン
石垣麻衣子	病院講師	麻酔全般、心臓麻酔

三叉神経痛、腰痛、がん性疼痛などで痛みを苦しむ患者さんが、一日でも早く笑顔で日常生活を過ごせるよう、麻酔科では専門の医師が治療に取り組んでいます。最近、神経障害性疼痛が広く知られるようになり、TVでも話題になってきました。しかし、痛みを放置すると神経が変性し、長期間痛みを苦しむことになることは、知られていません。私どもは、大切な臓器のひとつである神経系を早期治療のターゲットとし、学会の指針に基づく内服療法、神経ブロック療法などを積極的に取り入れ、成果を上げています。さらに高周波熱凝固療法を用いることで、患者さんが早期に満足できる痛みの治療を目指しています。また、痛みは、情動・脳とも関連しているため機能的脳画像診断などを用い総合的治療の開発にも力を入れています。

集中治療：手術後の患者さんあるいは重症の患者さんの呼吸・循環を中心とする全身管理を行う集中治療室では、救急・集中治療部医師と連携し、麻酔科医は全身管理に関わる知識や技能をいかんなく発揮し治療に参加・協力しています。

■入院診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	14
新入院患者数	2
平均在院日数	6.0日

□手術件数

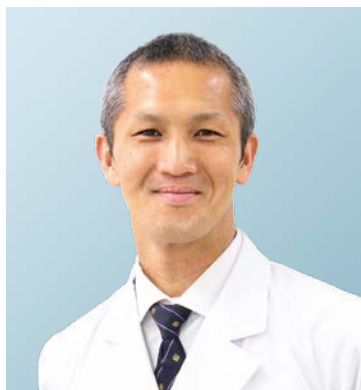
術名	件数
総手術件数	9,087
うち緊急手術件数	1,464
総麻酔科管理手術件数	6,275
うち緊急手術件数	1,145
手術室外麻酔件数	210

□手術に関するコメント等

手術麻酔：麻酔診療グループでは約6,400件の麻酔管理を担当しています。麻酔モニターの充実を図り、手術室16部屋の全てに統一した最新鋭のモニターを完備しています。これらモニターには自動血圧測定、心電図、動脈血ヘモグロビン酸素飽和度の必須モニターに加え、呼気炭酸ガスモニター、経食道心エコー、観血的動脈圧モニター、心拍出量測定装置などが含まれており、さらに近年では自動麻酔記録システムが装備され、麻酔科医の注意をより一層患者さんのバイタルサインの急変やきめ細かい管理に役立てられるような体制が敷かれています。さらに麻酔管理室では、これらのモニターを集中的に監視し、患者さんの急変にいち早く対応できる体制を取っており、麻酔関連事故を未然に防ぐ最大限の努力を払っております。また、胸部、腹部、下肢手術には積極的に持続硬膜外麻酔や末梢神経ブロックを併用し、積極的な術後の鎮痛を図るとともに、その効果や副作用についても麻酔科担当スタッフが対応するシステムを構築しています。



救急・集中治療科



診療グループ長 教授

井上 貴昭

診療グループの特徴

筑波大学附属病院救急・集中治療部は、2016年4月から新体制で診療体系を見直し、2年が経過しました。受け入れ患者数及び重症患者数は年々増加傾向にあり、加えて院内重症患者の診療連携患者数も増加しています。救急医療・重症集中治療を通じて、チーム医療連携を積極的に進めています。また、地域の各中核病院でお困りの症例や、各種合併症を保有する症例にも対応できる、地域救急医療の最後の砦として、重症症例の集約化に尽力しております。更には、CBRNE災害と称される、化学・生物学・放射線・核・爆撃災害にも対応できる施設となるべく、茨城県内の原子力災害拠点病院の認可を受け、どのような災害・事故にも対応できる、準備と体制づくりを進めています。有事の際にいかに診療を継続できるかという、BCP（Business Continuity Plan）の構築にも重点を置き、地域のみなさま、地域の各医療機関がどんなときでも安心して過ごせる、地域の救急医療セーフティネットを構築するように計画を進めています。様々な専門性を持つ若手スタッフ数も増えてきました。昨年度より開始された新専門医プログラムでは、茨城県内全救命救急センター6箇所と中核となる地域の救急医療施設7箇所をすべて網羅する、『次世代型救急科専門医養成プログラム』の基幹病院として、若

手救急医の育成にも力を尽くしていきたいと思っております。

診療領域・体制

当院救急・集中治療部は、主として中等症から重症救急患者に対応する救急外来に加え、地域で発生した重症・最重症患者を集約し、速やかに状態を安定化させた上で、早期社会復帰を可能にするための各種集中治療を行う機能を持ち合わせます。そのため多職種・複数診療科スタッフによるチーム医療連携を実現させ、最重症の患者さんに対して最先端で最高の救急医療を実現できる体制を構築しております。また、院内急変対応や、心肺蘇生に関する多職種・複数診療科スタッフに向けた教育にも力を注いでいます。更には、先の東日本大震災や常総市大水害において出動させていただきましたDisaster Medical Assistant Team（DMAT）に代表されるような、災害医療にも積極的に対応しております。24時間365日、地域のみなさまが安心して過ごせるセーフティネットとしての救急医療体制の確立と、次世代の救急医療発展のための研究、そして若手医師の教育を積極的に実施していきます。

対象疾患

救急外来部門

- 24時間365日、救急・集中治療部専属スタッフを

氏名	職名	専門分野
井上 貴昭	救急・集中治療部部長（教授）	救急医学、集中治療医学、外傷外科学、熱傷医学
河野 了	救急・集中治療部副部長（病院教授）	救急医学、集中治療医学、循環器病学、臨床疫学
丸島 愛樹	救急・集中治療部副部長（講師）	救急医学、集中治療医学、脳神経外科学、脳卒中
下條 信威	救急・集中治療部副部長（講師）	救急医学、集中治療医学、循環器病学
西野 衆文	講師	救急医学、整形外科、災害医学
榎本 有希	病院講師	救急医学、集中治療医学、小児科学、災害医学
小山 泰明	病院講師	救急医学、集中治療医学、蘇生学、外傷外科学、熱傷医学
松本 佑啓	病院講師	救急医学、集中治療医学、整形外科
柳澤 洋平	病院講師	救急医学、集中治療医学、整形外科
星野 哲也	病院講師	救急医学、集中治療医学
鈴木 貴明	病院講師	救急医学、集中治療医学、外傷外科学、国際医療
本田 洵也	病院助教	救急医学、集中治療医学、循環器病学
古川 彩香	チーフレジデント	救急医学、集中治療医学
長友 一樹	シニアレジデント	救急医学、集中治療医学

中心に、中等症から重症救急患者を受け入れ、状態の安定化と原因精査を実施します。

2. 各専門診療グループと連携・協力の上で、人工呼吸管理・血液浄化法を含めた最先端の集中治療と、手術治療やカテーテル治療などの各種専門治療を実施します。
3. 脳血管障害（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血など）や虚血性心疾患・不整脈疾患、大血管・末梢血管疾患などについては、血管内治療・手術治療を含めた専門診療を該当診療科と連携して迅速に対応します。
4. 小児科救急疾患、周産期救急疾患、精神科救急疾患についても、各専門診療グループのスタッフと連携して、専門診療を実施します。
5. 眼科・循環器・消化器外科・整形外科・脳神経外科領域の救急疾患については、常時専門スタッフが在院し、救急・集中治療部と密接に連携します。
6. 近隣の地域医療連携医療機関と連携し、ドクターヘリ・ドクターカー搬送を広く応需し、県内外の難治症例の受け入れを推進します。
7. 多数傷病者発生時の災害医療において、重症度に基づく優先順位選別により傷病者受け入れを速やかに行います。東日本大震災や常総大洪水事例において実出動経験を持つDMAT2チームの編成が常時可能です。

■集中治療部門

1. ICU12床、PICU 8床、HCU28床の重症集中治療病床を保有し、人工呼吸管理、血液浄化法、経皮心肺補助装置など、重症患者に対する各種集中治療を実施しています。
2. 大学病院の利点を生かし、救急・集中治療部の指揮の元、各診療科と密接に連携しながら、最善の気道管理、呼吸管理、循環管理、栄養管理、感染対策を実施し、重症患者の超急性期～急性期における集中治療を実施しています。
3. 看護師、臨床工学士、理学療法士、など重症集中治療の推進に不可欠な多職種と密接に連携し、早期離床と合併症の予防、早期社会復帰を実現できるよう努めています。



4. 院内感染対策チーム、栄養管理サポートチーム、呼吸管理サポートチームなど、多職種・複数診療科スタッフで構成される各専門サポートチームの協力下に、多角的な連携・診療を推進しています。

■先進医療等への取り組み

■先進研究内容

- ・敗血症に対する臓器障害、凝固障害などの合併症とその治療法の研究
- ・中毒物質と中毒症状に関する研究
- ・慢性患者における外傷治癒経過に関する研究
- ・集中治療室における呼吸管理に関する研究
- ・ICUせん妄の診断
- ・難治性合併症の治療と予防に関する研究
- ・周術期不整脈のコントロールに関する研究
- ・脳血管疾患に関する治療法の研究
- ・酸化ストレス及び心電同期変動解析を用いた生体ストレスの定量化に関する研究
- ・ICU acquired weaknessの発症機序と予防に関する研究
- ・ICUにおける院内感染菌種の侵入経路の解明と遺伝子解析を用いた適正隔離法確立のための研究

■診療実績

■救急外来部門

救急外来受診患者総数及び救急搬送総件数は年々増加傾向を示し、特に救急車総数は過去最高を記録しました。

項目	件/年
救急外来受診患者総数	9,492
救急車搬送総件数 (2017年1～12月)	3,675

■集中治療部門

項目	件
ICU総入室患者件数	909
PICU総入室患者件数	324
HCU総入室患者件数 (2017年1～12月)	2,437





診療グループ長 教授

武川 寛樹

診療グループの特徴

筑波大学歯科口腔外科は、口腔腫瘍・顎関節疾患・顎変形性・顎顔面外傷・唇顎口蓋裂・口腔感染症・顎顔面補綴など、口腔とそれに隣接する組織・器官の疾患、異常に対して、機能を回復させることを目的として診療しています。口腔外科領域における様々な疾患に対応しており、茨城県の中核病院として県内の歯科医院や病院歯科との密接な連携を重視し、県民の皆様が安心して受診できる医療体制を築いています。研究においても、より良い医療を実現するために、実際の臨床に密接に関係した課題を取り上げ、特に口腔がん研究に重点を置き取り組んでいます。基礎研究の成果が一日でも早く臨床応用を図れるよう努力しています。また、当科は医師と歯科医師の両方の資格を有するダブルドクターが2人おり、教育としては単に臨床や研究ができるだけでなく、人間的にも安定した、思いやりのある明るい心を持った立派な歯科医師・医師の育成を目指しています。

診療領域・体制

口腔や歯に関する様々な疾患のうち、一般の歯科診療所では対応できない歯科口腔外科疾患を主体として診療を行っています。初診は原則紹介予約制をとっており、火、木曜の午前中が新患日で、再来の患者さんは担当医が予約制をとり対応しています（曜日別の担当医師名は歯科口腔外科のホームページをご覧ください）。患者さんは一日平均約60名来院しており、治療の主体は外科的治療です。形態や機能を温存して病気を根治的に治療することをモットーにして、埋伏智歯、口腔感染症、顎関節疾患、唇顎口蓋裂、顎変形症、

顎顔面外傷、口腔腫瘍等の疾患に対処しています。う蝕・歯周疾患や義歯作製の治療は原則として行っていますが、医療の進歩や高齢者社会により最近増加している全身疾患をもつ患者さんに対してはこの限りではなく、主治医と緊密に連絡をとり、適切に対処しています。また、顎顔面補綴治療、インプラント治療も行っています。

対象疾患

埋伏智歯、嚢胞、口腔腫瘍、口腔感染症、顎関節疾患、唇顎口蓋裂、顎変形症、顎顔面外傷、インプラント等

先進医療等への取り組み

内 容：抗癌キメラペプチドを用いた口腔がんの分子標的治療
マイクロRNAを用いた口腔がんの診断・治療
p62による口腔がんの予後探索
歯髄幹細胞を用いた再生医療の研究
遺伝子ノックアウトマウスを用いた口腔疾患の解析
酸化ストレスタンパク質を用いた腫瘍マーカーの開発

氏名	職名	専門分野
武川 寛樹*	教授	口腔腫瘍、口腔感染症、外傷、有病者治療、顎関節疾患
柳川 徹*	病院教授	口腔腫瘍、インプラント、唇顎口蓋裂、顎変形症、外傷
山縣 憲司	講師	口腔腫瘍、唇顎口蓋裂、顎変形症、インプラント、外傷
菅野 直美	講師	口腔腫瘍、インプラント、唇顎口蓋裂、有病者治療
萩原 敏之	臨床教授（病院）	顎変形症、インプラント

*医師と歯科医師のダブルライセンスを取得

診療実績

■ 外来診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	13,261
初診患者数	2,335
紹介患者数	2,220
逆紹介患者数	724

□ 治療に関するコメント等

口腔腫瘍：口腔がんについては視診、触診に加えて、CT、MRI、エコー、PET等の画像診断により病変の範囲、頸部リンパ節転移、他部位転移の有無を検討した上で治療法を決定しています。また、毎週、頭頸部がんセンターボードへ参加し他科とも連携しています。その他上記以外にも、診断や治療が困難であった様々な症状や疾患についても対処しています。初期がんに関しては、主として手術療法を行い、進行例に対しては機能温存を考慮し、化学放射線療法を併用し切除範囲を極力小さくした治療を実施しています。形成外科と合同でマイクロサージェリーを用いた遊離皮弁により欠損部の即時再建手術を行い、術後機能、形態の温存に努めています。2000年からは大学内に陽子線医学利用研究センターが設立され、放射線腫瘍科との対診を行い、陽子線治療も実施しています。

唇顎口蓋裂：患者さんの発育や年齢に応じて、口唇形成術、口蓋形成術を行っています。手術後の顎発育や咬合の異常については、歯科矯正医との連携により、一定の年齢に達した時期に顎裂部への骨移植術、外科矯正手術を行っています。ホッツ床による顎発育の補助も行っています。

インプラント：従来の義歯やブリッジで満足のいく結果が得られない場合に、歯の欠損部にチタン製の人工歯根を埋入し、一定期間後にその上に歯冠補綴物や義歯を装着し咬合を回復させます。インプラント治療に当たっては、紹介元の歯科診療所との連携をとり、人工歯根の埋入のみもしています。費用は保険診療の適用外となりますが一部の疾患術後の患者さんにおいては保険適応となります。

顎変形症：上顎前突、下顎前突、あるいは顔面左右非対称等の顎の形態に異常のある顎変形症では、通常、咬合の異常を伴います。このような疾患に対しては、歯科矯正医との連携のもとに、手術と矯正治療を併用する外科矯正手術を行い、形態のみならず機能の改善に努めています。

顎顔面補綴：悪性腫瘍等の手術あるいは様々な疾患の後遺症として顎顔面領域に欠損が生じた場合、顎顔面補綴の適応になります。外科的な処置による欠損の修

復が困難な場合、高度な歯科的技術を応用して欠損部を人工物で修復し、形態と機能の回復を図っています。

抜歯：主として、一般歯科診療所で困難と思われる水平埋伏智歯や埋伏過剰歯などの抜歯を行っています。通常、外来で抜歯しますが、患者さんの希望により、入院全身麻酔下で同時に複数の歯を抜歯することも可能です。また、血液疾患、循環器疾患、脳血管障害等の全身疾患をもつ患者さんは入院管理下で安全に抜歯を行っています。

顎関節疾患：様々な顎関節疾患のうち、最も頻度が高いのが顎関節症である。顎関節症に対してはスプリントによる保存治療を主体にしていますが、心理面からのアプローチも積極的に取り入れ、優れた治癒率を得ています。

顎顔面外傷：上顎、下顎の骨折に対しては咬合の回復を第一に考えて手術を行っています。手術に当たっては、生体吸収性あるいはチタン製のプレートの使用により、手術時間の短縮、術後顎間固定期間の短縮、入院期間の短縮を図っています。

■ 入院診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	3,316
新入院患者数	320
平均在院日数	9.3日



診療グループ長 教授

松崎 一葉

診療グループの特徴

保健衛生外来診療グループは、他の医療機関では聞き慣れない診療科名ですが、筑波大学附属病院の開院時には職業病性疾患外来診療グループという名称でした。しかし、当外来を受診する方の中に、高齢者、小児や学生が多くなったこと、心の病や葛藤など精神保健領域の他、高脂血症を中心とした動脈硬化症など内科領域の保健指導も充実し、家族に対する健康教育なども行われてきたことを踏まえて、平成3年（1991年）より改称して、保健衛生外来診療グループになっています。現在では、社会からの要請として、特殊な職業病対策だけでなく、職業関連性疾患として、いわゆる生活習慣病、メンタルヘルス不調などの問題が大きくなるとともに、対象となる年齢層が拡大し、身体と精神、小児から老人までの指導相談を、疾病の発症予防である第一次予防対策から、再発防止やリハビリテーションを中心とする第三次予防対策まで、多彩な包括的医療を行うことを目指して活動しています。

診療領域・体制

- 産業保健外来
 - 1) 業務に起因して発症する職業病・作業関連疾患の予防
 - 2) 職場復帰に関する相談
 - 3) 業務に起因する精神的問題や過労に関する相談・生活習慣病予防外来
糖尿病、高脂血症などを持つ成人やハイリスク群の小児を対象として、主治医と連携しながら、減量や食

事・運動療法を個人の生活リズムに合わせて指導しております。その他、高血圧症、腎臓病などを対象に診療を行っております。また、遺伝相談を行っております。

■精神保健外来

- 1) 親子関係に困難を生じている事例。児童・青年期の不適応（不登校、ひきこもり、いじめ等）に関する親へのアドバイス
- 2) 犯罪・暴力・虐待による心的外傷後ストレス障害（PTSD）
- 3) 職場のストレスなどによる心身症、身体表現性障害、軽症うつ病
- 4) 外来治療が可能な慢性統合失調症

■対象疾患

- ・職域において発生する、職業病・作業関連疾患や職場におけるメンタルヘルス問題等
- ・生活習慣病
- ・児童・青年期の不適応（不登校、ひきこもり、いじめ等）
- ・犯罪・暴力・虐待による心的外傷後ストレス障害（PTSD）

■先進医療等への取り組み

- ・筑波研究学園都市で働く労働者のメンタルヘルスに関する大規模疫学調査
- ・オープンダイアログの実践
- ・DV事例への介入

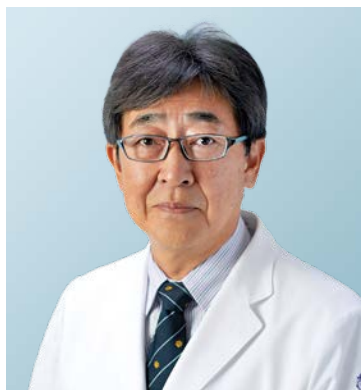
氏名	職名	専門分野
松崎 一葉	教授	産業保健学、産業精神医学
斎藤 環	教授	思春期青年期精神医学、児童青年期精神医学、家族カウンセリング
柳 久子	准教授	児生活習慣病予防
森田 展彰	准教授	児童青年期精神医学、家族カウンセリング
笹原信一郎	准教授	産業保健学、産業精神医学、長寿医学
大井 雄一	助教	産業保健学、産業精神医学、家族カウンセリング
道喜将太郎	助教	産業保健学、産業精神医学
堀 大介	助教	産業保健学、産業精神医学

診療実績

■ 外来診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	1,179
初診患者数	17
紹介患者数	9
逆紹介患者数	2



診療グループ長 教授

櫻井 英幸

診療グループの特徴

筑波大学では、国立大学で最多の放射線治療を行っています。エックス線治療各種、小線源治療、陽子線治療など、さまざまな放射線治療が可能です。エックス線、電子線を用いる放射線治療については高精度の照射が可能な最新鋭の機器を備えています。陽子線治療は、病院に併設されたセンターで行っています。本グループには放射線治療の基礎である放射線物理学分野の専門家や医学物理士が専任で所属しており、品質・安全管理にも力を注いでいます。また、茨城県内のがん診療拠点病院をネットワークで結び、各病院の放射線治療部門と密接に連携をとって診療を行っています。紹介元の主治医の先生方や、院内の各臓器の専門診療グループとの緊密な協力の下で、がんの患者さんに最も良い治療を提供できるよう心掛けています。術後の放射線治療や、化学療法と併用した放射線治療に関する相談にも応じています。当科にて入院も可能です。

診療領域・体制

■ エックス線 電子線外部照射

がんの放射線治療は、ほとんどがエックス線を体の外から照射する外部照射によって行われます。外部照射では、従来の治療法に加え、次の特殊な治療法を行っています。

三次元照射：脳腫瘍、肺がん、肝がん、前立腺がんなど、小さい腫瘍が対象。多数の方向から三次元的にエックス線を病巣へ集中照射する方法です。放射線の集中性が高いため、大量の照射ができる結果、根治性が高く侵襲（副作用）も少なくなります。

強度変調放射線治療（IMRT）：前立腺がん、脳腫瘍、頭頸部がんなどが対象。エックス線のエネルギーを病巣の形に合わせて照射する治療法です。病巣に近接した正常組織を避けながら治療できるので、副作用のリスクを上げずに、病巣により多くの線量を投与できます。

術中照射：胆道がん、膵がん、神経芽腫などを対象。手術室で病巣部を露出し、病巣周囲の健常組織を機械的に排除して、電子線を照射します。術前照射や術後照射と併用して、病巣部への線量増加が図れます。また、小児では成長障害のリスクが少なくなります。

全身照射：血液内科グループと協力して骨髄移植の前処置として行っています。

■ 小線源治療

外来治療も可能。線源強度が高いため（高線量率）、照射は短時間で終了します。小線源治療専用の治療計画用CTも配備しました。これにより、一層精密な治療が可能となります。

腔内照射：主に子宮頸がん、食道がん、中枢型気管支がんなどが対象です。病巣のある腔内に線源導管を挿

氏名	職名	専門分野
櫻井 英幸	教授	放射線治療、陽子線治療
坪井 康次	教授	陽子線治療、放射線生物学、脳神経外科学
玉木 義雄	教授（茨城県地域臨床教育センター）	放射線腫瘍学
奥村 敏之	病院教授	放射線治療、陽子線治療
石川 仁	准教授	放射線治療、粒子線治療
野中 哲生	准教授	放射線治療、陽子線治療
水本 斉志	講師	放射線治療、陽子線治療
大西かよ子	講師	放射線治療、陽子線治療
室伏 景子	病院講師	放射線治療、陽子線治療
沼尻 晴子	病院講師	放射線治療、陽子線治療
中尾 朋平	病院講師	小児腫瘍、陽子線治療
溝口 信貴	病院講師	放射線治療、陽子線治療

入して照射します。多くの場合、外部照射後の追加照射として用います。

組織内照射：主に子宮がんや膣がんなどに威力を発揮します。線源導管は、局所麻酔下や硬膜外麻酔下で刺入します。切除不能な各種のがんに対し、手術中に線源導管を配置してくることもあります。

対象疾患

固形がん全般において適応となります。血液腫瘍に対しても、全身照射などの適応があります。

先進医療等への取り組み

陽子線治療

内 容：陽子線は体内に入るとエネルギーに応じた一定の距離を進み、ぴたりと止まる性質の放射線です。がんの手前側の線量を最大値の7～8割におさえ、がんよりも奥側の線量はほとんど無くすることができ、周囲の正常組織への線量が少ないので放射線による合併症が少なくなります。現在までに肝がんや食道がん、肺がん、脳腫瘍など治療の難しい腫瘍などでも良い成績を上げています。陽子線治療は、平成28年4月より小児腫瘍が保険診療となりました。その他の腫瘍は先進医療として実施していますが、対象疾患は統一治療方針として全国一律の適応基準にそって治療を行っています。先進医療の場合、一連の治療費として患者負担となります。ただし、一部の疾患に対しては臨床試験を行っており、該当する場合の陽子線治療の費用は当センターで負担します。陽子線治療を希望される患者さんに対しては、診察時に詳しく説明をします。経済的な負担のためにこの治療を受けることのできない患者さんに対しては、次善の方法を呈示します。※小児がんの陽子線治療は平成28年4月1日より保険診療となりました。詳細は (<http://www.pmmc.tsukuba.ac.jp>) を参照してください。

診療実績

外来診療実績

患者数

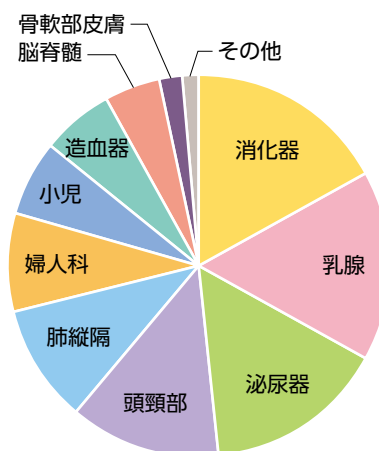
項目	人数
患者数	22,849
初診患者数	429
紹介患者数	409
逆紹介患者数	1,261

治療件数

治療名	件数
医療用リニアックによる外照射	687
陽子線治療	281
イリジウム線源による小線源治療	87
強度変調放射線治療	157
温熱療法	165

治療に関するコメント等

治療件数内訳	陽子線	エックス線	計
消化器	109	67	176
乳腺	1	165	166
泌尿器	69	90	159
頭頸部	13	119	132
肺縦隔	26	76	102
婦人科	2	84	86
小児	53	13	66
造血器	3	62	65
脳脊髄	4	43	47
骨軟部皮膚	0	21	21
その他	1	12	13



入院診療実績

患者数

項目	人数
患者数	5,091
新入院患者数	174
平均在院日数	25.3日





診療グループ長 教授

南 学

診療グループの特徴

当グループは核医学を含む画像診断全般において、一部の特殊検査を除く全画像検査・全臓器を扱い、種々の領域の放射線診断を幅広く行っています。また低侵襲的な治療として注目されているIVR（インターベンショナル・ラジオロジー）にも積極的に取り組み、肝臓癌に対する動脈塞栓術から大動脈瘤に対するステント留置術まで、各科との密接な協力のもと、広範囲の手技を手掛けています。そうすることでスタッフの一人ひとりがその専門分野をより深く最新の画像診断装置を有効に使えるだけでなく、従来からの検査も含めできるだけ広い視野をもち全身の疾患の画像診断を行うことが可能となっています。

診療領域・体制

当院が保有し当グループが直接かかわっている診断装置として、CT 2 台（256列及び64列検出器CT、心臓CT対応可能）、MRI 3 台（3T 2 台及び1.5T 1 台、超高速撮像・MRスペクトロスコピー可能）、血管造影装置 2 台（IVR-CT 1 台、バイプレーン装置 1 台）、カラードプラ超音波装置 2 台、乳房撮影装置・同生検装置、その他デジタル透視撮影装置、一般撮影装置及びSPECT装置 2 式などがあります。IVRは肝細胞癌を中心とした化学塞栓療法、血管塞栓術、血管拡張術、下大静脈フィルター、CTガイド下生検（肺ほか）、CT/USガイド下膿瘍ドレナージ、神経系IVR、大動脈瘤ステント術などを、他グループと密接な関係の下に主導的に、或いは共同で行っています。

対象疾患

全身の疾患の画像診断、血管系を中心としたIVR

先進医療等への取り組み

当科単独で行っている高度先進医療はありませんが、診断・IVRともに他グループの依頼のもと、カンファランスなどを頻繁に行いながら実施しており、他グループの高度先進医療に積極的に協力しています。

診療実績

■ 外来診療実績（セカンドオピニオンなど）

□ 患者数

項目	人数
患者数	143
初診患者数	87
紹介患者数	78
逆紹介患者数	0

氏名	職名	専門分野
南 学	教授	胸部、腹部、筋骨格系
増本 智彦	准教授	神経系、MR、IVR
森 健作	准教授	腹部、MR、IVR
那須 克弘	講師	MR、腹部、頭頸部、乳腺
岡本 嘉一	講師	腹部、骨軟部
齋田 司	講師	一般、婦人科、超音波
星合 壮大	診療講師	一般、胸部、腹部
原 唯史	寄付講座准教授	核医学、一般
石黒 聡尚	病院講師	一般、小児

□検査件数

検査名	件数
X線検査	91,872
マンモグラフィ	1,091
ポータブル撮影	18,887
手術室撮影	3,386
消化管造影	844
泌尿生殖器造影	962
そのほかの造影検査	1,220
手術室造影	386
CT	16,319
MRI	9,540
心臓以外の血管造影・IVR	882
核医学検査	2,422

□検査に関するコメント等

疾病・検査・手術実績

当グループが得意とし、県内の他院に比し相対的に経験が多く、優れている領域につき以下に記します。

肝・胆・膵（森准教授・那須講師ほか）：肝臓のCTで世界的に知られた故板井教授の薫陶に基づき、超音波、CT、MR、アンギオCTによる総合的診断を心掛けており、その診断レベルは高度と自負しています。

神経系（増本准教授ほか）：CT、MR、血管造影を駆使した神経系の画像診断を行っています。

早期肺癌（星合講師ほか）：肺早期腺癌と癌以外の疾患との鑑別には高度な読影診断力が不可欠であり、不必要な手術を避け、かつ手遅れとしないために、必要に応じCT透視下肺生検を行っています。

乳腺（那須講師、東野非常勤医師ほか）：マンモグラフィによる診断に加え、超音波検査、MR等を利用した精緻な診断、ステレオマンモグラフィガイド下の生検による微細石灰化病変の診断も積極的に行っています。

運動器・関節（岡本講師ほか）：スポーツ医学を含む画像診断を整形外科・体育学群と共に行っています。

婦人科領域（齋田講師ほか）：MRIを用いた精度の高い術前画像診断を行っています。

血管系（森准教授、齋田講師ほか）：CT/MRIによる低侵襲的な血管検査を行うと同時に、造影剤を用いない撮像法を積極的に研究しています。

核医学検査（原准教授ほか）：従来からの核医学検査と他の画像診断による情報を総括的に統合し、診断の精度を高めるとともに、PETセンターと協力して種々の取り組みを行っています。

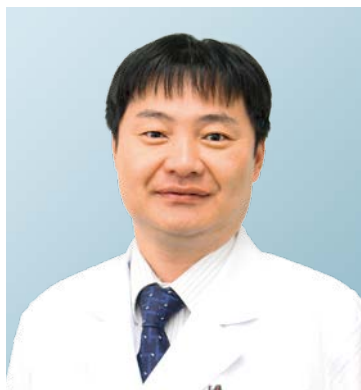
IVRの分野でも各診療科と協力のもと、種々の手技、特に

- 肝細胞癌の化学塞栓療法
- 出血に対する緊急止血
- 大動脈瘤ステント
- CT/USガイド下生検、膿瘍ドレナージ

などを行っています。またつくば市内の近隣病院からの招請に応じ、医師を派遣して同様の手技を行っています。



総合診療科



診療グループ長 教授

前野 哲博

診療グループの特徴

総合診療科は、何か特定の臓器を対象とするのではなく、患者さんが抱える健康問題について幅広く対応する診療科です。具体的には、頭痛や発熱などのよくある症状や、複数の健康問題を抱える患者さんに対する包括的なアプローチ等、多様な健康問題について総合診療の専門的な視点から診断およびマネジメントを行っています。また、緩和ケア、禁煙外来、漢方外来など、臓器別とは異なる角度からの診療も積極的に展開しています。当科では、心理的・社会的な問題にも焦点を当てながら、十分にお話を伺い、患者さんに納得していただけるまで説明することをモットーにしています。

診療領域・体制

外来診療では、どの科を受診すればいいのかわからない方、総合診療の幅広い視点からの診断・治療が必要な方などの診療について幅広く対応しています。診察したうえで専門医の診療が必要であることが明らかになった場合は、すぐに該当する専門診療科を

紹介しています。治療方針が決まり病状が安定した後は、紹介医または近くの医療機関へ紹介しています。なお、入院診療は行っていません。

予防医学の取り組みとしては、禁煙外来を開設し、禁煙を決意をした方を対象に、カウンセリングと禁煙補助薬の処方などで禁煙を支援しています。緩和ケアチーム及び緩和ケア外来では、がんを中心とした生命の危険がある疾患に直面した患者さんとその家族に対して、痛みをはじめとするつらい身体症状の緩和、精神的なつらさへの対処、意思決定支援、今後の療養についての調整を、医師と専門・認定看護師と協働して行っています。必要に応じて近隣の緩和ケア病棟への紹介や在宅ケアサービスの調整も行っています。毎週金曜日に漢方外来を開設し、東洋医学による治療を希望される方を対象とした外来診療を行っています。

対象疾患

総合外来：特定の臓器別診療科が明確でない症状（例えば原因のはっきりしない発熱、痛み、しびれ、だるさなど）、複数の症状、心理的・社会的な側面が影響

氏名	職名	専門分野
前野 哲博	教授	総合診療
小林 裕幸	教授（水戸地域医療教育センター）	総合診療
浜野 淳	病院教授（医療連携患者相談センター、緩和ケアセンター）	総合診療、緩和ケア
吉本 尚	准教授（寄付講座地域総合診療医学・北茨城）	総合診療
前野 貴美	講師（医学教育企画評価室）	総合診療
長岡 広香	講師（緩和ケアセンター）	緩和ケア
高屋敷明由美	講師（医学教育企画評価室）	総合診療
小曽根早知子	講師（寄付講座地域総合診療医学・利根）	総合診療
木下 賢輔	講師（水戸地域医療教育センター）	総合診療
春田 淳志	講師（医学教育企画評価室）	総合診療
舩本 祥一	講師（寄付講座地域総合診療医学・牛久）	総合診療
片岡 義裕	講師（寄付講座地域総合診療医学・常陸太田）	総合診療
荒牧まいえ	助教（寄付講座地域総合診療医学・大和）	総合診療
細井 崇弘	助教（神栖地域医療教育センター）	総合診療
稲葉 崇	助教（寄付講座地域総合診療医学・笠間）	総合診療
大澤 亮	助教（寄付講座地域総合診療医学・北茨城）	総合診療
久野 遥加	助教（寄付講座地域総合診療医学・笠間）	総合診療
加藤 士郎	臨床教授（野木病院）	東洋医学
玉野 雅裕	臨床教授（協和中央病院）	東洋医学

していると思われる症状。

緩和ケア外来：がんを中心とした生命の危険がある疾患の患者さんとその御家族に対する、症状緩和、意思決定支援、療養についての調整（当院通院中の方のみの予約外来）。

漢方外来：症状について漢方による治療を希望する方。

禁煙外来：禁煙の決心をし、医師によるサポートを受けたい方。健康保険が適用されますが、これまでの喫煙本数などによって、保険適用外（自費での診療）になる場合があります。

診療実績

■ 外来診療実績

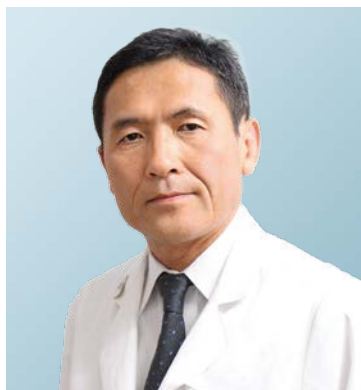
□ 患者数

項目	人数
患者数	4,186
初診患者数	200
紹介患者数	153
逆紹介患者数	122

□ 治療に関するコメント等

緩和ケアチーム：特に疾患の早期からつらい症状を緩和し、治療の目標を共有して、望んだ場所で快適な療養生活が送れるように支援しています。





診療グループ長 教授

野口 雅之

診療グループの特徴

病理診断科は病理部内で活動しています。細胞診や組織診を通じて疾患の形態学的な最終診断を受け持ち、院内の医療の質を高度に保つ役割を担っています。診療としては「病理説明外来」を行っています。患者さんに対して切除材料を用いた適切な説明を行い、御自身の病気について正確に必要な理解をしていただく手助けをしています。さらに病理部と併設されている「つくばヒト組織診断センター」では院外の病理標本の診断サービスを行い、病理医の不足している地域基幹病院における質の高い病理診断をサポートしています。一方で大学病院における病理解剖を行い、死因の解明、診断の確認とともに治療の効果の判定も行っています。また病理診断科は医療事故調査制度における茨城県の病理解剖を支援しています。

診療領域・体制

当院の病理診断科では、呼吸器、泌尿器、消化器、循環器、生殖器、内分泌臓器、脳神経、血液、頭頸部、皮膚、骨、軟部等、ほぼすべての臓器に発生する疾患を対象として病理組織診断・細胞診断を行っています。

原則として、患者さんに直接接して診療を行うことはありませんが、内視鏡検査や手術等により、患者さんより採取された組織検体および細胞診検体はすべて当科に集められ、組織標本ないし細胞診標本が作製されて、顕微鏡を用いた病理診断が行われます。標本作製の際には、通常のヘマトキシリン・エオジン染色や

パパニコロウ染色のほか、免疫染色、電子顕微鏡検査、遺伝子検査も行われます。これらにより、病変の形態学的診断のみならず、予後の推定や治療法の選択にも大きく貢献しています。

病理組織診断は、全検体とも、日本病理学会認定病理専門医を含む2名以上の病理医が担当します。また、細胞診断は、1名以上の日本臨床細胞学会認定細胞検査士と1名以上の同学会認定細胞診専門医が担当します。これらにより精度の高い病理診断を提供しています。

また、病理診断を診療に有効活用できるよう、臨床医と治療前又は後で症例検討会を行い、臨床各グループと密接な連携を図っています。

なお、当病理部には、つくばヒト組織診断センターが併設され、当院以外の茨城県内の中核病院から委託された病理診断も請け負っています。

当グループでは、臨床医からの依頼に応じて、死因の究明、臨床診断の確認、治療効果判定等を目的とした病理解剖も行っています。当院のみならず、茨城県内の当院以外の病院からの病理解剖も受託しています。病理解剖により得られた診断・所見は、報告書として臨床医に報告されるほか、検討会ないしCPCを開催して臨床医と共に症例検討が行われます。

先進医療等への取り組み

説明外来

患者さんの病理診断の内容を患者さん御自身に提供して正確な病状を知っていただくために、当グループ

氏名	職名	専門分野
野口 雅之	教授	病理診断全般
長田 道夫	教授	病理診断全般
坂下 信悟	准教授	病理診断全般
高屋敷典生	准教授（水戸地域医療教育センター）	病理診断全般
坂本 規彰	講師	脳腫瘍病理診断
佐藤 泰樹	助教	病理診断全般
柴 綾	助教	病理検査（遺伝子診断）
中野 雅之	病院講師	病理診断全般
松岡 亮太	病院助教	病理診断全般

では「病理説明外来」を行っています。「病理説明外来」では、患者さんから採取・切除された病理検体の肉眼所見・組織所見・最終診断について、担当病理医が写真等により患者さん御自身にわかりやすく説明します。これまで、「病理説明外来」を受診した患者さんからは、御自身の疾患の状況がよくわかり、主治医から説明された治療方針が受け入れやすくなった、との声を伺っています。

残念ながら「病理説明外来」は保険適用されていませんが、外来は不定期で患者さんの御都合に配慮して外来日時を決定します。外来には、平均30～40分程度の時間を要します。

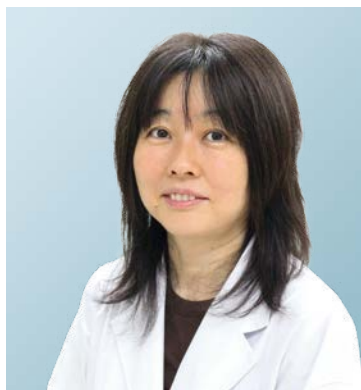
診療実績

■ 外来診療実績

□ 診断件数

診断名	件数
組織診断	10,159
術中迅速診断（組織診）	708
細胞診	10,651
術中迅速診断（細胞診）	126
解剖（院内）	43（産科 5 件含む）





診療グループ長 教授

野口恵美子

診療グループの特徴

ヒトゲノム解読をはじめとするヒトゲノム・遺伝子解析研究の著しい進歩により、病気の原因、診断、治療法の選択に活用できるゲノム・遺伝子情報が増えてきました。さらに病気になる前から遺伝子情報により病気に関係する体質を明らかにして各個人に適した生活環境を整え、予防薬を服用するなどする予防医学に利用することができるようになってきています。一方、遺伝子情報はその人だけでなく御家族に関する情報でもあり、取扱いには慎重を期す必要がある側面を持っており、遺伝情報の漏洩、遺伝的差別、検査の強要などが起こらないように、倫理的諸問題にも対応できる体制を作る必要があります。

筑波大学遺伝診療グループではこのような遺伝診療について配慮して診療をしています。

そのために、1. 十分な遺伝カウンセリングを行い、2. 適切な臨床診断と遺伝子検査、染色体検査を実施します。その際、3. 倫理的問題に十分配慮する、4. 遺伝子情報に基づいた適切な治療や予防について理解し、行動することに役立てる、ことを念頭に入れて2004年4月より診療をしています。2015年8月に遺伝診療部を開設しました。

診療領域・体制

近年遺伝学、ゲノム学の発展とともに、医療に遺伝子検査や染色体検査が広く利用されるようになっていきます。これらの検査は受ける御本人のみならず、その御家族、将来生まれる子供さんにも重大な意味を持つ可能性を含んでおり、十分かつ正確な情報の提供と御本人、御家族ともに正しい理解と合意のうえ、検査を受ける必要があります。そのために遺伝診療グループでは遺伝や遺伝病についての相談やカウンセリングを行い、必要に応じて遺伝子診断、染色体検査の説明を行い、これらの検査を実施します。遺伝診療グループの外来（遺伝外来）では臨床遺伝専門医師がカウンセリングを行うとともに、必要に応じて各専門領域の医師と連携を取りながら診療をすすめます。さらに、遺伝診療グループでは研究者とも協力して、病気の治療法に関する最新の研究動向についても情報提供できるようにしています。御本人や御家族の個人情報やプライバシーに関する事項は厳重に保管され外部に出ることはありません。

対象疾患

染色体異常、遺伝性乳がん卵巣がん症候群、先天性難聴、表皮水疱症、オスラー病、多発性内分泌腫瘍症（MEN1/MEN2）、家族性大腸ポリポーシス、Lynch症候群 他

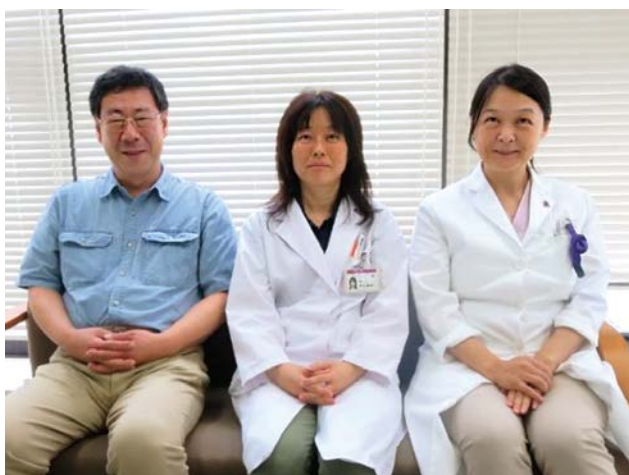
氏名	職名	専門分野
野口恵美子	教授	小児疾患、遺伝子検査
川上 康	教授	代謝疾患、遺伝子治療
竹越 一博	教授	代謝内分泌疾患
濱田 洋実	教授	出生前診断、胎児治療
佐藤 豊実	教授	産婦人科、腫瘍外科
坂東 裕子	准教授	乳腺外科、内分泌外科
齊藤 誠	准教授	新生児疾患
柳 久子	准教授	生活習慣病、循環器疾患
木戸口正典	登録医	耳鼻科疾患
有田 美和	認定遺伝カウンセラー	遺伝カウンセリング
小名 徹	看護師	遺伝カウンセリング
森井 航	技術補佐員	

診療実績

■ 外来診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	42



診療グループ長 教授

人見 重美

診療グループの特徴

感染症科は、2000年6月に活動を始めた、当院では比較的新しい診療科です。現在は外来を中心とした診療を行っています。他科の患者さんに対しても、必要があれば院内外からのコンサルテーションを通じ、全ての年齢層のあらゆる臓器の感染症に対し、診療上の助言を行っています。また、原因不明の発熱などの患者さんを適切な診療科に御紹介するのも、当科の大きな役割です。

診療領域・体制

一般感染症：市中・院内で生じた様々な感染症に対し、担当診療科、時に他病院とも協力しながら、診療の援助を行っています。また、原因不明の発熱患者や、特殊な病原体が見つかった場合の治療・感染対策などにも、指導・助言を行っています。

HIV感染症：当院はエイズ治療拠点病院であり、外来でHIV感染患者の診療を積極的に行っています。治療薬の進歩により、現在多くのHIV感染患者が、外来通院だけで治療可能となりましたが、入院が必要な場合には、症状のある部位に応じた診療科と連携をとりあいながら対応しています。また、HIV感染症の治療法は日進月歩であるため、必要に応じ近隣の基幹病院と連絡をとりながら、最新の治療を行えるよう心がけています。

輸入感染症：最近、留学生や海外渡航者の下痢・発熱に関する相談が増えています。治療薬が一般に入手できないこともあるので、このような薬剤の入手方法についてもアドバイスしています。

院内感染対策：MRSAなど院内感染対策上問題になる病原体が検出された場合には、担当医師や看護師と相談し、患者さんに対する適切な隔離・予防対応がと

れるよう助言を行っています。また院内の環境調査や、分離菌の遺伝子パターンの解析などの疫学調査も行っている他、分離した病原微生物の薬剤感受性を集計し、院内・近隣で起こる感染症にどのような薬剤が有効かを調べ、その情報を臨床現場に発信し診療に役立ててもらっています。さらに、人工呼吸器や各種カテーテルの装着、抗がん剤療法、大きな手術など、院内感染を起こしやすい手技・治療法について、予防策の提言や指導も行っています。

対象疾患

感染症一般、HIV感染症、輸入感染症（マラリア、デング熱、旅行者下痢症など）、ワクチン接種（輸入ワクチンは扱っていません）

先進医療等への取り組み

茨城県南地区における感染症サーベイランスを、2001年より実施しています。

診療実績

■ 外来診療実績

□ 患者数

項目	人数
患者数	999 新規HIV感染症患者数：13名／年
初診患者数	81
紹介患者数	37
逆紹介患者数	17

氏名	職名	専門分野
人見 重美	教授	感染症一般、HIV感染症、院内感染対策
寺田 教彦	チーフレジデント	感染症一般、HIV感染症、総合内科
亀山 明子	チーフレジデント	感染症一般、HIV感染症、救急診療

■入院診療実績

□患者数

項目	人数
患者数	179
新入院患者数	14
平均在院日数	11.9日





診療グループ長 教授

関根 郁夫

診療グループの特徴

悪性腫瘍は1981年以降日本における死因の第一位で、年間36万人を超える患者さんががんのために命を失っています。従来、がんに対しては各臓器別に外科手術を中心とした治療が行われてきましたが、がん薬物療法が進歩し、様々ながん腫で分子標的治療薬が使われるようになりました。それに対応するために、多くの病院で臓器横断的にがん薬物療法を行う腫瘍内科が設置されるようになりました。筑波大学附属病院腫瘍内科は、2015年4月に新しく設置されました。現在は各診療科からのコンサルテーションに対応しながら外来化学療法（点滴・内服薬）を中心とした診療を行っています。茨城県は特にがん薬物療法を専門にしている医師が少ない状況です。医学生や若い医師の教育にも力を入れていきたいと考えています。

診療領域・体制

臓器別診療科と協力しながら、固形がん患者を対象に診断と外来化学療法を主軸においた内科診療を行っています。がんを疑っているけれども診断がつかない患者さん、がんという診断はついたけれども原発巣が分からない患者さん、肉腫などの特殊な悪性腫瘍を持った患者さん、どこか診療科へ紹介すべきか迷う患者さん、その他がんのことでお困りの患者さん、がん以外の合併症をお持ちで診療が困難な患者さんも受け入れ、他の診療科と一緒に診療にあたっています。また、標準治療が見つからないけれども体力は十分にあって、何か治療を受けたいという患者さんの場合も相談を受けています。一般的には緩和療法の適応で力にならない場合が多いですが、臨床試験を行っているがん専門病院をご紹介できる場合もあります。

対象疾患

固形がん一般

先進医療等への取り組み

耳鼻咽喉科と共同で頭頸部癌に対する免疫チェックポイント阻害剤の臨床試験を行いました。呼吸器内科と共同で北東日本がん研究グループに所属し、肺癌に対する臨床試験に参加することになりました。また、循環器内科と共同で抗がん剤による心障害のコホート研究を開始しました。その他、筑波大学附属病院におけるがん診療の向上を目指して他の診療科と共に研究をしています。

診療実績

外来診療実績

患者数

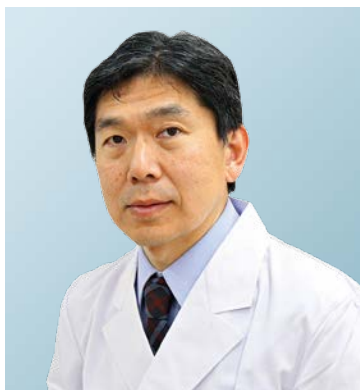
項目	人数
患者数	745
初診患者数	40
紹介患者数	34
逆紹介患者数	17

治療件数

治療名	件数
外来化学療法	37

氏名	職名	専門分野
関根 郁夫	教授	臨床腫瘍、呼吸器がん
鈴木 英雄	准教授	臨床腫瘍、消化器がん
福島 紘子	講師	小児血液腫瘍
山本 祥之	病院講師	臨床腫瘍、消化器がん





診療グループ長 救急・集中治療部 病院教授

河野 了

診療グループの特徴

この20年程の内科学の進歩は、臓器別のスペシャリストの養成に重きを置き、そのためにひとつひとつの病態の診断と治療は伸長を遂げ、多くの疾患の克服とそれによる平均寿命の延長を得ることができました。しかしながら、そのことが逆に、疾患や社会的な問題を多数有する患者さんを増加させているとも言われるようになり、近年では、各臓器のスペシャリストではなく幅広い領域の知識と経験で患者さんを一人の人間として診ていくことのできる診療部門の重要性が再認識されています。当院の内科はこれまで臓器別に各専門領域を診療する診療グループ（循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、腎臓内科、血液内科、内分泌代謝・糖尿病内科、神経内科、膠原病リウマチアレルギー内科、腫瘍内科、感染症科）により構成されていましたが、様々な疾患の初期治療・内科救急の対応、さらには複雑な病態の患者さんを総合的に診療・マネジメントすることを目的として2017年に病院総合内科が設立されました。既存の総合診療科がいわゆるGP（General Practitioner）でクリニックや在宅診療を主体とする家庭医や地域医療を担うプライマリケア医を目指しているのに対して、病院総合内科は入院患者を対象とした内科的総合診療と病棟運営を中心とするHospitalistを目指しています。クリニックや近隣医療機関からの紹介患者および本院の他科外来からの入院患者を、救急集中治療部と協力して初期診療を行い、急性期には各専門内科だけでなく外科系あるいはその他の専門診療グループと連携し集約的診療を行い、病状の安定化後には地域連携病院や紹介元クリニックに逆紹介を行います。アメリカではこのようなHospitalistが機能することにより患者満足度の向上、患者さんの平均在院日数の減少などが得られることが報告されています。

茨城県内の医師不足が慢性化している地域では、内科医が自分の専門領域を超えて総合医の役割を果たしている病院が多く、臓器別専門医として専門領域の診療のみを行っている内科医は少ないのが現状です。病院総合内科では、問診から始まる臨床推論、効率的な検査の選択、エビデンスに基づいた診断と治療、円滑な地域連携など入院から退院までのマネージメントを、教育機関という利点を生かして多彩な指導医のもとで学び、幅広い知識と技術をもち、患者さんの抱える多様な背景に配慮し、様々な医療現場で活躍できる研修医・専攻医の育成にも貢献します。

診療領域・体制・対象疾患

内科全般が対象となりますが、疾患の種類や重症度によっては各専門診療グループと連携して専門的な治療を行います。外科手術を要するあるいは術後の患者さんに対し内科的アプローチで全身管理を始めとした診療を行うこともあります。特に救急・集中治療部とは密接に連携して、意識、認知機能、呼吸・循環、腎、電解質、血液・凝固、消化器、内分泌・栄養、感染、鎮痛・鎮静、リハビリテーションなどを重症病棟から一般病棟、退院・転院までトータルマネージメントを担当します。

氏名	職名	専門分野
河野 了	病院教授	内科学、循環器内科学、集中治療医学
小川 良子	講師	内科学、呼吸器内科学



看護ケア・教育外来

名称	内容	開催日等	お問い合わせ先
母乳外来	助産師による母乳栄養等のご相談	月・火・水・金 1回2,800円	029-853-3878 (産科外来)
助産師外来	助産師による出産・育児指導	月・火・木・金	029-853-3878 (産科外来)
マタニティー ファミリークラス	助産師による妊娠・出産・育児の ご相談	土（不定期） 2,100円（3回分）	029-853-3878 (産科外来)
胎児外来	胎児異常が認められた妊婦さんや ご家族に対し、産科、小児科、助 産師、小児看護専門看護師等が連 携しながら相談・支援する	木午後	029-853-3878 (産科外来)
ストーマ外来	皮膚・排泄ケア認定看護師による ストーマの管理に関するご相談と 指導	金	029-853-3597 (消化器外科外来)
糖尿病外来	糖尿病療養指導士、認定看護師に よる糖尿病に関するご相談と指導	月～金	029-853-3591 (内分泌代謝・糖尿病内科外来)
腹膜透析外来	専任看護師による維持腹膜透析に 関する療養相談	木午後	029-853-3613 (腎臓内科外来)
腎代替療法相談外来	慢性腎不全患者に対する腎不全治 療の情報の提供、療養相談	随時	029-853-3613 (腎臓内科外来)
糖尿病透析予防 指導外来	糖尿病患者に対し、代謝内科医 師、糖尿病療養指導士、看護師、 管理栄養士等による糖尿病性腎症 に関するご相談と指導	随時	029-853-3591 (内分泌代謝・糖尿病内科外来)
フットケア外来	糖尿病合併症予防として、フット ケアを通じた療養生活指導	月・水	029-853-3591 (内分泌代謝・糖尿病内科外来)
外来化学療法相談外来	専門、認定看護師による化学療法 に関するご相談	随時	029-853-3600 (化学療法室)
緩和ケア外来	緩和ケアに関するご相談	月～金	029-853-3915 (総合診療科外来)
リンパ浮腫外来	リンパ浮腫の予防・ケアに関する ご相談	火・金	029-853-3915 (総合診療科外来)
がん看護外来	専門・認定看護師によるがん治療 やケアに関するご相談	随時	029-853-7970 (がん相談支援センター)

University of
Tsukuba
Hospital
Guide 2018



データ集

診療科・診療グループ Clinical Services and Departments

標榜診療科 Clinical Services Departments	診療科対応グループ
内科 Internal Medicine	総合 General Medicine and Primary Care 遺伝 Clinical and Molecular Genetics 保健衛生外来 Preventive Medicine 睡眠呼吸障害 Sleep Disordered Breathing 病院総合内科 General Internal Medicine
リウマチ科 Rheumatology	膠原病リウマチアレルギー内科 Rheumatology
アレルギー科 Allergy	
腎臓内科 Nephrology	
泌尿器科 Urology	腎泌尿器外科 Urology
血液内科 Hematology	血液 Hematology
感染症内科 Infectious Diseases	細菌学的診断〈感染症〉 Infectious Diseases
呼吸器内科 Pulmonology	呼吸器内科 Pulmonology
呼吸器外科 General Thoracic Surgery	呼吸器外科 Thoracic Surgery
消化器内科 Gastroenterology	消化器内科 Gastroenterology
消化器外科 臓器移植外科 Department of Surgery, Division of Gastroenterological and Hepatobiliary Surgery, and Organ Transplantation	消化器外科 Gastroenterological Surgery
内分泌・代謝・糖尿病内科 Metabolism and Endocrinology	内分泌代謝・糖尿病内科 Endocrinology and Metabolism
乳腺・内分泌外科 Breast and Endocrine Surgery	乳腺・甲状腺・内分泌外科 Endocrinal Surgery and Breast Surgery
循環器内科 Cardiology	循環器内科 Cardiology
心臓血管外科 Cardiovascular Surgery	循環器外科 Cardiovascular Surgery
腫瘍内科 Medical Oncology	腫瘍内科 Medical Oncology
神経内科 Neurology	脳神経内科 Neurology
脳・神経外科 Neurosurgery	脳神経外科 Neurosurgery
精神科 Psychiatry	精神神経 Psychiatry
小児科 Pediatrics	小児内科 Pediatrics
小児外科 Pediatric Surgery	小児外科 Pediatric Surgery
産科 婦人科 Obstetrics and Gynecology	婦人・周産期 Obstetrics and Gynecology
救急科 Department of Emergency and Critical Care Medicine	救急・集中治療 Department of Emergency and Critical Care Medicine
麻酔科 Anesthesiology	麻酔 Anesthesiology
形成外科 Plastic and Reconstructive Surgery	形成 Plastic and Reconstructive Surgery
整形外科 リハビリテーション科 Orthopedics and Rehabilitation	整形 Orthopedics and Rehabilitation
皮膚科 Dermatology	皮膚 Dermatology
眼科 Ophthalmology	眼 Ophthalmology
耳鼻いんこう科 頭頸部外科 Otolaryngology-Head & Neck Surgery	耳鼻咽喉 Otorhinolaryngology

標榜診療科 Clinical Services Departments	診療科対応グループ
放射線治療科 Radiation Oncology	放射線腫瘍科 Radiation Oncology
放射線診断科 Diagnostic and Interventional Radiology	放射線診断・IVR Diagnostic and Interventional Radiology
病理診断科 Diagnostic Pathology	病理診断 Diagnostic Pathology
歯科口腔外科 Oral and Maxillofacial Surgery	歯・口腔 Oral and Maxillofacial Surgery

診療科対応グループ
臨床病理 Clinical Pathology

職員数 Number of Staff

平成30年 4月 1日現在 As of April 1, 2018

職 種 Category	人 数 Number
教員 Teaching Staff	318
レジデント Residents and Fellows	296
病院講師 Clinical Lecturer	55
病院助教 Clinical Assistant Professor	22
看護師 Nurses	832
助産師 Midwives	48
薬剤師 Pharmacists	51
診療放射線技師 Radiology Technicians	49
臨床検査技師 Laboratory Technicians	55
臨床工学技士 Clinical Engineers	26
理学療法士 Physical Therapists	33
作業療法士 Occupational Therapists	13
言語聴覚士 Speech-Language-Hearing Therapist	5
歯科技工士 Dental Technicians	1
歯科衛生士 Dental Hygienists	3
視能訓練士 Orthoptists	3
内視鏡技師 Endoscope technicians	1
栄養士 Dieticians	10
調理師 Cooks	9
臨床心理士 Clinical Psychotherapists	3
精神保健福祉士 Psychiatric Social Worker	1
社会福祉士 Medical Social Workers	9
診療情報管理士 Health Information Manager	5
医療技術補助員 Medical Technicians	17
看護助手 Assistant Nurses	3
技術職員 Technical Staff	19
保育士 Childcare Workers	3
事務職員 Administrative Staff	119
合計 Total	2,009

※常勤職員数（レジデントを除く）
*The number of full-time staff (Excluding residents)

役職員

Chief/Director of Clinical Services and Departments

平成30年 4月1日現在 As of April 1, 2018

病院長 Director	副学長・理事 Vice President・Executive Director	原 晃 Akira Hara
副病院長（総務、医療安全、災害、危機管理） Deputy Director	教授 Professor	山縣 邦弘 Kunihiro Yamagata
副病院長（診療、国際） Deputy Director	教授 Professor	平松 祐司 Yuji Hiramatsu
副病院長（研究） Deputy Director	教授 Professor	西山 博之 Hiroyuki Nishiyama
副病院長（教育） Deputy Director	教授 Professor	前野 哲博 Tetsuhiro Maeno
副病院長（看護、患者サービス） Deputy Director	看護部長 Nursing Director	小泉 仁子 Hitomi Koizumi
副病院長（特定（企画、PFI、再開発、施設）） Deputy Director	教授 Professor	川上 康 Yasushi Kawakami
副病院長（特定（評価）） Deputy Director	教授 Professor	玉岡 晃 Akira Tamaoka
副病院長（特定（財務）） Deputy Director	病院総務部長 Director Department of University Hospital Management	三沼 仁 Hitoshi Minuma
病院長補佐（医療情報、経営戦略） Advisor to the Director	教授 Professor	大原 信 Makoto Ohara
病院長補佐（T-CReDO） Advisor to the Director	教授 Professor	荒川 義弘 Yoshihiro Arakawa

診療科長 Department Chair		
内科長 Internal Medicine	欠員 Vacancy	
神経内科長 Neurology	教授 Professor	玉岡 晃 Akira Tamaoka
精神科神経科長 Psychiatry	教授 Professor	新井 哲明 Tetsuaki Arai
小児科長 Pediatrics and Pediatric Surgery	欠員 Vacancy	
外科長 Surgery	教授 Professor	平松 祐司 Yuji Hiramatsu
脳神経外科長 Neurosurgery	病院教授 Clinical Professor	石川 栄一 Eiichi Ishikawa
整形外科長 Orthopedics	教授 Professor	山崎 正志 Masashi Yamazaki
皮膚科長 Dermatology	教授 Professor	藤本 学 Manabu Fujimoto
泌尿器科長 Urology	教授 Professor	西山 博之 Hiroyuki Nishiyama
眼科長 Ophthalmology	教授 Professor	大鹿 哲郎 Tetsuro Oshika
耳鼻咽喉科長 Otorhinolaryngology	准教授 Associate Professor	和田 哲郎 Tetsuro Wada
産科婦人科長 Obstetrics and Gynecology	教授 Professor	佐藤 豊実 Toyomi Sato
放射線科長 Radiology	教授 Professor	南 学 Manabu Minami
麻酔科長 Anesthesiology	教授 Professor	田中 誠 Makoto Tanaka
歯科口腔外科長 Oral and Maxillofacial Surgery	教授 Professor	武川 寛樹 Hiroki Bukawa

診療グループ長 Section Chief		
循環器内科 Cardiology	教授 Professor	家田 真樹 Masaki Ieda
循環器外科 Cardiovascular Surgery	教授 Professor	平松 祐司 Yuji Hiramatsu
消化器内科 Gastroenterology	病院教授 Clinical Professor	溝上 裕士 Yuji Mizokami
消化器外科 Gastroenterological Surgery	教授 Professor	小田 竜也 Tatsuya Oda
呼吸器内科 Pulmonology	教授 Professor	檜澤 伸之 Nobuyuki Hizawa
呼吸器外科 Thoracic Surgery	教授 Professor	佐藤 幸夫 Yukio Sato
腎泌尿器内科 Nephrology	教授 Professor	山縣 邦弘 Kunihiro Yamagata
腎泌尿器外科 Urology	教授 Professor	西山 博之 Hiroyuki Nishiyama
内分泌代謝・糖尿病内科 Endocrinology and Metabolism	教授 Professor	島野 仁 Hitoshi Shimano
乳腺・甲状腺・内分泌外科 Endocrinal Surgery and Breast Surgery	教授 Professor	原 尚人 Hisato Hara
膠原病リウマチアレルギー内科 Rheumatology	教授 Professor	住田 孝之 Takayuki Sumida
血液 Hematology	教授 Professor	千葉 滋 Shigeru Chiba
精神神経 Psychiatry	教授 Professor	新井 哲明 Tetsuaki Arai
皮膚 Dermatology	教授 Professor	藤本 学 Manabu Fujimoto
小児内科 Pediatrics	教授 Professor	高田 英俊 Hidetoshi Takada
小児外科 Pediatric Surgery	教授 Professor	増本 幸二 Kouji Masumoto
形成 Plastic and Reconstructive Surgery	教授 Professor	関堂 充 Mitsuru Sekido

診療グループ長 Section Chief		
脳神経内科 Neurology	教授 Professor	玉岡 晃 Akira Tamaoka
脳神経外科 Neurosurgery	病院教授 Clinical Professor	石川 栄一 Eiichi Ishikawa
脳卒中 Stroke Treatment	教授 Professor	松丸 祐司 Yuji Matsumaru
整形外科 Orthopedics	教授 Professor	山崎 正志 Masashi Yamazaki
眼 Ophthalmology	教授 Professor	大鹿 哲郎 Tetsuro Oshika
婦人・周産期 Obstetrics and Gynecology	教授 Professor	佐藤 豊実 Toyomi Sato
耳鼻咽喉 Otorhinolaryngology	准教授 Associate Professor	和田 哲郎 Tetsuro Wada
麻酔 Anesthesiology	教授 Professor	田中 誠 Makoto Tanaka
歯・口腔 Oral and Maxillofacial Surgery	教授 Professor	武川 寛樹 Hiroki Bukawa
保健衛生外来 Preventive Medicine	教授 Professor	松崎 一葉 Ichiyo Matsuzaki
救急・集中治療 Department of Emergency and Critical Care Medicine	教授 Professor	井上 貴昭 Yoshiaki Inoue
放射線腫瘍科 Radiation Oncology	教授 Professor	櫻井 英幸 Hideyuki Sakurai
放射線診断・IVR Diagnostic and Interventional Radiology	教授 Professor	南 学 Manabu Minami
細菌学の診断〈感染症〉 Infectious Diseases	教授 Professor	人見 重美 Shigemi Hitomi
総合 General Medicine and Primary Care	教授 Professor	前野 哲博 Tetsuhiro Maeno
病理診断 Diagnostic Pathology	教授 Professor	野口 雅之 Masayuki Noguchi
臨床病理 Clinical Pathology	教授 Professor	川上 康 Yasushi Kawakami
遺伝 Clinical and Molecular Genetics	教授 Professor	野口 恵美子 Emiko Noguchi
睡眠呼吸障害 Sleep Disordered Breathing	教授 Professor	檜澤 伸之 Nobuyuki Hizawa
腫瘍内科 Medical Oncology	教授 Professor	関根 郁夫 Ikuo Sekine
病院総合内科 General Internal Medicine	病院教授 Clinical Professor	河野 了 Satoru Kawano

診療施設等 Clinical Facilities		
検査部・部長 Clinical Laboratory	教授 Professor	川上 康 Yasushi Kawakami
手術部・部長 Operating Room	教授 Professor	原 尚人 Hisato Hara
放射線部・部長 Radiology Suite	教授 Professor	南 学 Manabu Minami
救急・集中治療部長 Department of Emergency and Critical Care Medicine	教授 Professor	井上 貴昭 Yoshiaki Inoue
輸血部・部長 Blood Transfusion Service	病院教授 Clinical Professor	長谷川 雄一 Yuichi Hasegawa
光学医療診療部・部長 Endoscopy	病院教授 Clinical Professor	溝上 裕士 Yuji Mizokami
医療情報経営戦略部・部長 Department of Medical Informatics, Strategic Planning, and Management	教授 Professor	大原 信 Makoto Ohara
病理部・部長 Pathology	教授 Professor	野口 雅之 Masayuki Noguchi
リハビリテーション部・部長 Rehabilitation	准教授 Associate Professor	羽田 康司 Yasushi Hada
血液浄化療法部・部長 Blood Purification	教授 Professor	山縣 邦弘 Kunihiro Yamagata
臨床医療管理部・部長 Quality Assurance and Risk Management	教授 Professor	本間 寛 Satoshi Homma
ISO・医療業務支援部・部長 Kaizen & Excellence in Hospital Operations	教授 Professor	玉岡 晃 Akira Tamaoka
病態栄養部・部長 Department of Clinical Nutrition	病院教授 Clinical Professor	鈴木 浩明 Hiroaki Suzuki
感染管理部・部長 Department of Infection Control	教授 Professor	人見 重美 Shigemi Hitomi
臨床心理部・部長 Clinical Psychology Department	教授 Professor	新井 哲明 Tetsuaki Arai
遺伝診療部・部長 Department of Clinical Genetics	教授 Professor	野口 恵美子 Emiko Noguchi
医療連携患者相談センター・部長 Medical Liaison and Patient Support Services Center	病院教授 Clinical Professor	濱野 淳 Jun Hamano
物流センター・部長 SPD Center (Supply Processing and Distribution Center)	教授 Professor	川上 康 Yasushi Kawakami
総合周産期母子医療センター・部長 Center for Maternal, Fetal and Neonatal Health	教授 Professor	佐藤 豊実 Toyomi Sato
総合臨床教育センター・部長 Center for Medical Education and Training	病院教授 Clinical Professor	瀬尾 恵美子 Emiko Seo
緩和ケアセンター・部長 Palliative Care Center	教授 Professor	関根 郁夫 Ikuo Sekine
つくばヒト組織診断センター・部長 Tsukuba Human-Tissue Diagnosis Center	教授 Professor	野口 雅之 Masayuki Noguchi
陽子線治療センター・部長 Proton Beam Therapy Center	教授 Professor	櫻井 英幸 Hideyuki Sakurai
総合がん診療センター・部長 Comprehensive Cancer Center	教授 Professor	関根 郁夫 Ikuo Sekine

診療施設等 Clinical Facilities		
医療機器管理センター・部長 ME Center	病院教授 Clinical Professor	山本 純偉 Sumii Yamamoto
水戸地域医療教育センター・部長 Mito Medical Center	教授 Professor	渡邊 重行 Shigeyuki Watanabe
茨城県地域臨床教育センター・部長 Ibaraki Clinical Education and Training Center	教授 Professor	島居 徹 Toru Shimazui
ひたちなか社会連携教育研究センター・部長 Hitachinaka Medical Education and Research Center	欠員 Vacancy	
日立社会連携教育研究センター・部長 Hitachi Medical Education and Research Center	教授 Professor	小松 洋治 Yoji Komatsu
小児総合医療センター・部長 Children's Medical Center	教授 Professor	増本 幸二 Kouji Masumoto
小児集中治療センター・部長 Pediatric Critical Care Unit	教授 Professor	増本 幸二 Kouji Masumoto
認知症疾患医療センター・部長 Medical Center for Dementing Illnesses	教授 Professor	新井 哲明 Tetsuaki Arai
病床管理センター・部長 Clinical Bed Management Center	教授 Professor	平松 祐司 Yuji Hiramatsu
つくば市パースセンター・部長 Tsukuba-city Birth Center	教授 Professor	濱田 洋美 Hiromi Hamada
つくばヒト組織バイオバンクセンター・部長 Tsukuba Human Tissue Biobank Center	教授 Professor	西山 博之 Hiroyuki Nishiyama
土浦市地域臨床教育センター・部長 Tsuchiura Clinical Education and Training Center	教授 Professor	福田 妙子 Taeko Fukuda
神栖地域医療教育センター・部長 Kamisu Clinical Education and Training Center	教授 Professor	家城 隆次 Ryuji Ieki
取手地域臨床教育ステーション・部長 Toride Community Medical Education Station	教授 Professor	福田 潔 Kiyoshi Fukuda
茨城県災害・地域精神医学研究センター・部長 Ibaraki Prefectural Center of Disaster Psychiatry	教授 Professor	高橋 祥友 Yoshitomo Takahashi
茨城県小児地域医療教育ステーション・部長 Ibaraki Pediatric Education and Training Station	教授 Professor	堀米 仁志 Hitoshi Horigome
国際医療センター・部長 International Medical Center	病院教授 Clinical Professor	秋山 稔 Minoru Akiyama
歯科技工室・室長 Dental Laboratory	教授 Professor	武川 寛樹 Hiroki Bukawa
外来化学療法室 Outpatient Chemotherapy	教授 Professor	関根 郁夫 Ikuo Sekine
つくば予防医学研究センター・部長 Tsukuba Preventive Medical Research Center	教授 Professor	西山 博之 Hiroyuki Nishiyama
高次救急センター・部長 Advanced Emergency Center	教授 Professor	井上 貴昭 Yoshiaki Inoue
難病医療センター・部長 Medical Center for Intractable Diseases	教授 Professor	玉岡 晃 Akira Tamaoka
つくばスポーツ医学・健康科学センター・部長 Tsukuba Sports Medicine & Health Science Center	教授 Professor	山崎 正志 Masashi Yamazaki
合同茨城県西部地域臨床教育センター・部長 Western Ibaraki Prefectural Joint Center for Clinical Education and Training	欠員 (10月稼働予定) Vacancy (in operation from October)	
その他の施設 Other Facilities		
放射線治療品質管理室・室長 Radiotherapy Quality Management Office	教授 Professor	榮 武二 Takeji Sakae
国際戦略総合特区推進室・室長 Comprehensive Special Zones for International Competitiveness Development Promotion Office	教授 Professor	西山 博之 Hiroyuki Nishiyama
ボランティア室・室長 Office for Volunteer Services	看護部長 Nursing Director	小泉 仁子 Hitomi Koizumi
総合災害・救急マネジメント室・室長 Comprehensive Disaster and Emergency Management Office	教授 Professor	山縣 邦弘 Kunihiro Yamagata
薬剤部・部長 Pharmacy Department	教授 Professor	本間 真人 Masato Homma
看護部・部長 Nursing Department		小泉 仁子 Hitomi Koizumi
病院総務部・部長 Director Department of University Hospital Management		三沼 仁 Hitoshi Minuma
総務課長 Head Division of Administrative Affairs		岡野 勉 Tsutomu Okano
経営戦略課長 Head Division of Strategic Management		鈴木 将貴 Masaki Suzuki
企画運営課長 Head Division of Planning and Hospital Management		三沼 仁 Hitoshi Minuma
PPP事業推進担当課長 Head for PPP Promotion		井上 剛一 Kouichi Inoue
患者サービス課長 Head Division of Patient Services		澤辺 康利 Yasutoshi Sawabe
品質・安全管理課長 Head Division of Quality and Safety Management		山口 剛 Takeshi Yamaguchi
教育研究施設 Education research institutes		
陽子線医学利用研究センター・センター長 Proton Medical Research Center	教授 Professor	榮 武二 Takeji Sakae
陽子線医学利用研究センター先端粒子線研究戦略部門長 Division for Strategic Research in Advanced Particle Therapy	教授 Professor	櫻井 英幸 Hideyuki Sakurai
陽子線医学利用研究センター中性子捕捉療法研究開発部門長 Laboratory for Neutron Medical Research	教授 Professor	松村 明 Akira Matsumura
共同利用・共同研究組織		
つくば臨床医学研究開発機構・機構長 Tsukuba Clinical Research & Development Organization	教授 Professor	荒川 義弘 Yoshihiro Arakawa

医療機関の指定承認状況

施設基準届出一覧

届出施設基準名	算定開始年月日
基本診療料	
地域歯科診療支援病院歯科初診料	平成22年 4月 1日
歯科診療特別対応連携加算	平成22年 4月 1日
特定機能病院入院基本料	平成28年10月 1日
超急性期脳卒中加入算	平成20年 4月 1日
診療録管理体制加算 1	平成26年 7月 1日
医師事務作業補助体制加算 1 (30対 1)	平成28年10月 1日
急性期看護補助体制加算 (50対 1)	平成27年 8月 1日
看護職員夜間配置加算 (12対 1 配置加算 2)	平成29年 4月 1日
療養環境加算	平成21年 7月 1日
重症者等療養環境特別加算	平成19年 7月 1日
無菌治療室管理加算 1	平成24年 4月 1日
無菌治療室管理加算 2	平成24年 4月 1日
緩和ケア診療加算	平成20年 4月 1日
精神科身体合併症管理加算	平成20年 4月 1日
精神科リエゾンチーム加算	平成28年 4月 1日
摂食障害入院医療管理加算	平成26年 9月 1日
医療安全対策加算 1	平成20年 4月 1日
感染防止対策加算 1	平成24年 4月 1日
患者サポート体制充実加算	平成24年 6月 1日
ハイリスク妊娠管理加算	平成21年 4月 1日
ハイリスク分娩管理加算	平成21年 4月 1日
総合評価加算	平成23年11月 1日
呼吸ケアチーム加算	平成23年 5月 1日
病棟薬剤業務実施加算 1	平成24年 6月 1日
病棟薬剤業務実施加算 2	平成28年 4月 1日
データ提出加算	平成24年10月 1日
入退院支援加算	平成24年 6月 1日
精神疾患診療体制加算	平成28年11月 1日
精神科急性期医師配置加算	平成28年 4月 1日
特定集中治療室管理料 4	平成28年 4月 1日
ハイケアユニット入院医療管理料 1	平成26年 4月 1日
総合周産期特定集中治療室管理料	平成26年10月 1日
新生児治療回復室入院医療管理料	平成22年 4月 1日
小児入院医療管理料 1	平成29年 6月 1日
短期滞在手術等基本料 1	平成14年10月 1日
特掲診療料	
高度難聴指導管理料	平成 9年 1月 1日
糖尿病合併症管理料	平成20年12月 1日
がん性疼痛緩和指導管理料	平成22年 4月 1日
がん患者指導管理料イ	平成22年 4月 1日
がん患者指導管理料ロ	平成26年10月 1日
がん患者指導管理料ハ	平成27年 3月 1日
外来緩和ケア管理料	平成24年 9月 1日
移植後患者指導管理料 (臓器移植後)	平成30年 1月 1日
移植後患者指導管理料 (造血幹細胞移植後)	平成24年 7月 1日
糖尿病透析予防指導管理料	平成24年 6月 1日
乳腺炎重症化予防・ケア指導料	平成30年 4月 1日
院内トリアージ実施料	平成27年 5月 1日
外来放射線照射診療料	平成24年 4月 1日
ニコチン依存症管理料	平成21年 3月 1日
がん治療連携計画策定料	平成23年11月 1日
肝炎インターフェロン治療計画料	平成22年 4月 1日
ハイリスク妊産婦連携指導料 1	平成30年 4月 1日
ハイリスク妊産婦連携指導料 2	平成30年 4月 1日
薬剤管理指導料	平成22年 4月 1日
検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	平成28年11月 1日
医療機器安全管理料 1	平成20年 4月 1日
医療機器安全管理料 2	平成23年 8月 1日
医療機器安全管理料 (歯科)	平成23年12月 1日
歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	平成22年 4月 1日
在宅植込型補助人工心臓 (非拍動流型) 指導管理料	平成29年 9月 1日
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	平成30年 4月 1日

届出施設基準名	算定開始年月日
在宅経肛門の自己洗腸指導管理料	平成30年 4月 1日
持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	平成26年 4月 1日
遺伝学的検査	平成28年11月 1日
骨髓微小残存病変量測定	平成30年 4月 1日
HPV 核酸検出及びHPV 核酸検出 (簡易ジェノタイプ判定)	平成26年 4月 1日
検体検査管理加算Ⅳ	平成24年12月 1日
国際標準検査管理加算	平成29年 2月 1日
遺伝カウンセリング加算	平成20年 4月 1日
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	平成20年 4月 1日
胎児心エコー法	平成22年 4月 1日
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	平成24年 6月 1日
ヘッドアップティルト試験	平成24年 7月 1日
皮下連続式グルコース測定	平成22年 4月 1日
長期継続頭蓋内脳波検査	平成20年 5月 1日
神経学的検査	平成20年 4月 1日
補聴器適合検査	平成19年 4月 1日
コンタクトレンズ検査料 1	平成20年 4月 1日
小児食物アレルギー負荷検査	平成18年 4月 1日
内服・点滴誘発試験	平成22年 4月 1日
CT透視下気管支鏡検査加算	平成29年 7月 1日
画像診断管理加算 2	平成20年 4月 1日
遠隔画像診断	平成29年 4月 1日
CT撮影及びMRI撮影	平成26年 4月 1日
冠動脈CT撮影加算	平成21年 1月 1日
心臓MRI撮影加算	平成21年 1月 1日
乳房MRI撮影加算	平成28年 4月 1日
小児鎮静下MRI撮影加算	平成30年 4月 1日
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	平成22年 4月 1日
外来化学療法加算 1	平成21年 4月 1日
無菌製剤処理料	平成20年 4月 1日
心大血管疾患リハビリテーション料 (Ⅰ)	平成25年10月 1日
脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅰ)	平成20年 4月 1日
運動器リハビリテーション料 (Ⅰ)	平成22年 4月 1日
呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ)	平成18年 7月 1日
がん患者リハビリテーション料	平成24年 5月 1日
歯科口腔リハビリテーション料 2	平成26年 6月 1日
精神科ショート・ケア「大規模なもの」	平成28年 8月 1日
精神科デイ・ケア「大規模なもの」	平成28年 8月 1日
医療保護入院等診療料	平成16年 4月 1日
エタノールの局所注入 (甲状腺)	平成22年 4月 1日
エタノールの局所注入 (副甲状腺)	平成22年 4月 1日
人工腎臓	平成30年 4月 1日
導入期加算 2 及び腎代替療法実績加算	平成30年 4月 1日
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	平成25年 8月 1日
CAD/CAM冠	平成28年 4月 1日
有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算 1 及び 2	平成22年 4月 1日
センチネルリンパ節加算	平成22年 4月 1日
組織拡張器による再建手術 (乳房 (再建手術) の場合に限る。)	平成25年 7月18日
後縦靱帯骨化症手術 (前方進入によるもの)	平成30年 4月 1日
腫瘍脊椎骨全摘術	平成30年 1月 1日
原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	平成29年 4月 1日
頭蓋骨形成手術 (骨移動を伴うものに限る。)	平成20年 4月 1日
脳刺激装置植込術 (頭蓋内電極植込術を含む。) 及び脳刺激装置交換術	平成20年 3月 1日
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	平成15年 1月 1日
緑内障手術 (緑内障治療用インプラント挿入術 (プレートのあるもの))	平成26年 4月 1日
緑内障手術 (水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	平成30年 4月 1日
網膜再建術	平成26年 4月 1日
人工中耳植込術	平成30年 4月 1日
人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術、植込型骨導補聴器交換術及び人工中耳用	平成19年 5月 1日

届出施設基準名	算定開始年月日
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型（拡大副鼻腔手術）	平成26年 4月1日
上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）、 下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）	平成26年 4月1日
内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バ セドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）、内視鏡下 副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成手術	平成28年 4月1日
内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	平成30年 4月1日
乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネルリ ンパ節生検（併用）	平成22年 4月1日
乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリ ンパ節生検（単独）	平成22年 4月1日
乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清 を伴わないもの）及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭 清を伴うもの））	平成28年 4月1日
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）	平成25年 7月18日
肺悪性腫瘍手術（壁側・臓側胸膜全切除（横隔膜、 心膜合併 切除を伴うもの）に限る。）	平成28年 4月1日
食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内 視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術 （内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡による もの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎 盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉 鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視 鏡によるもの）、腔腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）	平成30年 4月1日
経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）	平成27年 2月1日
胸腔鏡下弁形成術	平成30年 4月1日
胸腔鏡下弁置換術	平成30年 4月1日
経カテーテル大動脈弁置換術	平成27年 9月1日
経皮的中心動脈焼灼術	平成29年 9月1日
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	平成10年 4月1日
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 （リードレスペースメーカー）	平成30年 4月1日
両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメ ー交換術	平成16年 4月1日
植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び 経静脈電極抜去術	平成 8年 8月1日
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び 両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	平成20年 4月1日
大動脈バルーンパンピング法（IABP法）	平成10年 4月1日
経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）	平成30年 4月1日
補助人工心臓	平成 6年 7月1日
小児補助人工心臓	平成28年 4月1日
植込型補助人工心臓（非拍動型）	平成29年 4月1日
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	平成30年 4月1日
胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除 （葉以上）を伴うものに限る。）	平成28年 4月1日
腹腔鏡下肝切除術	平成28年10月1日
生体部分肝移植術	平成10年 7月1日
腹腔鏡下脾腫瘍摘出術	平成30年 4月1日
腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術	平成27年12月1日
腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術	平成29年 9月1日
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	平成24年 4月1日
同種死体腎移植術	平成20年 4月1日
生体腎移植術	平成20年 4月1日
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	平成24年 4月1日
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を 用いるもの）	平成29年 7月1日
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機 器を用いるもの）	平成26年 4月1日
腹腔鏡下仙骨固定術	平成29年10月1日
腹腔鏡下腔式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を 用いる場合）	平成30年 4月1日
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）	平成26年 4月1日
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る。）	平成30年 4月1日
胎児胸腔・羊水腔シャント術	平成26年 4月1日
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下 胃瘻造設術を含む。）（医科点数表第2章第10部手術 の通則の16に掲げる手術）	平成27年 4月1日
輸血管理料 1	平成26年 4月1日
輸血適正使用加算	平成27年 8月1日

届出施設基準名	算定開始年月日
コーディネート体制充実加算	平成30年 4月1日
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	平成24年 6月1日
胃瘻造設時嚥下機能評価加算	平成27年 4月1日
歯周組織再生誘導手術	平成28年11月1日
広範囲顎骨支持型装置埋入手術	平成24年 6月1日
麻酔管理料（Ⅰ）	平成22年 4月1日
麻酔管理料（Ⅱ）	平成22年 4月1日
放射線治療専任加算	平成16年 9月1日
外来放射線治療加算	平成20年 4月1日
遠隔放射線治療計画加算	平成30年 4月1日
高エネルギー放射線治療	平成14年 4月1日
1 回線量増加加算	平成26年 4月1日
強度変調放射線治療（IMRT）	平成23年 9月1日
画像誘導放射線治療加算（IGRT）	平成22年 4月1日
体外照射呼吸性移動対策加算	平成24年 4月1日
定位放射線治療	平成20年11月1日
定位放射線治療呼吸性移動対策加算	平成24年 4月1日
粒子線治療	平成28年 4月1日
粒子線治療適応判定加算	平成28年 4月1日
粒子線治療医学管理加算	平成28年 4月1日
画像誘導密封小線源治療加算	平成28年 4月1日
保険医療機関間の連携による病理診断	平成24年 8月1日
保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像に よる術中迅速病理組織標本作製	平成26年 6月1日
保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像に よる迅速細胞診	平成26年 6月1日
病理診断管理加算 2	平成26年10月1日
悪性腫瘍病理組織標本加算	平成30年 4月1日
クラウン・ブリッジ維持管理料	平成10年 1月1日
特掲診療料	
入院時食事療養（Ⅰ）	平成18年 4月1日



診療実績 Clinical Activities

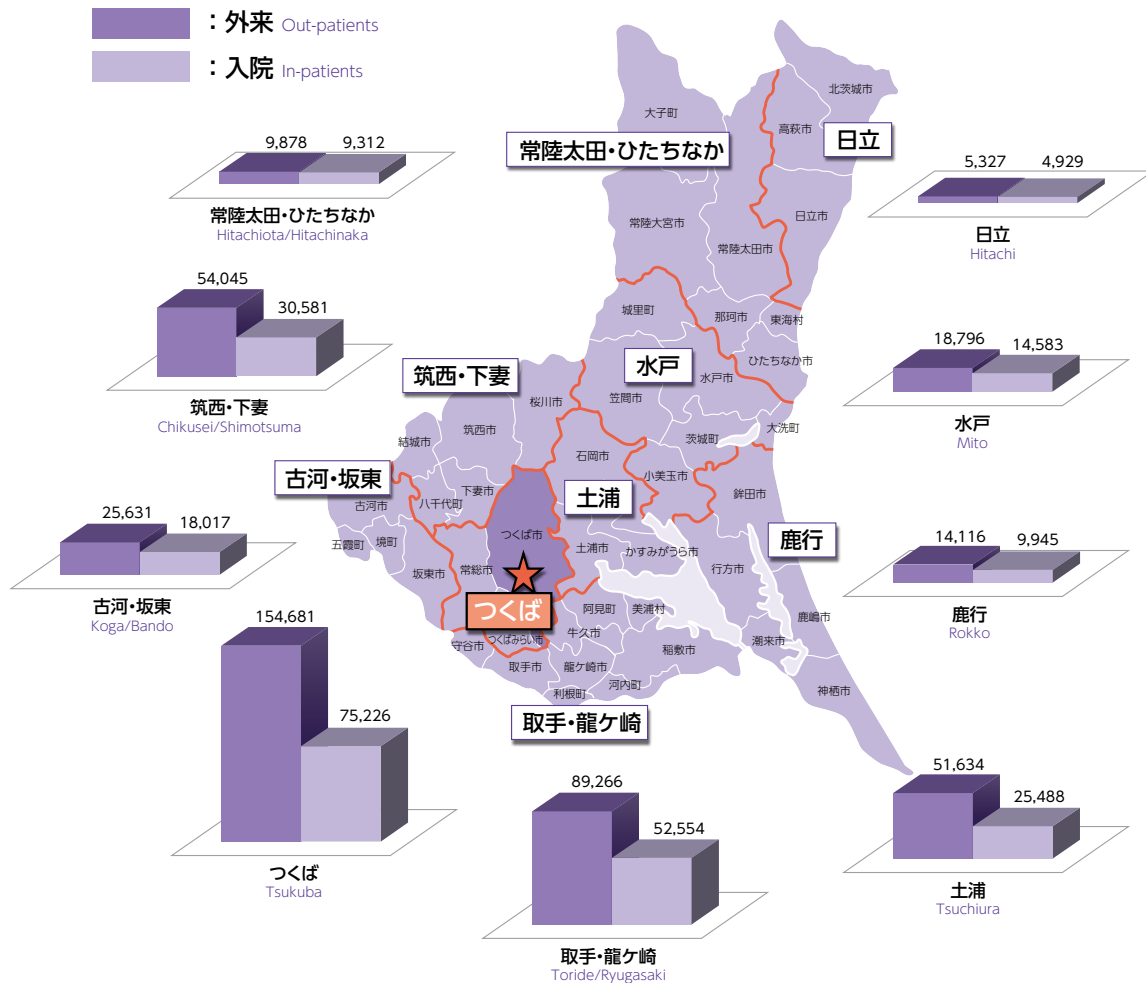
1. 患者数 Number of Patients

平成29年度 2017

①診療科別 By departments

区分 Categories	外来 (244日) Out-patients		入院 (365日) In-patients	
	延数 Total Number	1 日平均数 Average/Day	入院 Total Number	1 日平均数 Average/Day
循環器〈内〉 Cardiology	21,194	86.9	13,865	38.0
循環器〈外〉 Cardiovascular Surgery	4,851	19.9	7,541	20.7
消化器〈内〉 Gastroenterology	25,186	103.2	16,136	44.2
消化器〈外〉 Gastroenterological Surgery	12,931	53.0	14,167	38.8
呼吸器〈内〉 Pulmonology	11,281	46.2	11,016	30.2
呼吸器〈外〉 Thoracic Surgery	3,405	14.0	4,651	12.7
腎泌尿器〈内〉 Nephrology	10,000	41.0	7,069	19.4
腎泌尿器〈外〉 Urology	14,783	60.6	10,822	29.6
内分泌代謝・糖尿病〈内〉 Endocrinology and Metabolism	15,376	63.0	4,905	13.4
乳腺・甲状腺・内分泌〈外〉 Endocrinal Surgery and Breast Surgery	15,041	61.6	3,919	10.7
膠原病リウマチアレルギー内科 Rheumatology	20,090	82.3	8,503	23.3
血液 Hematology	13,306	54.5	15,859	43.4
精神神経 Psychiatry	22,905	93.9	9,340	25.6
皮膚 Dermatology	18,293	75.0	5,536	15.2
小児〈内〉 Pediatrics	17,944	73.5	20,823	57.0
小児〈外〉 Pediatric Surgery	6,488	26.6	5,978	16.4
形成 Plastic and Reconstructive Surgery	6,147	25.2	4,005	11.0
脳神経〈内〉 Neurology	12,159	49.8	10,381	28.4
脳神経〈外〉 Neurosurgery	6,865	28.1	10,982	30.1
脳卒中 Stroke Treatment	651	2.7	5,570	15.3
整形 Orthopedics	34,799	142.6	14,985	41.1
眼 Ophthalmology	30,723	125.9	8,916	24.4
婦人・周産期 Obstetrics and Gynecology	35,324	144.8	23,614	64.7
耳鼻咽喉 Otorhinolaryngology	12,665	51.9	7,027	19.3
麻酔 Anesthesiology	6,047	24.8	14	0.0
歯・口腔 Oral and Maxillofacial Surgery	13,261	54.3	3,316	9.1
保健衛生外来 Preventive Medicine	1,179	4.8	0	0.0
救急・集中治療 Department of Emergency and Critical Care Medicine	4,687	19.2	8,986	24.6
放射線腫瘍科 Radiation Oncology	22,849	93.6	5,091	13.9
放射線診断・IVR Diagnostic and Interventional Radiology	143	0.6	0	0.0
細菌学的診断〈感染症〉 Infectious Diseases	999	4.1	179	0.5
総合 General Medicine and Primary Care	4,186	17.2	0	0.0
病理診断 Diagnostic Pathology	0	0.0	0	0.0
臨床病理 Clinical Pathology	0	0.0	0	0.0
遺伝 Clinical and Molecular Genetics	42	0.2	0	0.0
睡眠呼吸障害 Sleep Disordered Breathing	0	0.0	0	0.0
腫瘍内科 Medical Oncology	745	3.1	0	0.0
リハビリテーション科 Rehabilitation	4,513	18.5	0	0.0
つくばスポーツ医学・健康科学センター Tsukuba Sports Medicine & Health Science Center	1,265	5.2	0	0.0
つくば予防医学研究センター Tsukuba Preventive Medical Research Center	0	0.0	0	0.0
合計 Total	432,323	1,771.8	263,196	721.1

②医療圏別 By medical care zones



2. 病床数 Number of Beds

平成30年 4月 1日現在 As of April 1, 2018

病棟 Ward			一般病棟 General Ward				精神病棟 Psychiatric Ward		合計 Total	
病床 Beds			特定入院病床 Special Admission		一般病床 General Units		精神病床 Psychiatric Ward			
			単位 Unit	床 Beds	単位 Unit	床 Beds	単位 Unit	床 Beds		
B棟	5階	Building B 5F			1	37			1	37
	6階	6F			2	74			2	74
	7階	7F					1	41	1	41
	8階	8F			1	37			1	37
けやき棟	2階	KEYAKI Building 2F	2	48					2	48
	5階	5F	3	36	1	26			4	62
	6階	6F	1	44	1	30			2	74
	7階	7F			2	88			2	88
	8階	8F			2	88			2	88
	9階	9F			2	88			2	88
	10階	10F			2	88			2	88
	11階	11F			2	75			2	75
合計 Total			6	128	16	631	1	41	23	800

一般病棟=759床 精神病棟=41床 合計=800床
General ward: 759 beds Psychiatric ward: 41 beds Total: 800 beds

3. 臨床検査 Clinical Examinations

区分 Categories	件数 Number		
	入院 In-patients	外来 Out-patients	合計 Total
一般検査 Urinalysis	50,186	85,919	136,105
血液学的検査 Hematology	252,184	241,553	493,737
生化学的検査 Biochemistry	567,730	719,100	1,286,830
内分泌学的検査 Endocrinology	34,718	137,379	172,097
免疫学的検査 Immunology	144,594	227,019	371,613
微生物学的検査 Bacteriology	47,066	11,121	58,187
生理学的検査 Physiology	134,188	187,982	322,170
採血・採液等 Specimen Processing	11,215	111,090	122,305
その他検査 Others	10,696	12,558	23,254
内視鏡検査 Endoscopy	2,499	10,808	13,307
合計 Total	1,255,076	1,744,529	2,999,605

4. 放射線検査 Radiographic Examinations

区分 Categories	件数 Number		
	入院 In-patients	外来 Out-patients	合計 Total
一般撮影（単純） X-ray Radiography	35,941	53,315	89,256
一般撮影（造影） Contrast Radiography	1,787	1,188	2,975
X線撮影 X-ray Examination	23,883	513	24,396
X線CT検査 X-ray computed tomography	6,118	11,433	17,551
MRI検査 Magnetic Resonance Imaging	3,227	6,011	9,238
核医学検査 Nuclear Medicine	830	1,635	2,465
放射線治療 Radiotherapy	7,008	10,532	17,540
治療計画 Radiotherapy Planning	499	566	1,065
PET/CT PET/CT	0	0	0
合計 Total	79,293	85,193	164,486

5. 麻酔 Anesthesia

区分 Categories	件数 Number
全身麻酔 General anesthesia	9,185
局所麻酔 Local anesthesia	7,280
合計 Total	16,465

6. 手術 Operations

区分 Categories	件数 Number
循環器〈内〉 Cardiology	1,756
循環器〈外〉 Cardiovascular Surgery	1,671
消化器〈内〉 Gastroenterology	1,178
消化器〈外〉 Gastroenterological Surgery	1,255
呼吸器〈内〉 Pulmonology	15
呼吸器〈外〉 Thoracic Surgery	317
腎泌尿器〈内〉 Nephrology	119
腎泌尿器〈外〉 Urology	866
内分泌代謝・糖尿病〈内〉 Endocrinology and Metabolism	5
乳腺・甲状腺・内分泌〈外〉 Endocrinal Surgery and Breast Surgery	712
膠原病リウマチアレルギー内科 Rheumatology	25
血液 Hematology	39
精神神経 Psychiatry	14
皮膚 Dermatology	761
小児〈内〉 Pediatrics	409
小児〈外〉 Pediatric Surgery	596
形成 Plastic and Reconstructive Surgery	750
脳神経〈内〉 Neurology	24
脳神経〈外〉 Neurosurgery	526
脳卒中 Stroke Treatment	198
整形 Orthopedics	1,193
眼 Ophthalmology	2,748
婦人・周産期 Obstetrics and Gynecology	2,012
耳鼻咽喉 Otorhinolaryngology	1,038
麻酔 Anesthesiology	0
歯・口腔 Oral and Maxillofacial Surgery	2,030
保健衛生外来 Preventive Medicine	0
救急・集中治療 Department of Emergency and Critical Care Medicine	799
放射線腫瘍科 Radiation Oncology	70
放射線診断・IVR Diagnostic and Interventional Radiology	0
細菌学的診断〈感染症〉 Infectious Diseases	1
総合 General Medicine and Primary Care	1
病理診断 Diagnostic Pathology	0
臨床病理 Clinical Pathology	0
遺伝 Clinical and Molecular Genetics	0
睡眠呼吸障害 Sleep Disordered Breathing	0
リハビリテーション科 Rehabilitation	5
つくばスポーツ医学・健康科学センター Tsukuba Sports Medicine & Health Science Center	3
合計 Total	21,136

7. 分娩 Deliveries

区分 Categories	件数 Number		
	成熟児 Mature Infants	未熟児 Premature Infants	合計 Total
正常分娩 Normal Deliveries	643	129	772
異常分娩 Abnormal Deliveries	262	124	386
合計 Total	905	253	1,158

8. 調剤処方および薬剤業務 Prescriptions and medicines

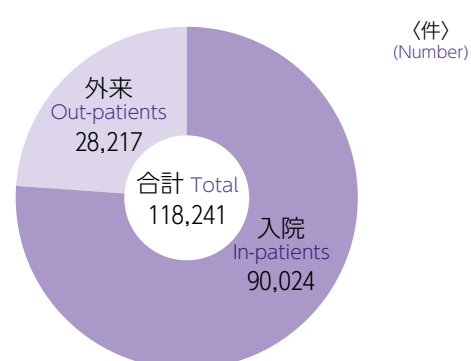
区分 Categories		合計 Total
入院処方せん枚数 Number of prescriptions for hospitalized patients		178,561枚
外来処方せん枚数 Number of prescriptions for outpatients	院内 In the hospital	22,836枚
	院外 Outside of the hospital	179,864枚
院外処方せん発行率（％） Rate of prescriptions issued outside of the hospital (%)		88.7%
注射処方せん枚数 入院 Number of injection prescriptions for hospitalized patients		115,474枚
薬剤管理指導料 算定件数 Number of drug control guidance fees (calculated number of cases)		18,559件
無菌製剤処理料 算定件数 Number of sterile preparations processed (calculated number of cases)		17,344件
注射薬混合件数 Number of injection admixtures	抗悪性腫瘍剤 Antineoplastic drugs	16,220件
	中心静脈栄養剤 Total parenteral nutrition	6,259件
	その他 Others	12,543件
病棟薬剤業務実施加算 算定件数 Inpatient pharmaceutical services (calculated number of cases)		45,714件
特定薬剤治療管理料 算定件数 Treatment administration charges for specified drugs (calculated number of cases)		6,256件

11. 敷地・建物 Campus・Buildings

敷地面積=104,036㎡ (賃貸借5,900㎡含む) Total area					
建物〈構造=鉄筋鉄骨コンクリート〉 Buildings					
棟名 Building name	規模 Size	建築面積 Building floor space	総床面積 Total ward floor space	備考 Remarks	
A棟 (外来棟) Building A (Outpatient clinic)	地上4階 地下1階 Four floors and one basement	2,225.00 ㎡	10,743.00 ㎡		
A棟 (新外来棟) Building A (New outpatient clinic)	地上4階 Four floors	995.00 ㎡	3,233.00 ㎡		
B棟 (病棟) Building B (Ward)	地上12階 地下1階 Twelve floor and one basement	2,626.00 ㎡	29,977.00 ㎡		
C棟 (中央診療棟) Building C (Diagnostic and treatment facilities)	地上5階 地下1階 Five floors and one basement	2,508.00 ㎡	13,763.00 ㎡		
D棟 (特殊診療棟) Building D (Radiation oncology)	地上2階 Two floors	1,031.00 ㎡	1,489.00 ㎡		
F棟 (つくば予防医学研究センター) Building F (Tsukuba Preventive Medical Research Center)	地上1階 One floor	809.00 ㎡	809.00 ㎡		
陽子線医学利用研究センター Proton Medical Research Center	地上4階 Four floors	2,142.00 ㎡	5,278.00 ㎡		
地域医療システム研究棟 Regional Medical Network System Research Center	地上2階 Two floors	450.00 ㎡	825.00 ㎡		
けやき棟 KEYAKI Building	地上12階 地下1階 Twelve floors and one basement	7,122.00 ㎡	45,746.00 ㎡		
春日プラザ KASUGA Plaza	地上4階 (倉庫含む) Four floors	1,332.81 ㎡	4,252.65 ㎡	賃貸借	
計 Total		21,240.81 ㎡	116,115.65 ㎡		
看護師宿舎 1号 Nurses' residence No. 1	地上5階 Five floors	553.00 ㎡	2,160.00 ㎡	50室	50 rooms
2号 No.2	地上8階 Eight floors	258.00 ㎡	1,705.00 ㎡	39室	39 rooms
3号 No.3	地上5階 Five floors	319.00 ㎡	1,520.00 ㎡	38室	38 rooms
5号 No.5	地上5階 Five floors	285.00 ㎡	1,134.00 ㎡	25室	25 rooms
6号 No.6	地上5階 Five floors	174.00 ㎡	796.00 ㎡	22室	22 rooms
7号 No.7	地上5階 Five floors	734.00 ㎡	3,192.00 ㎡	100室	100 rooms
病院宿舎 (旧看護師宿舎4号) Hospital accommodation	地上8階 Eight floors	252.00 ㎡	1,700.00 ㎡	39室	39 rooms
レジデント宿泊施設 1号 Residents and fellows accommodation facility 1	地上6階 Six floors	271.00 ㎡	1,293.00 ㎡	46室	46 rooms
2号 Residents and fellows accommodations facility 2	地上4階 Four floors	666.00 ㎡	2,026.00 ㎡	64室	64 rooms
計 Total		3,512.00 ㎡	15,526.00 ㎡	423室*	423 rooms*
合計 Grand total		24,752.81 ㎡	131,641.65 ㎡		

* =のうち看護師宿舎室数は、313室 * = Of which 313 rooms are nurses' residences

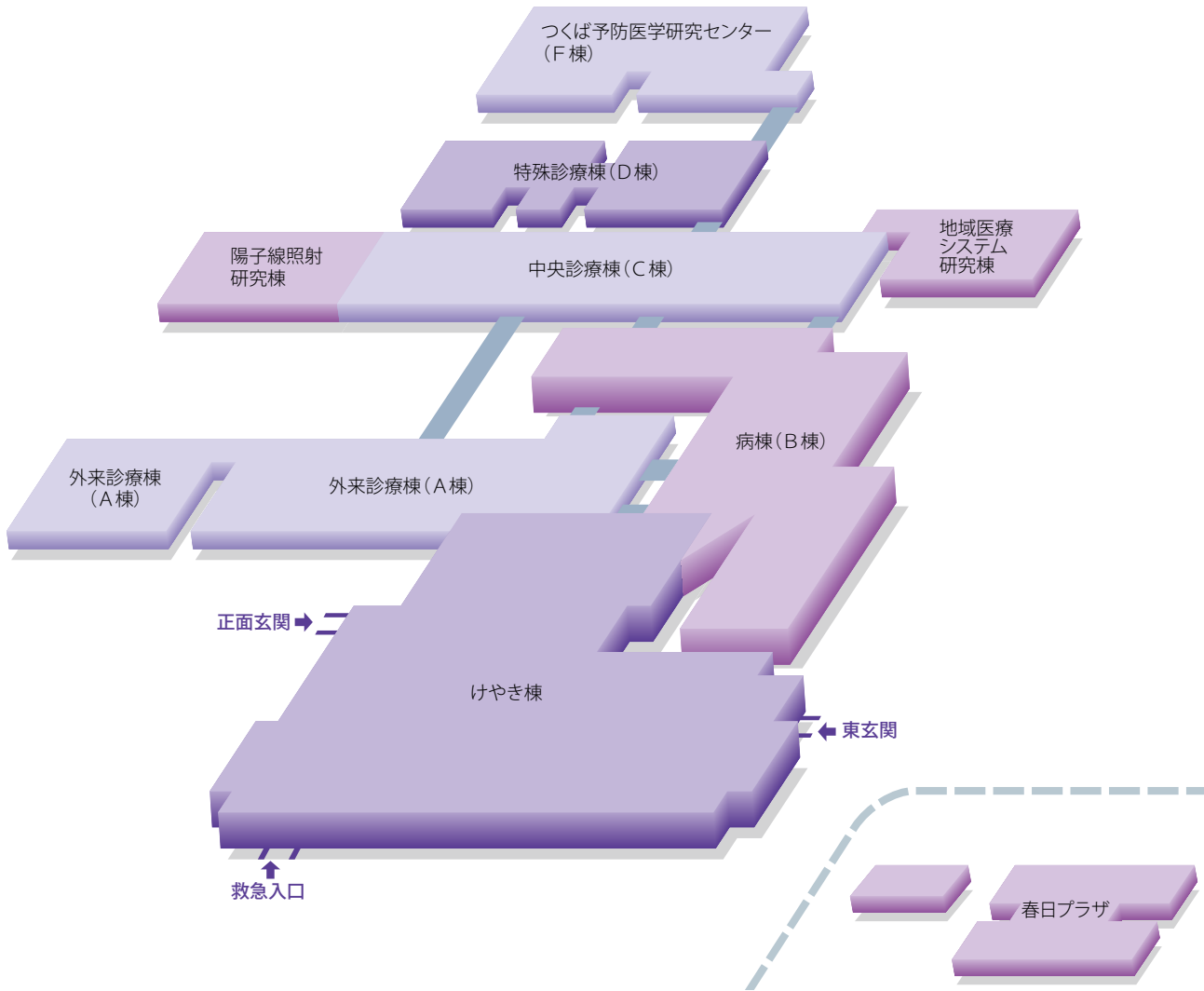
9. リハビリテーション Rehabilitation Service



10. 病理解剖 Pathologic autopsies

区分 Categories	合計 Total
死亡患者数 Number of dead patients	396
病理解剖件数 Number of pathologic autopsies	43
受託解剖数 Number of commissioned autopsies	8
剖検率 Autopsy rate	11 (%)

Building Layout

[illegible]

アクセスマップ

Access Map

①つくばエクスプレス(TX)ご利用の場合

- 秋葉原駅～つくば駅(快速45分)
- つくば駅(A3出口)隣
つくばセンターからバス約5～10分
【つくばセンターバスターミナル6番のりば】(関東鉄道)
 - ▶「つくばセンター～筑波大学循環(右回り)」
 - ▶「筑波大学中央」行き
→ いずれも「筑波大学病院入口」で下車
 - ▶「筑波大学病院」行き → 終点で下車

③高速バスご利用の場合

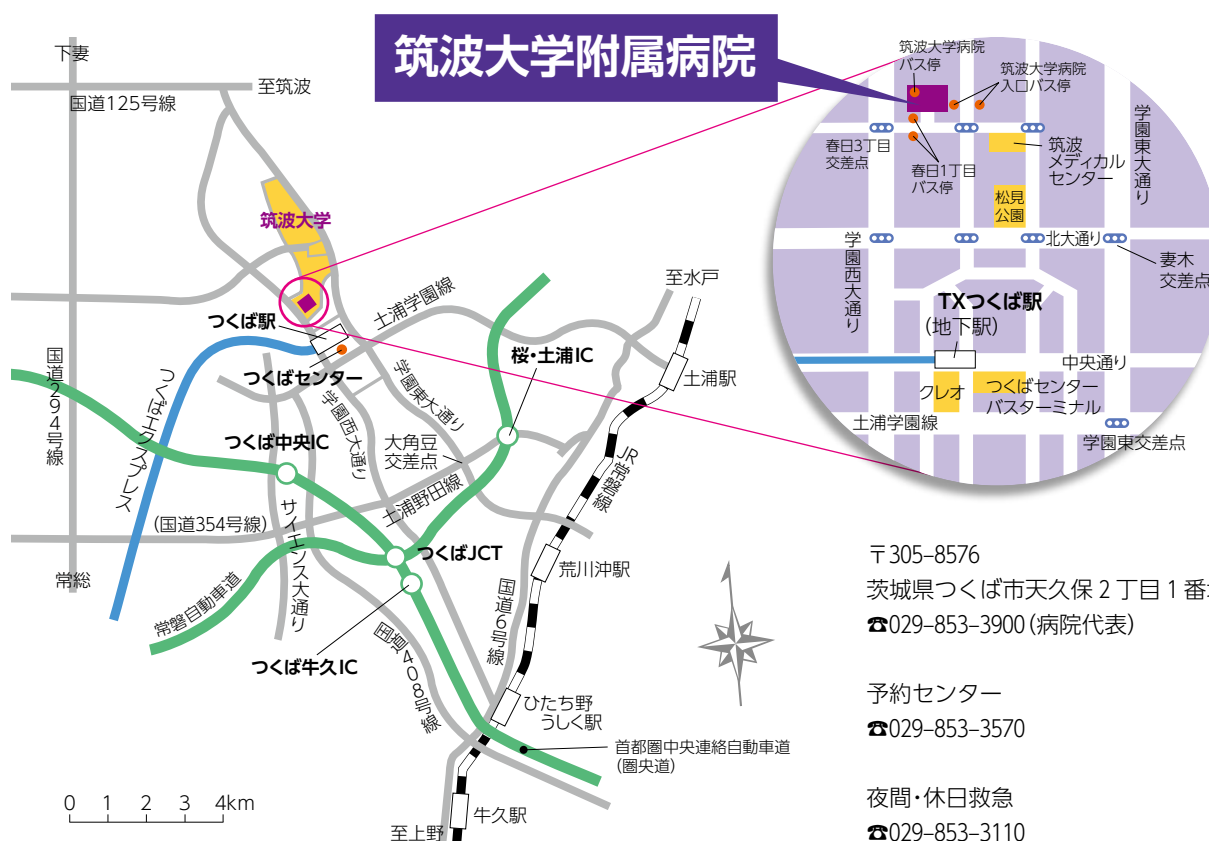
- 東京駅から約70分
【東京駅八重洲南口2番のりば】
 - ▶「筑波大学(中央)」行き → 「筑波大学病院入口」で下車又は「つくばセンター」行き → 終点で下車し、乗り換え(①に同じ)

②JR常磐線ご利用の場合

- 土浦駅からバス約30分
【西口3番のりば】
 - ▶「筑波大学中央」行き → 「筑波大学病院入口」下車
又は「つくばセンター」行き → 終点で下車し、乗り換え(①に同じ)
- 荒川沖駅からバス約35分
【西口4番のりば】
 - ▶乗車バスの行き先等は、土浦駅の場合に同じ。
- ひたち野うしく駅からバス約35～45分
【東口1番のりば】
 - ▶乗車バスの行き先等は、土浦駅の場合に同じ。

④自動車ご利用の場合

- 常磐自動車道「桜・土浦IC」から
 - ▶つくば方面出口から大角豆(ささぎ)交差点を右折、東大通りの妻木(さいき)交差点を左折、北大通りを進み、2つ目の信号を右折、次の信号を左折
- 首都圏中央連絡自動車道(圏央道)「つくば牛久IC」から
 - ▶つくば方面出口から稲岡交差点を左折、西大通りを直進し、春日3丁目交差点を右折
- 国道6号線 ひたち野うしく駅近く、西大通り入口から
 - ▶西大通りの春日3丁目交差点を右折



〒305-8576
茨城県つくば市天久保2丁目1番地1
☎029-853-3900(病院代表)

予約センター
☎029-853-3570

夜間・休日救急
☎029-853-3110

編集・発行

筑波大学病院総務部総務課

〒305-8576 茨城県つくば市天久保2丁目1番地1
TEL 029-853-3900(病院代表)
<http://www.hosp.tsukuba.ac.jp>



PS 80801 - 20/0801

